建築と社會

13

十二月號

附・昭和14年度會員名簿

第二十一輯　第十二號・昭和十三年十二月一日

日本建築協會

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許四〇個・實用新案登録六〇個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式融金付自動閉鎖戸

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐・戸車

各種防火扉・鋼製建具類

應用特殊機械類設計製作

東京市大森區新井宿七丁目

株式會社不二製作所提携

株式會社 **大野製作所**

東京市芝區三田四國町二番地 ・ 電話三田(45)三七三七 三七三八 三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

會　　告

本協會定款第十七條及第十八條並第十九條ニ依リ監事二名、評議員半數改選並評議員補缺選擧ニ付昭和十三年十一月二十五日開會ノ通常總會ニ於テ選擧執行致シマシタ。其結果下記ノ通デアリマス。

監　　事

當選 504票 山脇友三郎氏　　當選 503票 松本儀八氏
次點 1票 小川安一郎氏　　（以下略）

評　議　員

當選88票 中野順次郎氏　　當選85票 小笹德藏氏　　當選83票 岡本松太郎氏
同 80票 矢野義夫氏　　同 78票 石井春雄氏　　同 78票 棚橋諒氏
同 77票 中井新一郎氏　　同 76票 中島喜平氏　　同 76票 米倉威夫氏
同 75票 龜井幸次郎氏　　同 75票 小宮賢一氏　　同 75票 道田泰治郎氏
同 74票 黒田茂氏　　同 74票 巽純一氏　　同 74票 籔中一良氏
同 73票 岩尾保衞氏　　同 72票 石川純一郎氏　　同 72票 猪瀨幸太郎氏
同 72票 桐本楠雅氏　　同 71票 飯田賢次氏
次點 6票 井上福藏氏　　次點 5票 加田安彦氏　　（以下略）

評議員補缺

當選491票 新名種夫氏　　當選487票 小林清氏　　當選484票 鈴木金太郎氏
同 482票 竹中錬一氏
次點 2票 岩尾保衞氏　　次點 2票 龜井幸次郎氏　　同 2票 棚橋諒氏
（以下略）

昭和十三年十二月

社團法人 日本建築協會

建築と社會

第21輯　第12號　昭和13年12月發行

十二月號

目　次

昭和13年度建築界の回顧……渡邊圭吾（1）
東京市建築事業の回顧一年……小野二郎（11）
本年度住宅建築界の回顧……小林清（15）
「發明品時代」を提唱する……古塚正治（24）
生みの惱み……新名種夫（26）
昭和13年建築界管見……鶴田勝（29）
本年度建築界の回顧……水原旭（33）
災禍の昭和13年……藤原義一（35）
昭和戊寅年回顧雜感……城戸久（38）
多難なりし本年の建築界……加藤善吉（41）
本年度建築界を回顧して……田上善吉（43）
昭和13年度の建築關係技術界を回顧して……白川泰（45）
本年度の回顧と來る可き時代の豫想……中野吉彌（48）
商工省の建築統計に現れた銃後の建築界……菅陸二（52）

築造工（大工）資格試驗制度に關する質疑……鈴木忠五郎（59）
第六回全國都市問題會議報告書……中澤誠一郎（64）

・時　報・

阪神地方水害調査圖……（70）
故武田五一博士の供養塔……（69）

學界近事……棚橋諒（74）
ブツク・レビユウ……堀口甚吉（76）

・新建築欄・

岩城硝子株式會社大阪支店
スキー・クラブ（オーストリア）
ハンブルグの遞信省接客室（ドイツ）
ヒトラーユーゲント・ハイムの新計畫2つ（ドイツ）
兒童用の海濱の家（アメリカ）
WGY放送局（アメリカ）
ホリウツドの競馬倶樂部（アメリカ）
Fort Christina State Park の記念碑（アメリカ）

會　報……（51）

・附　錄・
「建築と社會」第21輯昭和13年度總目次
昭和14年度日本建築協會會員名簿

昭和13年度建築界の回顧

渡部圭吾

目次

1. 建築界の概觀
2. 建築界に影響せる戰時諸法令
3. 建築工業の概況を示す各種統計表と建築界の實況
4. 建築設計者と建築業者
5. 鐵鋼工作物築造規則とその影響
6. 建築工事費
7. 建築構造と樣式
8. 防空施設
9. 代用品の研究とその使用
10. 本年度の災害
11. 結語

1. 建築界の概觀　新たに計畫せられた本年度の建築工事の中で、所謂平和建築は殆んどその影を潛め、所謂軍需建築のみとなつたといふても差支ない位である。但し以上は住宅建築を除外してのことであるのは勿論である。

年初に於る內地の建築工事の計畫は相當旺盛なものであるやうに見受けられたが、其後に續出した戰時諸法令のために、實際工事は出遲り勝となり、或は遲延し或は中止となつたものがあるといふ狀勢となつた。然し、不況ではあつたが本年度にありても相當量の工事はあつたと思はれる。諸種の統計が未だ纏つてゐないから正確なその全貌を知ることは出來ないが、最近三ケ年の平均量の工事はあつたものと推定される。鮮滿地方は近年に見ざる建築景氣であつた。然し材料の不足、輸送の困難等で、本年に完成せらるべき工事が完成せられず、明年度に繰越されるといふ狀勢となつたのである。

2. 建築界に影響せる戰時諸法令　戰爭が建築界に及ぼす影響の大なることは、多くの人々の考へ且少くとも建築工業に關係せる人々の既に覺悟せられたところであつた。戰爭が莫大な資材を必要とし、勝つためには如何なる犧牲を拂ふも之等の資材を生產し準備せねばならぬ、又多くの若人が召集せられ、戰士又は準戰士とならねばならぬ。かくして人的にも、物的にも、有形に、無形に、その何たるとを問はず、何程か戰爭に役立つものは悉く國家のために奉仕せねばならぬのである。かかる事態に即應するために、昨年度に於て既に吾々國民として、最も重大なる法律の國家總動員法令の一部が發動せられたのであつた。即ちこれまで發動せられたのは國家總動員審議令、工場事業管理令、醫療關係者職業能力申告、學校卒業者使用制限令等であつたが、最近更らに第11條及び第21條の發動を見んとする形勢となつた。斯くしてこれまで戰時に對應すべき經濟關係の諸法令が多數發布施行せられた。その中で吾々の建築界に關係する、その主なるものを示せば第1表の通りである。

第1表　建築界に關係ある主なる戰時經濟諸法令

法　　規	施行年月日	要　　點
臨時資金調整法	12. 9. 27 13. 8. 15	資本金50萬圓以上ノ會社ガ10萬圓以上ノ資金ヲ使フ際許可ヲ要ス 同上　20萬圓　同上　5萬圓同ニ變更事業資金調整標準ノ中明礬石礬土頁ガ（甲ノイ）ナリシヲ（甲ノロ）アセチルセルロース絹絲（乙ノロ）ナリシヲ（乙ノハ）亞麻糸（乙ノイ）ナリシヲ（乙ノロ）ドラム罐（甲ノロ）ナリシヲ（乙ノロ）ガソリン機關（甲ノイ）ナリシヲ（乙ノイ）ニ格下ゲ等67ノ格下ヲ爲ス
輸出入品等臨時措置法	12. 8. 10	①輸出入品ノ制限又ハ禁止ヲ爲ス　②需給關係調整ノ爲製造制限使用制限配給統制等ヲ爲ス　③コノ機關トシテ臨時物資調整局　需給調整協議會ガアル
臨時輸出入許可規則	12. 10. 2 12. 11. 6 12. 12. 24	甲、輸入制限　木材、綿、毛ノ3品目 乙、輸入禁止　麻糸、ルーフインク、カンバス、壁紙　煉瓦、瓦等260餘品 丙、輸出禁止　軍需ノ兎毛皮、ナフタリン、自動車ソノ他10數品 丁、輸入ヲ確保シ配給統制スルモノ　白金、銅、錫等ノ國內配給統制
外國爲替管理法	8. 3. 29 12. 8. 28 12. 9. 10	每月100圓以上ハ大藏省ノ許可ガイル、コノ自由取引限度ハ當初每月3萬圓、ソレガ1.000圓トナリ、100圓トナル
暴利取締令	10. 5. 6 12. 10. 26 13. 7. 14	①暴利ヲ得ントシテ買占、賣惜又ハ暴利販賣ヲ取締ル②指定品ノ定價表示
物品販賣價格取締規則	13. 7. 9 13. 7. 28	①期日ヲ定メ公定價格ノ設定（現在米材丸鐵鐵骨ゴム製品、綿製品、トラック賃等ニ設定）中央物價委員會地方物價委員
鐵鋼工作物築造許可規則	12. 10. 20 13. 7. 15	構造用鐵骨鐵筋50トン以上ハ許可ヲ要ス 右ノ中50トン以下ノ場合及薄鋼板ニモ適用サルルコトトナル、尙從來許可ヲ要求セザリシ工作物ノ種類11ナリシヲ6ニ減少ス
鐵鋼配給統制規則	13. 7. 1	普通鉄鐵普通壓延鋼材ノ購入ニハ切符ヲ要ス
鉄鐵鑄物製造制限規則	13. 5. 15 13. 7. 1	
鋼製品製造制限規則	13. 8. 15	
銅使用制限規則	12. 11. 10 13. 5. 1 13. 8. 15	
鉛亞鉛錫等使用制限規則	13. 7. 15	
米松販賣規則	13. 7. 9 13. 11. 28	改正
ゴム使用制限規則	13. 7. 9	
揮發油及重油販賣取締規則	13. 3. 7	購入ニハ切符ヲ要ス

以上のうちで、12年度に施行せられたものを表示してあるが、特に大切なものを記載した。それ等の中には本年度に於て更らに改正せられたものもある。

資金調制法は昨年度に施行せられ、本年度に於て更らに其一部を改め強化せられ、特に戰爭に直接關係深き8種の產業に限りて「甲のイ」に指定せられ、他は何れもその格下げを見たのであつた。然して之等產業にあらざる建築工事は容易に許可せられないやうになつた。尙前年度に於て許可せられたものにありても、その工事の中止又は縮少せらるる運命となつたものも少くなかつた。

第2表　22都市建築統計　構造別

年月	總數			鐵骨鐵筋コンクリート造			鐵筋コンクリート造			鐵骨造			木造			其他		
	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費
昭和12年1月ヨリ6月マデ	78.156	9.224.965	281.607.406	343	826.177	77.559.753	853	571.912	39.238.175	1.107	661.900	32.626.245	74,692	7.153.258	131.671.312	161	21.718	511.921
昭和13年1月ヨリ6月マデ	66.401	7.497.170	192.918.875	61	80.998	6.583.415	773	313.048	20.039.937	9964	640.046	34.850.481	64.458	6.454.623	131.175.319	145	8.355	319.723
同上比率	0.84	0.81	0.69	0.18	0.10	0.09	0.91	0.58	0.52	0.87	0.96	1.07	0.86	0.93	1.00	0.90	0.39	0.62

3. 建築工業の概況を示す各種統計と建築界の實況

各種産業統計表中吾國の建築工業隆盛の指標となるべきものは、主要22都市建築統計、產業計畫資本及その拂込資本統計及び事業活動指數等である。國債、地方債、各種團體起債等は官公廳建築工事とは關係あるか、吾國の官公廳建築工事量は約1割23分に過ぎないし、本年度にありては之等の工事は大削減を見たのであるから玆には省略する。

22都市建築統計　用途別

年月	住居建築物			工業建築物			商業建築物			其他		
	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費
昭和12年1月ヨリ6月マデ	44.129	3.858.179	73.550.476	16.447	2.589.824	78.428.746	13.745	2.119.882	103.934.332	2.835	657.080	25.693.842
昭和13年1月ヨリ6月マデ	35.293	3.097.378	65.509.782	18.869	28.72.543	83.559.949	10.156	1.032.820	24.315.977	2.083	494.429	19.533.167
同上比率	0.79	0.80	0.89	1.15	1.11	1.07	0 74	0.49	0.23	0.73	0.75	0.76

建築統計　主要地方別

年月	京濱			名古屋			京阪神			北九州		
	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費	棟數	床面積	工事費
昭和12年1月ヨリ6月マデ	38.308	3.900.471	129.002.417	6.888	801.619	22.354.328	24.554	3.518.965	106.306.589	4.242	539.724	14.255.445
昭和13年1月ヨリ6月マデ	35.865	3.531.766	98.557.720	1.606	802.008	19.118.459	18.706	2.471.669	62.533.752	3.345	395.756	8.019.041
同上比率	0.93	0.91	0.77	0.27	1.00	0.89	0.77	0.70	0.59	0.80	0.73	0.56

第3表　本年度の銀行會社計畫資本調

	新設	增資	社債	合計	割合	對前年增減(△)	對前々年增減(△)
金融業	—	10.000	—	10.000	0•4	△ 3.050	500
倉庫業	3.400	5.000	—	8.400	0•3	△ 3.200	7.600
保險業	—	—	—	—	—	—	—
運輸業	42.025	22.025	50.000	24.050	4•5	26.815	92.300
鑛業	74.655	419.270	15.000	508.925	20•4	276.765	429.940
電氣瓦斯	50.000	—	40.000	90.000	3•6	12.965	△ 266.215
製造工業	551.521	783.639	162.000	1.497.160	60•0	△ 49.958	1.094.608
水產業	33.850	—	—	33.850	1•3	21.580	2.619
農林業	5.080	1.800	—	6.880	0•2	△ 37.120	△ 5.670
商業	56.236	2.360	—	58.586	2•3	97.044	△ 21.939
雜業	86.130	14.750	63.000	163.880	7•0	119.525	82.825
合計	902.897	1.258.834	330.000	2.491.731	100•0	△ 18.302	1.231.969

（備考）　各年共1月8月間。單位千圓。日銀調。

第4表　事業活動指數（東洋經濟）　ノルマル＝100　　△＝暫定

昭和6年平均	87.4	昭和13年1月	△ 106.5
〃 7年 〃	90.1	〃 2月	△ 108.5
〃 8年 〃	96.9	〃 3月	△ 109.2
〃 9年 〃	103.3	〃 4月	△ 107.9
〃 10年 〃	105.9	〃 5月	△ 105.6
〃 11年 〃	106.2	〃 6月	△ 104.6
〃 12年 〃	114.8	〃 7月	△ 103.8

第2表によれば、本年度の前半期特に4月までの新規工事は昨年同期に比して少いことは事實であつたろう。その理由は昨年後半にかけて發令された諸法規、特に鐵鋼工作物築造規則には著しき影響を蒙つた。年末より年初にかけ相當の工事計畫はあつた、悉く立遲れたのであつた。然し、同統計に示されてゐる内容が内地全體の推勢を示してをるものとは思はない。その理由は資金調制法の中に屬する産業の多くは、都會地に計畫さるべき性質のものでなかつたといふ點から見て、又事實新規工事が地方に分散されてゐる點から見ても解る。又、内地に於る工事量が最近三ケ年の平均量よりも少いことはないといふ證據は5月以後に出た工事量によりても解る（未だ全部の統計は見ないけれど）又建築景氣の羅針盤と稱せられる本年度8月までの事業計畫資金統計並に同拂込資本統計、（第3表）及び事業活動指數、（第4表）を見ても想像し得られる。但し計畫資本の拂込統計が、そのまま建築工事量を表はしてゐるものではないが、産業の種別によりて建築工事費となるべき「ある歩合」があるから、これを集計すればその大要は知ることが出來る。例へば本年度の拂込資本の中で、建築工事費の割合に多い商業資本の拂込少く、同じく割合に少い工事費をもつ鑛業資本の拂込が多かつたことなどは注意すべき點であらう。事業活動指數

はその時期の點で異るところあるけれども大體に於て建築景氣の線に添ふものである。以上の統計や指數から見ても今年度の工事量は昨年度に比して1割內外の減少に止まるものであると推定されるのである。尙本年度の建築工事の概要を業種別に概觀すれば次の通りである。

官公共同團體工事		工業用工事	
軍關係工事	著增	資金調制法甲に屬するもの	著增
その他の一般工事	著減	〃 乙 〃	漸減後著減
商業用工事	著減	〃 丙 〃	著減
		一般住宅工事	微減後漸減

吾國の產業が戰時體勢化したこと、建築工事の分布にも著しき變化を與へたことは前述の通りである。これまでの大部分の工事は、凡て主要都市に集中せられてをつたが、戰時體勢の今日では、原料を取得する關係と積出積込等の輸送に關する便不便から、更らに取扱ふ材料が主として重工業に屬するもののみとなつたから、之まで、あまり工事のなかつた九州地方、東北地方、北海道地方へも、續々大工場が設立せられるやうになつた。朝鮮滿洲等にあつては軍施設を急施せねばならぬといふこともあつたが、殆ど前年までに見ない景氣を呈した。

4. 建築設計者と建築業者　建築設計事務所にありてこれまで美術工事を主してをつたところ、並に軍需工業に關係のない工事を御得意としてをつたところは、甚だ閑散であつた。けれども軍需工業に關係をもつ、然も大財閥を背景としてをつた事務所は相當繁忙であつた。一般に小設計事務所で商店又はビル等を主としてをつたところは甚だ惠まれなかつた。建築業者にありても、これと同樣で、小住宅工事を專門としてをつたものは、左程でもないやうであつたが、下半期となつてからは餘程心配しなければならぬやうである。

大請負業者は夫々相當量の工事を獲得したが、軍需工業に關係少なかつた中位の業者は相當の打擊を受けてをるやうである。

建築技術者の需給も現在のところ過不足がないと言ふても差支ない程度である。唯工事の種別的變化、並に地域的變化が大きかつたために、その移動が大量に行はれた。從つてその職を失つたものも續出した狀況にあつたが、少壯にして腕のある技術者は、その需要が甚だ多く容易に需め得られなかつた。

5. 鐵鋼工作物築造規則とその影響　本年度の建築工事に最も大なる影響を與へ、尙今後も持續するであらうと考へられる法律は、鐵鋼工作物築造規則である。同法は本年7月9日に一部改正せられ鐵鋼50噸以下の場合並に薄鋼板の場合も適用せられるやうになつた。從來許可せられた工作物の種類は11であつたが、改正後は6に減少せしめられた。今日鐵鋼に關する統計や數量の發表は禁止せられてをるから、本年度に使用せられた鐵鋼消費量は知る由もないが、昭和9年には、土木建築工事に約80萬噸の鐵鋼が消費せられてをつたから、昨年度にあつては 100萬噸內外の消費を必要としたのであつたらう。昭和11年度の

各種鋼材の生産額は第5表の通りであつた。本年度にありては相當量の製造制限を見たやうである、その種類とその制限量は時期によつて異つてをつたが、7月より8月までの間では第6表のやうな割合であつた。

第5表　昭和11年度各種鋼材の生産額

棒	鋼	1. 060. 700	薄	板	443. 100
形	鋼	585. 900	鋼	管	228. 700
線	材	504. 900	帶	鋼	107. 800
厚	板	953. 800			

第6表　昭和13年7月より8月までの鋼材制限率

昭和13年7—9月鋼材減産率

棒	鋼	10%	薄	板	35%
小 形	鋼	10%	鋼	管	25%
線	材	5%	帶	鋼	5%
厚	板	5%			

斯様に鐵鋼材が制限せられたその上に、資金調制法の中に指定せられたもの、前に述べた許可なしに築造し得る工作物の種類は、その多くが鋼材を要するものであつたから、鋼材の配給が不圓滑であつたことは當然過ぐる位であつた譯である。故に鐵鋼配給の切符を手に入れたとしても材料が手に入れる事が出來なかつた。多くは二ケ月内外の日子を要した或はその以上の時日を經過するも尚手に入れることが出來なかつたこともある。最近にありては配給見込立たざるために、建築許可をも得られないやうなことも起りつゝある。かゝる狀態が續く限り生産擴充のために、工場の擴張增設が續出することありとするも、其實現が著しく困難となり、その着手期又は竣工期の遲延することが脫れないであろう。本年の第四半期もかゝる狀態のままで越年し、今後も尚このままの狀態が續くであらうと思はれる。

斯くの如く、鋼材の入手が困難であるから、今日まで木造建築に變更せられたものも相當多かつたが、今日も急施を要するものは、差支ない限り木造建築に變更さるるであらうことは想像に難くないのである。

6. 建築工事費　主要建築材料の前年度6月迄の對比は第7表の通りである。これによればその高騰率は13%であるが、同表に示されない內地材、羽柄物は當大阪地方にありては約35%であり、板類は約40%、石綿浪板の如きは倍以上の値上りを示してゐるから、地域によりても異るが相當の騰率を示してをるのではないかと思はれる。銑鐵物、銅、鉛亜鉛、錫等の使用は殆ど禁止的であるから、その製品は著しく騰貴してゐる。綿、麻、毛等の製品も同樣であり、これが代用品を求めんとせば新たな價格によらねばならぬ。揮發油重油等の制限も次第に强化せられ、材料輸送は船腹、貨車、トラック、馬力等の不足で、著しく困難となり、施工用の機械、器具、附屬材料、同消耗品等も、入手漸やく困難とな

つて來たので、間接費等も意外に高くなるのが止むを得ないことと思はれる。勞働市場にありては、その地域と職業によりて一樣ではない。鐵工、鳶等の職工は著しく不足を感ぜられた、昨年度に於ては名古屋地方に急騰を見たが本年は北鮮地方が著しき勞働力の不足を見た。以上は壯丁の應召による熟練工の不足と、地域的に軍工事又は軍需工事が集中せられた結果であらう。建築勞働賃銀は本年9月と前年3月との比較であるが第8表に示した通りである。

第7表　建築材料の本年6月と前年6月との比較

名稱		12年6月	13年6月	增減
栗石	(立坪)	23.00	27.00	+ 0.18
砂利	(〃)	25.00	29.00	+ 0.16
セメント	(袋)	97	1.11	+ 0.15
丸鋼(定尺9m)	(瓩)	225.00	240.00	+ 0.07
山形鋼	(〃)	255.00	225.00	− 0.1
工〃	(〃)	285.00	300.00	+ 0.04
溝〃	(〃)	290.00	300.00	+ 0.03
鋼板(6m12m)	(〃)	285.00	280.00	− 0.02
亞鉛引平板(30番)	(枚)	1.05	1 35	+ 0.3
瀝板(6尺)	(〃)	85	1.16	+ 0.3
石綿スレート(6尺×2尺)	(〃)	1.70	2.40	+ 0.4
天然スレート(一分)	(屋根坪)	14.00	15.00	+ 0.07
米松丸太(60吋—9吋)	(本)	92.00	110.00	+ 0.2
板硝子(並1分)	(平尺)	135	135	
〃(磨2分)	(〃)	2.30	2.400	+ 0.04
フローリングブロツク	(坪)	11.00	12.00	+ 0.09
タイル	(100枚)	6.50	7.00	+ 0.08
リノリユーム	(1卷)	170.00	210.00	+ 0.2
			平均	+ 0.13

第8表　建築勞働賃銀の本年9月分と前年3月分との比較表

名稱	12年6月	13年6月	名稱	12年6月	13年6月
大工	2.60	3.10	錺工	2.10	2.10
手傳(鳶人夫)	2.10	3.50	鍛冶工	3.50	3.20
土工	3.20	2.80	鐵筋工	2.80	3.20
石工	3.20	2.30	左官	2.30	2.80
煉瓦工	2.80	2.60	平均比率	1.00	1.11

これによれば、勞働賃銀は左程の騰貴を見せてゐないが、熟練工である壯丁の應召、之れに代る不熟練工又は轉業者の侵入は勞働賃銀の上昇を見せなかつた因子であると思ふ。然るに熟練職工の實收入は相當增加したことも事實であり、同時に單位の仕事當りの勞賃は騰貴してゐる。

斯くの如く、凡てに亘りて上昇傾向を示してをるから、坪當り工費は相當の上昇を示し

てをるだらうと思はれる。時期的に地域的に、又は構造種類等によりて異るが、鐵筋コンクリート造、鐵骨工事では1.5割～2.5割木造では2.5割～4割の上昇であらうと言はれてをる。然し正確なことはその場所と時とによりて異るから言へないが、前述は概觀しての事である。

7. 建築構造と樣式　鐵材やセメント等が統一せられて劣惡な材料が少くなつたといふ理由から、昨年度に於てその許容應力强度が引上げられた。本年度は凡てこの新許容强度によりて設計せられたのだ、未だに劣惡材料は絶へたとは言はれなかつた。鐵材の鎔接も昨年度より僅かではあるが、これが使用を許可せられ、鐵材節約のために相當廣汎に使用せられた。本年度に於ては無筋コンクリート築造、竹筋コンクリート築造なども眞面目に研究せられ、既に特種の場所にはその實行を見たところもあつた。廣梁間の構造小屋組架構なども、今日研究せられてゐるから遠からず實現せられるであろう。基礎工事の研究も漸やく緒についたやうに樣々の研究が發表せられた、多年問題となつてをつた鋸屋根の風壓研究も本年度に於て解決せられた。煉瓦造建築は耐震的でないといふ理由から永い間あまり建築せられなかつたが、防火的なるために、又鐵筋煉瓦構法が發明せられたために、今後も相當にこの建築工事も見られるだらうと思ふ。

建築樣式に關しては數年前から、その革新が叫ばれてをつたが、兩三年前からはあまりその聲が大きくないやうになつた、殊に戰時にあつて樣式を云々するやうな工事がなくなつたからでもあらうが、本年度にありては、尙更らその聲が小さかつた。新樣式の發生は主して一國又は一社會に起る新しい思想に基いて派生するものである。今事變勃發と同時に、澎湃としてその勢を增しつゝある全體主義思想は、遂に建築樣式に革新をもたらす發端となるものでないかと想像せられる。

8. 防 空 施 設　本年度に於て、特に見脫せない事實は防空施設又は防空建築に關する研究であらう。軍部の勸告によるもの多いが、何れの住宅事務所工場等でも燈火管制設備を設けなかつたところはない、又重要な建築は防空建築とせられたものも多く、その色合も飛行機の發見をカムフラーヂする樣な色とするやうになつて來た。防火壕、防護室等の諸設備は未だ一般化せられてゐない。工場の防空配置、都市の防空計劃等に至りては未だ研究の域を脫してゐない。去る11月15日、大阪驛前に於て燒夷彈の實驗、耐火又は防火建築の實物研究は相當な結果を得るだらうと思ふ。又本年度にありては、防空建築研究のために、屢々、上海、南京地方に建築技術者の派遣を見、實物による研究をなしたことは今後に於て益するところ多いであらう。

9. 代用品の研究とその使用　現時局に於て、多大の關心を持たねばならぬものは、建築材料の代用品の研究とその使用であらう、今日まで研究せられ多少たりとも使用せられたものは、下の通りである。

1. 水 產 動 物 皮 革　　家具裝飾品

2. 大豆カゼイン	牛乳カゼインの代用、水性ペンキ、糊劑
3. 再成又は合成ゴム	床材料、施工用器具用品
4. 合成樹脂	塗料
5. デキストリン	アラビヤゴムの代用
6. 水棲動物ゼラチン	ゼラチン代用
7. マラオン	麻代用品
8. グラス又はスラツグウール	石綿代用品
9. 陶磁器	溝板、下水蓋、棚板、ネームプレート、通風窓格子、床下通風孔蓋、棚受ブラケツト、鉢、槽、調節ボールト
10. 高力陶器	同上
11. アルミニユーム、ステンレススチール	銅、錫、ブロンチ、眞鍮等の代用品
12. クローム	白銅の代用品
13. ベークライト、セルロイド、ヴアルガナイスド ファイバー、ストニー、フエニキサイド	小型金物代用品
14. エタニツトパイプ、ファイバーコンヂツト	各種金屬パイプの代用品
15. チツソライト、チツトロイド、プリスライト	各種美粧板（甲板、羽板、天井板）
16. ヒウム管	縫實水道管代用
17. テツクス（ファイバー高壓成型品）	コルク板等の防熱、防音材料
18. ボールコンクリート	長杭、導水管、電柱等
19. プライウツト及びベニヤ板	各種造作材料建具家具その他

本年度は代用品の研究の最も盛んな年度であつたから、代用品の發達に關しては時代を劃するものであつた。

其の外、これまでに、既に始められてをつたものではあるが、ペンキ材料のリトホン、硫酸バリウムその他の多量添加、豆油、魚油、鑛油の使用、綿毛絹に代りて人絹、スフ等の代用等に至りては枚擧にいとまない程であつた。

10. 本年度の災害　建築者に反省を促した自然の脅威の中で、最も大なるものは、阪神地方に於る水害であつた。山崩れと山津浪、數千の家屋が一朝にして埋沒せられ、破壞押流せられ、約 600の精靈を失ふたのである。故に住宅地の撰擇は風光明媚の地をのみ目標とすることが不可であることを知つた。此の外にも關東地方宮崎縣三重縣等に外では北鮮北滿の洪水は、その被害甚大なるものがあつた。宮城、福島地方に强震があつたが、被害僅少であつた。臺北及北鮮に於て空襲はあつたけれども被害は記するに足らぬものであつた。現場に於る災害防止のために制定せられた安全衞生規則は11月1日より實施せらるることとなつたが、時局を鑑み地方の事情により、その一部、足代板と足代の金物緊結の條項が留保さるることがあることになつた。

11. 結　語　要するに、事變下の建築界は凡てに於て一大變革を餘儀なくせられ

た。工事の種別に於て、工事の地域に於て。従つて建築關係者も移動と轉向とを餘儀なくせられた。平和建築から軍關係及び軍需建築へ。又地方へ建設せられる工場や施設が次第に多くなつたから、又鮮滿及び北支の建築工業も次第に多くなつて來たのだから勢ひそれらの地方へ移動せられねばならぬ。一般に工事の規模が著しく大きくなつたから大財閥や軍需工業工事等を背景とせる事務所や大請負業者は相當恩惠を蒙つてをるやうである。その他のものや、中、小業者の中には惠れないものが多かつた。今後に於ては、時代がかゝる變革期に遭遇してをるのだから、明敏にして進取的なものは大いに發展する機會を得るだらう、が、躊躇逡巡する退嬰的なものは、次第に後退せざるを得ないであらう。尙其後の形勢については更らに筆を改めて書くこととする。　　（13年8月18日）

東京市建築事業の回顧一年

小野二郎

省みて之は働き甲斐のない一年であつた。唯壓倒的な時局の動きの裏に我々は課せられた事業達成の爲めに大の出る努力を致した事を回顧して悔ひざる記錄とする。

年度豫算成立と職制改正

昭和十三年度の東京市建築關係議決豫算は近年に無い膨脹を示したので、物資統制に依る鐵鋼關係建築の大部分の遂行が困難であるとの見通しを附しても、許可さる可き木造建築のみを以て其額は 1,000,000圓以上に上り、加うるに懸案の市廳舍建設敷地も本年二月丸之内に決定を見たので其調査費の議決も終へ、我等は此處に多忙なる年次を迎ふる事が出來た。

尙此外に第十二回オリンピツク大會々場建設費豫算等も、急に追加議定されたので、此等事業量の增大せる機會を捉へて四月多年我等の宿望とせる、東京市建築部門の獨立の爲めに、從來政治的空名の存在に見えた臨時市廳舍建築部を廢し、從來の土木局建築課を臨時建築部に昇格獨立せしめて、之と統合する事の職制改正を成就する事が出來た。此新設された臨時建築部には、管理課及び第一乃至第三工營課の四課を設くる事とした。

斯の如き急激なる建築事業量の增大は、東京市としては帝都復興事業の施行に當つた時以外に經驗しなかつた事で、新しく成立したる建築部の機構は、其整備の爲めに部員の增加を必要とするに至つた。當時は國內一般に軍需關係事業も多く、建築技術員の招聘には困難を感じたが、兎も角約六十名の新採用者を迎ふるを得、在來部員と併せて約二百六十名の陣容を整うる事が出來、之を以て多忙なる局面に對應する事としたのであつた。

凡そ官公廳に於て、建築を掌理する常置の執務機構の能力と、不相應に事業量の過不足が生ずる事程仕末に困る事は無いので、一端機構の擴大を計畫する場合に於ても、夫れら可及的に持續出來る程度の後年次に亘る事業量の豫想が立てられる事が望ましい。オリンピツク大會建設事業の場合に於て、夫れは尨大なる昭和十五年迄の短期の臨時事業である之を臨時に設置せる機構に於て掌理する事無く、常置の機構に於て掌理する事は平常の場合出來難い所であるが、偶々オリンピツク大會擧行後の昭和十五年以降に於ては勿論、事變の終局も期待し得可く、其場合に於て吾々は今計畫中の新市廳舍建築を遂行し得るものと豫想したのであつて、此事業達成に要する四箇年を加算する時に、少くとも今後七箇年に亘る建築部の事業量は不變である事の見通に充分なる確信を置いたのであつた。

オリンピツク大會建設事業の發端より中止まで

第十二回オリンピツク大會は、昭和十五年東京市が主催都市として之を開催する事に、昭和十一年ベルリンの國際オリンピツク委員會に於て決定された、而して之が招致に關しては、東京市が昭和八年ロスアンゼルス大會以來皇紀二千六百年を記念し、且つは東亞に

於ける最初の大會として之を開催す可く、各種の機會を利用して熾烈なる招致運動を繼續したのであつて、其結果がベルリンの決議となつたものである。

爾來我國オリンピック國內委員、及體育主務官廳たる文部省（後に厚生省）日本體育協會東京市等の代表者によりて、オリンピック組織委員會が結成せられ大會の開催計畫が進められたのであつたが、會場の建築に關しては昭和十二年二月迄建築敷地も、又建設豫算等も未決定の儘に過されて居た。此間の經過は、結果より見れば關係當事者が唯に空論に終始したものゝ如くであつて、重要なる國際事業の遂行に必要なる設計及工事の所要期間を徒らに空費し眞に遺憾に堪えざるものであつた。

本年三月に至りて東京市建築課が計畫に參與する事となり、神宮外苑の陸上競技場の改造に依る主競技場を除き、水泳競技場、蹴球場、陸上代用競技場、室內競技場、オリンピック村等の建設を東京市に於て擔當する事に決定し、追加豫算を市會に上程した。然るに神宮外苑競技場の改造は、觀衆收容力の不足と國費負擔の豫算不足に依りて、着手不可能となり、主競技場の建設工事も東京市に於て擔當せざるを得ざるに至り、急に駒澤に水陸の綜合競技場を建設し、之にオリンピック村を併置建設する事に計畫を變更し、蹴球場及陸上代用競技場の計畫を廢止し、更に芝浦に建設する自轉車競技場を併せて、之を東京市に於て擔當施行する事として四月豫算を更正して市會に上程し、五月その議定を見るに至つた。

扨て此の計畫工程を編成して見ると、工事施工に要する期間より逆算して、主要なる工事の設計は八月迄の三箇月間に完了せざるを得ず、而かも設計はオリンピック組織委員會の各種特設委員會に協議を要するを以て、設計擔當者の繁忙は譬へ難きものがあつた。

加ふるに資材の統制は此處にも加つたのであつて、主要構材たる鐵及米松の使用量に對して、政府の節約內命は屢々設計の變更を餘議無くせしめた。遂に不撓の努力は之等の難問を解決し得て、將に設計完了の見通しの出來た七月十四日に至り突如として厚生省よりオリンピック中止の命令が發せられたのであつた。

我等も又此間に、事變の進展を觀過したものでは無かつた。唯我等は中止聲明の發せられたる時期に就て遺憾を感じたのであつた。大會中止が必須の情勢に置かれたものならば本年四月カイロに開催されたる十二回大會の、最後の決定を爲す可き國際委員會の席上に於て中止を聲明す可き機會が殘されてあつた。其委員會に於ては遂に其事無くして東京大會開催に對して反對國があつたにも係らず、我國委員の主張は之を押し切つて開催が決定されたのであつた。我々は斯かる經過を知るが故に、我々に課されたるオリンピック建設事業の遂行は、我國に對して事變の爲めに歪曲されたる各國の認識を是正する事に役立つであらう事を信じ、資材統制下の困難なる事情を冒しても、計畫の達成に努力を捧げたのであつた。我々は中止の處置に關して割り切れざる感を抱くと共に、白晝に畫かれた夢の何時までも消えないのを無念に想うのであつた。

物資統制と事業の執行

昨年の七月日支事變の端が發せられた時戰果、今日の如く擴大するものと誰が豫想したであらう。今日の建築界は時局に忍從する覺悟を有して居るであらうが、此處に到る迄に建築に關する資金並に材料への、相繼いで發せらるゝ統制法規に對し、建築工業の崩壞を守らんが爲めに、建築界は擧げて其對策に努めたのであつたが、時局はより先きに重大化するのみで結果は遂に無効にのみ終つた。

我東京市に於ける十三年度建築事業も、遺憾乍ら如上の我國一般の建築事業の推移と軌を同じうしたものであつた。唯我々は公營事業に携るものとして、當初より別箇の意識を以て公營建築遂行の爲めに惜みなく努力を拂つたのであつた。昨年十一月鐵鋼工作物許可取締規則が公布された時、我々は當初夫れが建築の種別に依つては許可さる可きものである事を豫想し、市營建築物の如く事業目的が公共的のものであり、且つ建築種別にしても家屋密集地に建設せらるゝ區役所、小學校、病院等の如き、或は然らずとするも中央市場上下水道用建築物の如き特に事變下に於ける都市構造上耐火構造たる事を必須とするものであり、而かも夫等は都市の急激なる發展に依つて、急施を逼られて居る現狀より見て、此種の建築は必ずや特別の措置に依つて建築願は許可せらるゝものと確信したのであつた然るに其後昭和十三年度豫算編成、並に事業執行に對する內務省の命令に依りて、起債に依る鐵鋼建築物の着工は全面的に抑制さるゝに至り、先づ我々が所期したる市營建築の特異事情は政府の方針に於て否認された事を知つた。

斯くて昭和十三年度の建築事業豫算は、オリンピック關係豫算を除き、議決豫算 22,403,000圓中起債未認可のもの 10,950,000圓を差引き 11,442,000圓となり、內容は木造建築を主とし纔かに區役所、病院、防空施設等の鐵鋼建築が加へられたに過ぎなかつた。

斯くして我々は年度當初より主として木造建築のみの遂行計畫に當つて居たのであるが七月鐵材の統制は更に强化されて、木造建築の遂行にも甚大なる影響を受くるに至つた。夫れは鐵材使用量の配當割當制限に關する法規の示達であつた。市に對する鐵材數量の配當割當は、一括して商工省に依つて指定され、市は更に之を建築部に對して數量の割當を爲す事となつた。此事は我々の夢想もしなかつた强壓制限であつて、木造建築に使用さるゝ防火壁及基礎用の丸鋼は謂ふ迄も無く、構造用の繋結鐵物まで一切の鐵材の使用量は、此割當制限內で所理しなければならぬ事となつた。而かも其割合量は餘りにも少く、建築部が本年四月より十二月迄の所要數量 2,768噸に對し、割當數量は其約15% 417噸に過ぎなかつた。斯くして新しく惹起したる問題は、此小量の割當鐵材を以て、如何にして可及的大量の木造建築を實施するかと云ふ事であつた。其の爲めには先づ計畫中の各種建築中より着工す可き順位を定むる必要が起きた。更に構造法を再檢討して、可及的に鐵材量を減ずる臨時措置的の工法を採用する事とした。着工す可き建築種別の順位としては、學童の增加に依つて急施を逼らるゝ小學校及び病床の不足せる傳染病院等が優先的に撰ばれ、

區役所の如きは後次に廻された。

更に七月公布せられたる米松販賣取締規則に依つて、米松の構造材としての使用が抑壓を受くるに及んで、梁材の撰擇難に陷り、組立梁等の特殊工法を採用せざるに得ざるに至つた。

其他銅鉛等の建築主要材料に統制が行はれた許りでなく、麻、石綿、鐵線、釘等の材料の拂底も伴ひ、加ふるに材料運搬の輸送力が減退した事は、建築遂行上に著しき影響を及ぼし、設計の上に許可手續の上に、又工事の施工に際して總て過大の勞務を必要とし、而かも尙事業の成績の之と伴はない事は止むを得ぬ狀態に在る。

斯かる事態の下に、我々が年度當初に所期したる工事の執行量は減退して、其推定量は約 5,000,000圓となり、計畫量の半額にも達し兼ねる事となる樣である。

觀じ來れば今次事變に際會して、我ら建築部が蒙りたる甚大なる影響は、曾て夢想もしなかつた所であつて、事業の抑制と物資の統制に依つて、假令夫れは臨時であつても擔當技術者の能力の過剩を見出さざるを得ない。同時に又我々が從來泰平の惰性に馴れて計畫し來りたる建築は、防空の問題にも輸入材料の問題にも新しき課題を提示され、材料の撰擇も、構造の方法も、更に根本的の檢討を必要とする多くの事項を見出したのであつた。

我建築部の事業の如く、市政の各事業に必要とする多種類の建築を、夫等事業の擔當部局の委託に依つて、常に急速に計畫實施しつゝある狀態に於て、今物資の統制に依つて考察の時間を與へられたる機會を以て、之等の計畫を全面的に再檢討する時、既に一步にして修正を要する多くの事項を見出すのであつて、省みて忸怩たるものがあるのである。

我々は此機會を善用して、過剩の事務能力を轉用し、平素多忙の爲めに企てて能はなかつた計畫工法の不整備を是正する事に努たるのみならず、今後に處する爲めに周到なる研鑽を積むならば、此時局も建築新生面への打開の爲めに、天惠の時期と考へ得らるゝと信ずるものである。　　昭和十三年十一月十四日

本年度住宅建築界の回顧

小林清

本年度住宅建築界の回顧と題して寄稿せよと、編輯から依頼される儘に簡單に引受けてしまつたが、さて過ぎし1年間を振返つてみるに、一般建築界は不況であつたとは云へ、その業績常に變はらず偉大なるものがあり、住宅建築の分野に於いても相當な仕事がなされて居り、且又諸軍需資材の使用制限規則の發令と、所謂多事多端にしてその過ぎし跡を此處に再び見直すに當り、迂遠なる筆者は勘からず當惑してゐる次第である。

筆者もとより、日本全國各地の住宅建築の全般に渉つて通曉する者にあらず、又この大阪府に於いて1日何軒の割合に竣功してゐるかも知らず、たゞ世俗の建築各種雜誌上に表れたる住宅作品、或は身近にて見聞したる事などを基にして、1年間の回顧を試みんとするものであつて、その寡聞淺見たるを恥じ、その展望の偏るを恐れるものである。

1、住宅建築に關係ある時局の法令

筆者が今更饒舌する迄もなく、此の日支事變が我が建築界に與へた影響ほど甚大なものはないであらう。事變が始まつてこゝに1年有餘、國をあげての戰に國家の總力を、戰爭目的貫徹の1點に集注するべく、幾多の軍需資材の使用制限規則が發令されてゐるのは周知のことであらう。そのうち本年發令された住宅建築に關係のある法令をあげてみよう。

（1） 支那事變特別稅法 （昭和13年3月31日公布）

奢侈ともみるべき室內裝飾品及び家具類に特別稅を課さうと云ふのである。住宅に緣故のあるものでは、即、照明器具の5圓以上のもの、家具はセツトにして50圓以上のものに、各一割を徵收することになつた、但し家具のうちでも寢臺は生活必需品とあつて、この法令から除外されてゐる。

（2） 鐵鋼工作物築造許可規則 （昭和12年10月11日公布）

同上規則改正（昭和13年7月11日公布）

昭和12年10月發令されたものは「鐵鋼50瓩以上を使用する工作物を築造せんとする時は地方長官の許可を要す」と云ふのであつたが、昭和13年7月改正されて「鐵鋼の使用數量の如何に拘らず許可を要す」ることになつた。住宅を鐵筋コンクリート造にした場合50噸と云へば、約150坪餘りの家が建つことにはなるが、我國に建つ住宅に使用する材料としてもう一息と云ふ處があり、今迄でも餘り用ひられなかつたので、さう影響を蒙らないが、後述する如く、最近は防護室設置の必要が喧しく叫ばれてゐるのに對し制肘を加へることになり、延いては都市防衞上にも由々しき問題を惹起することになり憂慮する次第であるが、時局の爲ならば致方ない。

又「薄鋼板を使用する時も亦許可を要す」ることになり、1段と強化されたのである。此改正規則によつて「庇、樋、換氣筒、煙筒、雨押、生口隱し、又は炊事場、流し場及び風呂場の羽目張若しくは床張」のみが寛大に取扱れることになつて、關東地方にてその大半と云つてもよい屋根の薄鋼板葺、或は軒のサラシ葺などが禁止された。銅使用制限に依つて數寄屋風建築に致命傷を與へたものが、更に薄鋼板でも不可となり、全く數寄屋風には手も足も出なくなつてしまつた。

近時、薄鋼板の使用制限、石綿板の品不足の爲、必然的に屋根は瓦葺に一元化されて、瓦葺商が頓に繁昌を來たす時代となつた。又、神戸地方の水害、關東地方の颱風禍による被害にはその復舊の爲、1時この使用制限も寛大に取扱れた。

（3） 銅使用制限規則（昭和12年11月6日公布）

同上規則改正（第2次昭和13年4月23日公布・第3次昭和13年8月1日公布）

我々日本人ほど銅を愛好する者は他に類例を見ないのであつて、建築に於いても廣範圍に渉つて使用されてゐたが、それが數次の改正に依つて、銅及び銅合金の使用は全面的に禁止されてしまつた。たゞ屑銅を再製使用する蝶番の如き僅かにお目こぼしの範圍で許可されてゐるに過ぎない。

（4） 皮革使用制限規則（昭和13年7月1日公布）

此は建築には餘り關係はないが、牛、馬、鯨などの皮革を使用して、椅子、卓子、机、寢臺、座布團、其他の家具什器を製造することを制限してゐる。パツキングなども影響を蒙つた1例であらう。

（5） 鉛、亞鉛、錫等使用制限規則（昭和13年7月9日公布）

上記のものを單獨に、或は此等を材料とした合金の建築用附屬金具の製造に使用を禁じたのである。銅に次いで大なる打撃を受けたものであるが、亞鉛又は錫メツキ用又はハンダとして使用する場合は除外されてゐる。

（6） 米松販賣取締規則（昭和13年7月7日公布）

同上規則改正（昭和13年11月1日公布）

長さ2米以上の米松の販賣は官廳より註文する以外は商工大臣の許可を要する事になつた。此は住宅建築にはさほど影響を及ぼさないが、學校、工場などの如く强度を必要とする大なる架構のものには缺くべからざるものであつて、此が統制は非常なる影響を及ぼして建築を抑制するに大なるものがあつた。處が官廳の註文に係るものが許可を要しないことになつてゐたので、かう云ふ風に例外を認める事は需給調整の實情に鑑み規則制定の趣旨に副はぬとあつて、最近改正されて軍用以外のものは一齊に統制される事なつた。それと多少その內容について緩和された處がある。

★

以上のものが、公布實施されてゐるのであつて、材料の使用制限を餘儀なくせしめられ

建築に當つて思はぬ苦勞を要することになつて來た。銅御殿と稱し屋根を銅板で見事に葺き上げた如き遠い昔の思ひがして、金と土地さへあれば好き勝手な建築が出來た時代が羨しくてならない。

尙、此處に特記すべきは住宅建築と大なる關係を有する「木材使用制限規則」についてゞあるが、此は他の各重要物資の消費節約に準じて企畫された木材及びその附屬使用品の節約などゝ、消費節約を目的としたもので、住宅は延坪30坪、工場は60坪以上の木造建築を禁止しようと云ふのであつて、商工事務當局及び關係各省の手に依る案文調整を終へて池田藏商相の決裁を求めるまでの段取になつてゐた。處が藏商相は「木造家屋に對して緊急に制限する必要を認めず、米松材が既に使用制限されてをり、內地材の節約はさほどパルプ國策に副ふものでない、又建築に附屬する百般の使用品のうち最も重要なる金物類は既に使用乃至製造制限されてゐるので、此が物資の節約には大して意味もなく、結局一般的な消費節約方針に依つて不要不急の贅澤を戒しめる處に力點が殘される譯であるが、たゞ此だけで木造家屋建築制限の理由とするに當らない」と云ふ見解からまだ決裁を與へないでゐるので、結局此儘握り潰しの運命にあると云ふ。

戰線にあつてあらゆる困苦缺乏に耐へ忍び奮戰する皇軍將士の事を思へば、この非常時に家を建てようなんて云ふのは成程贅澤ではあるが、しかし住居は我々の生命財產を保護し、子孫の養育を計るを目的とし、保健的である事を必須なる條件の1つとしてゐる。人に依つては現在の住居が恐しく不健康である爲に、より保健的なものを望んでゐるかも知れない。又借家建築の粗雜さ、設備の不完全さ、それにも增して家賃の高い事にあきたらずして家を新築したいと云ふ者があるかも知れない。さう云つた人々に對して勿論贅澤は戒しめなければならないが、住居を建築するを認めてやらなければならない。一方工事の費用について考へて見るに、その大半は所謂職人の手間賃にして、その建築を禁止しやうものなら、さなぎだに失業者續出の世に更に拍車をかけるべき樣なもので、此又寒心すべき狀態を來たす事になつて、國民生活に精神的及び經濟的に影響する處も甚大なるものがあり、その犧牲を强要してまで制限措置をする必要はないと、統制の爲の統制を强行せず戰爭中に家を建てる事の可否は道德的の問題であるとケリをつけた池田藏商相のお手際に對して敬服する次第である。

筆者の仄聞する處によれば、この木材使用制限規則は8月1日に公布されるであらうと噂がたち、7月の中頃からは世の大小請負業者は勿論設計事務所、代願業者に到る迄、現在建築をしやうとする企てのあるものは、發令までに建築認可を得てをかなければ、建主は家を建てる事が出來ず、請負業者も近來稀な仕事にも有りつけずみすみす逃がして了ふと云ふ譯で、大小殘さず一才合財當局に出願した爲に、府の建築課も時ならぬ盛況を呈した。發令されるであらうと喧傳された8月1日が近付くにつれて、府廳に日參して何とか早く認可がおりる樣にと懇願する者も尠くなかつた。處が7月も愈々盡き8月1日になつ

たが、待てど豫期する法令は下りず、今迄懸命に努力した甲斐なしと、不屈な慨嘆をするものもある様であつた。が、恐らく此を契期にかりそめにも建築をしようと下心のある者は一氣に出願して了つたので、其後は一般の出願も稍減少した形である。

本年度の出來事として、何と云つてもこの「木材使用制限規則」が發令されるや否やの關心程、我が住宅建築界に甚大なる影響をもたらしたものはなく、建築業者を殺すか生かすかの境目にして、一方恐怖の眼をもつて迎へられ、又一方では國策の爲なら致方なしとあきらめに似た氣持でゐたが、幸にして池田藏商相の明快なる判決に依つて數百萬の建築業者に活路を與へられた事は慶賀に堪へない。

もとより公布を見ずとも、生活の簡素化、消費節約の趣旨は嚴として動かすべきにあらず、不要不急のものはその建築を延期し、萬止むを得ざるものに限つて、この恩典に浴する様にして、寬恕なる取計ひに對して趣旨を履き違へぬ様にしたいものである。

2、作 品 展 望

生活を簡素になし物資節約の意味から、不要不急の新築、增築などは一切見合はす様にと云ふお達しに基いて、例年ならば建築雜誌を色とりどりに飾るべき住宅作品の發表も、その數は極めて少かつた。もともと雜誌に表れたものがその全部とは勿論云ひ得ないが、恰度、本年度誌上に表れたものは、その設計が昨年度それも多くは下半期に於いてなされたものと見られる。即ち、事變が始まる頃、或はそれに前後して設計のあつたものゝ何パーセントが成果した譯で、その作品數の少いのを見ても、時局が反映して新築を思ひ止まらしめたものゝ尠くないいのに氣がつくのである。物資の統制に次ぐ統制で一部を除く設計事務所の昨今の喘ぐ有樣をみるにつけても、來年度こそはいつもの樣に我々を樂しませてくれる作品が殆んど影を潜めるであらうと思ひ、時局の爲とは云ひながら一抹の淋しさを覺えるのである。

×

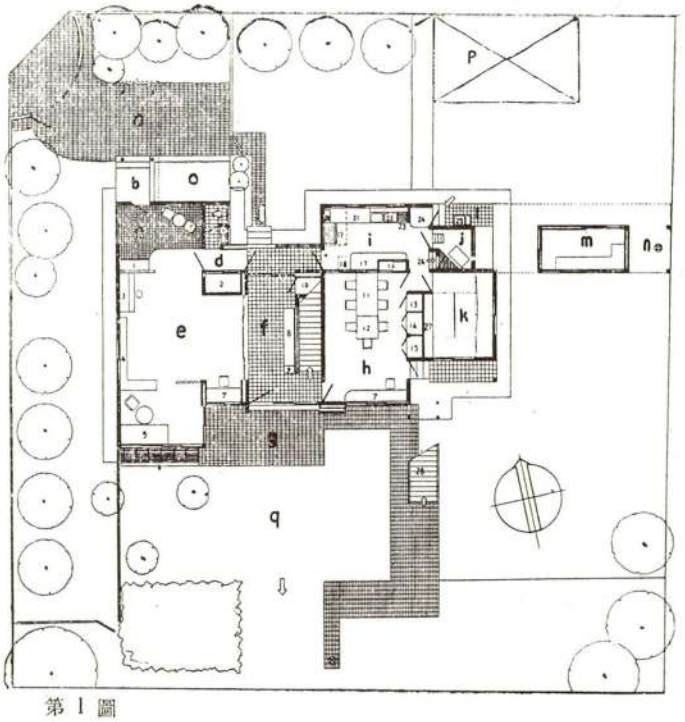
さて、本年度のトピツクは何と云つても、我が建築家及び造園家の印度への遠征であらう。遠征と云ふと仰々しく聞こえるが、印度パチアラ國々王マハラヂヤ殿下の懇請に依つて、我が建築家、谷一東氏（ケンブリツヂ大學卒業）及び造園家、西川浩氏（東京美術學校卒業）が、日本風の莊嚴な御殿ならびに庭園を建設すべく本年1月渡印したのである。處が不幸に着印早々にマハラヂヤ殿下が急逝他界された爲最初の雄大なる計畫は中止されそれに代るに新王の希望に依つてモテイバーパレスの建築と庭園の設計をなし遂げて、此程歸國されたのである。世が世なら先程の雄大なるものが實施され、末長く日本文化の築いた金字塔が燦然と印度の奥地に輝くであらうに惜しみても尙餘りある。それにしても英國の權勢ならびなき印度、殊に歐米建築萬能の地に於いて、我が邦人が堂々と一國の宮殿計畫の爲、萬丈の氣焰を上げたるは近來の痛快事と云へよう。その詳細については此處に

述べる餘裕を持たないが日本文化の海外進出として大いに見るべきものがあらうと信ずる

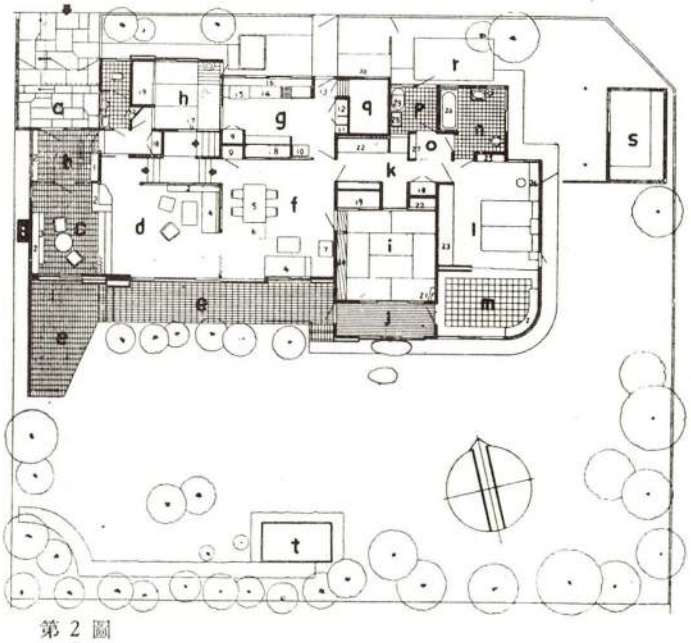
×

次に、各雜誌に表れたるものより印象に殘つたものを列記して、その寸感を述べることにしよう。

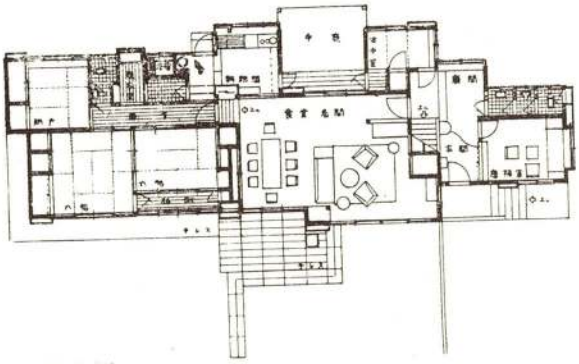
先、平面構成において新傾向とも見られるものに、山脇巖氏の作品がある。それはS邸（東京中野）及びN邸(東京中野)である。即S邸（第1圖）においては居間の1部分の床をタイル張にして、N邸(第2圖)においては玄關土間、應接室を同じ床續きにすることに依つて、家の外部から庭への連絡を計ると共に南北の通風を効果的ならしめてゐる。S邸にては敷地に餘裕があるので、此は寧ろ居間の戸外への延長、即家族の居間は1室に閉ぢこめられてをらず、自由に移動し、天氣のよい時は庭に椅子を持出して活用させ様と云ふにある。N邸においては敷地が限られてをり、殊に西側は隣接敷地に接近しすぎてゐる處へ、玄關から直接庭へ出ると云ふ動線も相當に必要視されるので、應接室を玄關土間に



第1圖



第2圖



第 3 圖

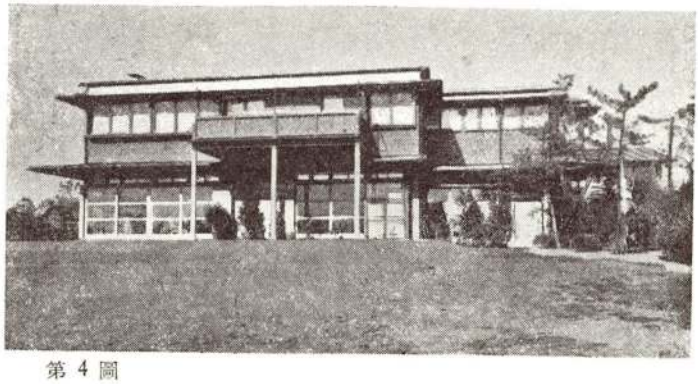
結び付けてその役目を果すと同時に、戸外への延長を計つたと見られる。今迄は自然と對立してゐたものが、自然に近付き、寧ろその中に融けこんで、住居を快適ならしめようと云ふ趣旨にある。

又、S邸における臺所から玄關への動線——臺所から室外に出て建具のはいつてゐない（と思はれる）廊下を通つて再び室内に入る動線及び堀口捨己氏の設計になる中西邸(東京世田ケ谷)における女中室から料理間への動線も同様、建具が入つてゐない様に思はれるが、この二つの扱ひ方は夏に對しては充分効果のあるものであるが、冬に對してはどうであらうか。未だに疑問を抱いてゐる。（第3圖）

吉田鐵郎氏の設計になるB氏の住宅（東京近郊）此は尨大なる面積をもち自然に恵まれた敷地の一隅に建つ鐵筋コンクリート造で延坪 113坪もある。筆者は建物を實際に見ず寫眞より憶測するいとはスケールが不明、プロポーションの均衡を失ふの誹りを免がれないが、この作品は餘りに透徹し過ぎ、秋空の如く澄み渡る哲人の眼ざしを見つめる感じがして1種の戰慄すら覺える。材料から來る感觸も多分に手傳ふのであらうが、それにもまして室内の家具調度が餘りにも調へられ過ぎて、そこには些少の隙も無駄も見られない。住居と云ふものは多少の無駄があり矛盾があつて初めてコムホタブルなよきものが出來るのでなからうか。

がしかし、筆者は同じ設計者の手になる木造のB氏邸（東京）の方を推奨したい。外觀室内共に在來の日本材料を驅使してゐながら新しき意圖を多分に盛つてゐるので寧ろこの方に愛着を覺える。

コルビュジエばりの建築作品を我國に普及さした點に功勞のあるレイモンド建築事務所でも、二三の住宅作品がある。「その中にゐるとそのものゝよさが解らない」と云ふ世の習はしからか、と角我國の民家のもつよさを忘れ、徒らに外國の模倣に寧日なき建築家が多いのであるが、その點第三者であるレイモンドは絶えず日本風のよき者を巧みにキヤツチして其作品の隨所に表してゐる。ケラー邸（東京大森）は同所本年度作品の白眉と云へよう。敷地と道路との高低差を利用して玄關ならびに車寄を設けた巧みな扱ひ方もさることながら、外裝の杉下見張、大きな窓、逞しく持ち出されたバルコン、輕快にして大きく伸ばされた庇など、總て我國の季候風土に適合した材料の使ひ方及び外觀構成を示してゐて、民家のもつよさをはつきりと認識してゐる點は大いに敬服する次第であるが、我國建築家の餘りにも無氣力なのには情なくなる位である。とりわけ洋室である居間に杉磨き丸



第 4 圖

太を建て紙張障子或は折疊み襖（間仕切用）を用ひたことなどその素直なトリーミングに尠からず好感が持てる我々は模倣の時代は既に過ぎた。徒らに外國の眞似をするより自己のもつよさを認識してそれを基にして時代に適合するよう新しき創造へと進むべきである、この點レイモンドに學ぶ處大いにあると思ふ。（第4圖）

レイモンドの所謂、新民家風とも稱すべき樣式に對して、吉田五十八氏のものする新數寄屋風と云ふべきものがある。即、數寄屋の精神を巧みに捉えて和洋兩樣式に移すのであつて、本年度は此と云ふ作品を（雜誌の上で）見なかつたが、氏の鮮やかな手法に對して建築家の渴仰もの凄きものがあり、この兩者の扱ひ方は今後の住宅建築の進路を示してゐるのではないかと思考してゐる。

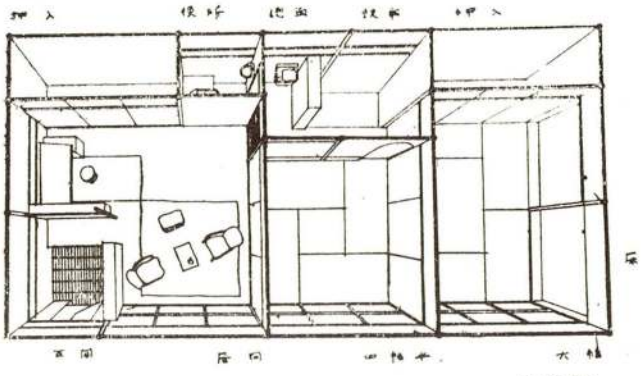
我が畏敬する岸田日出刀博士は「住宅と庭園」誌上に

「窓と云ふ窓の上には必ず霧除け庇をつけることも忘れてならぬことである。屋根庇もなく窓上に霧除庇もない豆腐のやうな木造住宅を平氣で設計することは建築家としての私の良心が許さない。陸屋根でも雨仕舞のよい防水層を施せばよいぢやないかの辯もあらうが、それを素直に受入れることは私にはできない。勾配屋根といふ便利で且合理的な手法があるのに、何を苦しんで無理やりに陸屋根にする必要があるのだらうか。鐵筋コンクリート造りの住宅なら陸屋根まことに結構だが、木造の家が鐵筋の家の形だけをまねても、それは鵜のまねをする烏でいつかはボロを出すにきまつてゐる。建築の新しさは單なる形の上で求むべきものでない」

と、說いて居られるが、筆者至極同感である。この意味から堀口捨己氏の作品に對して常にこの上なき好感を持つて見てゐる。本年度においては前記、中西邸、山川邸（西宮市）共に佳き作品と云へる。殊に同氏の老練な卓越せる手法は侘びの精神を多分に盛つて閑雅な趣きにみちみちて、他の追從を許さないものがある。

筆者、多年住宅建築にたずさはりながら、常に興味をもつて眺めてゐるものは、世の中に表れる最小限の住宅である。即、出來るだけ面積を切詰めると共に建築費ならびに經常費の輕減を計つたものを探し求めてゐるのである。素人は（殊に月給取りが）コツコツ働いて漸く貯めたお金で、家を建てようと云ふ人達は——恐らく1生の中でこの機會に惠まれる人は數へる程しかなく、その稀有の機會を摑み得た人々は——折角建てるのに、これでは狹すぎる、もう1室くつゝけてをかうとか、多少見榮も手傳つて贅澤を云ひ出し、坪數が膨脹して、建築費さては經常費に無理が生じて納まりつかなくなる。さうなると何の

爲に家を建てたか解らなくなる。家を建てゝ苦しむ程なら建てない方がましだとは建てられぬ者のひがみかも知れぬが、さう云ひたくなる。そこで筆者はさう云ふ向きには最小限の住居を建てる様にすゝめてゐる。



第5圖

その意味から眺めると福中駒吉氏自邸（大阪）と田村善三郎氏自邸（京都）がある。前者は建坪13坪、それでゐて6帖、4帖半の和室に10帖大の居間があり、縁側は設けられてゐないが濡縁をとりそれと臺所を利用して各室のプライバシイを保ち、その動線を巧みに考へてゐる。（第5圖）後者は17.875坪で8帖（縁側付）、4帖半、4帖と3帖大のサンルームなどあり、所謂四ツ目建にして通路部分の面積の節約を計つてゐる。兩者はさすが建築家だけあつて自ら範を垂れ、簡易な最小限住宅を試みられたことは世人を益すること大にして、その喜び豈筆者のみならんやである。

此は單獨住宅ではないが、集合住宅として酒井克祐氏が試みた甲子園パンション、甲子園アパートの如き、關西に於いてはその類例少く本年度の見るべきものゝ一つであらう。

3、防　空　と　住　宅

近時、國民防空が強調され空への關心がたかまつて行く折柄、萬一の空襲に備へんが爲住宅内に防護室を設置するものさへ現れるに到つた。住居の歴史古きとは云へかゝる新しき條件、即、空襲に對して備へをなすことは未だ嘗つてなきことにして、後世、歴史家に依つて特筆されるべきものであらう。

其方法として（1）鐵筋コンクリート造の倉庫を建てその地下室或は第1階を防護室とする。（2）建物の1部或は地下室に防護室をとる。平時は納戸、物置として使用する。（3）庭に家屋より全然獨立して、地下或は地上に設ける……などあつて、その長短は防空關係者に委すとして、此處には新しく出現した防護室の形式の分類だけに止めてをかう尚本年度において殆んど完成に近いものがあつたが、設備その他の遅延から完成の報を聞き得なかつたのは甚だ殘念である。

又、住宅改良會に於いて「防護室をもつ小住宅圖案」を懸賞募集して、幾多の優秀なる案を得たが、此等は斯界に先鞭をつけたものとして推奨する事が出來よう。

又、木造建築の櫛比するこの都會に、もしも燒夷彈を見舞はれたならば、その慘害はかの關東大震災を想ひ起せば思ひ半ばに過ぎるものがあり、關係者の間にては都市の防衛を

如何にすべきか、憂慮しその對策を研究中である。

その一端として內務省並びに大阪府の主催のもとに、大阪によくある木造塗家の手法が果して耐火的であるかの實驗が先日擧行された。これと同時に種々耐火手段を講じたものも併せ實驗に供せられた。木造塗家は豫想通り、耐火的に（延燒を防ぐ意味に於いて）強力なものであると認められた。この實驗にて幾多の貴重なる資料を得、これを基にして都市防衞問題に輝しき進出をみたることは斯界の爲誠に慶賀に堪えない次第である。

×

以上甚だ蕪雜にして不得要領であるが、限られた紙數もはるかに超えたので此で擱筆する。（13. 11. 20.）

『發明品時代』を提唱す

古塚正治

戰爭は文化の破壞だとする論は戰爭忌避論者の詭辯である。近代戰の如く戰爭が國の全部門に渡つて動員せられ其總和によつて雌雄が決せられると云ふことになると、却つて戰爭は文化搖籃の母と見做さる可き要素が多分にある。低級なる文化國は高級度の文化を持つ國に打倒せられて高級文化の惠みに浴し、高級文化國は戰勝によつて更に新しい文化進展への必要性を痛感し、科學に產業に經濟にあらゆる文化的躍進を餘儀なくせしめられる私の持論は適當なる時期をおいて行はれる戰爭は世界文化の劃期的進步を促すものだと主張する、確に斯う云つた私の持論は過去の歷史が幾回となく說明してゐると考へてゐる、我が國文化進展の跡もまた世界文化躍進の道程に倣ひ其進展の速度の異常なるものが即ち今日の現狀を生んだものと云つて好い。

これは我國特有の國情に因る　上御一人の統べさせ給ふ御稜威の下、國をあげて誠心誠意戰にあると云ふ賜に他ならない、戰爭に必要なると否とを不問戰爭の爲めには國力の總てが渾然一體となつて所謂人力の盡し得る最善の努力が傾注せられる結果が、常に赫々たる成果を持たらす因をなしてゐると見て差支へないだろう。此の努力が戰爭の反面科學と產業の上に無能く有に通ずるの事實を生み出すことゝなるのでは無いだらうか。

今次の事變下に於ける我國文化の一部門を承る吾が建築界を一瞥するとき、世間云ふところの代用品の續出は蓋し無から有へのセツパ詰つた文化搖籃の母體から生み出された貴重な產果の他の何ものでもない。今日これ等貴い發明品に代用品と云ふ妙な總稱を與へて終つてゐる。そして世は今やあらゆる文化產業の代用品時代と云ふのを顯出してゐると云ふ譯である。之れをツブサに檢討して見るとき今日發明せられた總てのものは斷じて代用品ではない筈である。其發明の動機が無から有に通ぜんが爲めの代用品を目指してゐたには違ひないが、其成果として生れ出た多くのものは戰後云ひ換へれば次に來たる時代にあつても、戰前のものを凌駕する幾多の優秀なる發明製產品でないと誰れが斷言出來ると云ふのか。私の見解に從へば今日の代用品が假りに在來品に比較して幾分劣るとしても、其價格の相異に於て、工作の難易の點に於て、需給の自由さに於て、更に大きな問題は正に濟度せんとする尨大なる新支那長期建設の資材として、在來品を凌駕すること遙かに優れたる多くの條件を具備してゐると考へてゐる。この貴重なる多くの發明品に冠するに代用品と名附けて怪しまない一般の常識を疑ふものである。

假りに手近かな例をとつて見ても、石炭酸樹脂應用になる握手、押板の類の如き、いま

一歩も進めば在來の金屬製品に優るものとなるであらう。或はまたデユラルミン系合金になる戸車類の如き、在來の錆びつく鐵製の戸車に優ること幾倍であるかも知れない、然も其價格に於て戰前のブロンズ製同等品の所謂安い時代の値段の二分の一以下に過ぎないでは無いか、今假りに休戰狀態に入つて戰前の水準に返つたとしても私にはブロンズの戸車に振り返る勇氣がない。恁う云つた發明品を例擧したら遑がないと云つて好い。

鐵管が硝子管に置き換へられて舊來の煖房用露出パイプ工事の見惡い鐵の歷史が過去のものに葬り去られ、人絹が天然絹糸を見返す時代も遠くはあるまい、何ぜならば人造には無限の改良進化の餘地が殘されてゐる。天然のものにはその餘地がない。人造の上には產額の自由があり、何んな目的用途趣向にも合致し得る境地がある。自然のものには夫れ丈けの工夫に困難が附き纏つて離れ難い。

事變が生み出した科學と產業の結晶は總てが貴い發明たらざるものはない。此の貴重な發明の上に最敬最高の字句を使用せず第二位的乃至第三位的字句たる代用品の冠詞を使用して不思議としない世の人に反省を求むるものである。(昭和13.11.6稿)

生みの惱み

新名種夫

1

本年は我國建築界にとつて、文字通り多事多端な年であつた。多端と言ふよりも多難と言つた方が適切であるかも知れない。

昨秋發布せられた各種の戰時統制法は、本年に入つてその運用が益々强化せられ、臨時資金調整法の影響に依る平和企業の減少に加へるに、各種建築用資材の統制に依る材料の入手難の爲に、一部重工業關係方面を除くほか、建築界は未曾有の悲境に立つたかの觀があつた。

この爲に建築技術者の需要の減少、多數失業者の發生が豫想せられ、殊に木造建築許可制の發布が噂せられた7,8月頃の建築界は、寧ろ悲壯な感じさへあつた。

鐵の使用制限に就いては、10箇月の苦難の後に、漸く自由主義的な惱みを解脫して、既に國策線上に諦觀するの境地に達してゐた建築界ではあつたが、木造建築が許可制といふことになれば、而も噂された許可制なるものが殆んど建築の禁止に近いものであつたからこれは正に生活問題で、建築界の驚駭したのも決して無理ではなかつた。

いち早く解散を宣言した事務所があり、8割の減員を申し渡した役所があり、少くとも工事費と人件費と人員とを比較研究して、この難局打開の方法に一應首を捻らなかつたものは、凡そ建築技術者の數人も擁する程のものの中には、1人も無かつたであらうと思はれる。

常に學術研究の團體であるといふ矜持を以て建築協會の提案にも、何回か體のよい肘鐵砲を喰して來た建築學會さへ、春に腹は代へられぬ俗諺を裏書して、今度は眞先に技術者需給調整委員會なるものを組織して、職業紹介の仕事を學術研究の誌上を以て行ふ樣になつたのだから、事態は正に悲慘だとさへ言ふべきであつた。

だが木造建築許可制の發布は、池田藏商相の反對表明に依つて中止となり、一方木造ながら時局下の厚生施設として、國民保健の施設、銃後の社會施設等の計畫が多數豫想せられる所へ、滿鐵關係、陸海軍等より、東亞新天地開發の先驅として、建築技術者の需要が亦頗る多く、大陸移動に依る內地技術者の不足は、重工業方面に於ける電氣や機械の技術者程ではないが、建築界にも充分その徵候が現はれる樣になつた。

言ふ迄もなく、この一部の事實を以て建築界全般の苦難が解消したと言ふのではない。建築を中心とした業界全體の中には、部分的に殆んど轉業のほか道のない程度の苦痛を舐めつつある氣の毒な方面もないではない。

だが建築技術者需要の豊富なるは必ずや業界の活況を意味するものであるから、漢口陥落に依る將來の見通しと相俟つて、建築界は全般的に、時局の現狀に於ても、惱みの中から充分常時の落着きを取り戻しつつあるといふのが、今年、昭和13年末現在に於ける建築界の現狀であらう。

2

だが本年の建築界は、こうした消極的推移の一方に於て、次の如き大きな收獲を齎らしたことを見逃してはならない。

都市に於ける防空計畫及び防火計畫の具體化がこれである。正確には未だその曙光を見たに過ぎないといふべきであるかも知れないが、曲りなりにも兎も角、その緒に着いたといふことは建築界にとつて近來の大收獲でなければならない。

防空計畫としては、防護施設が先づ第1に6大都市を皮切りに實施の運びに到つたことである。

內務省に於ては、既に公共防護室及び救護所設計に關する規準を設定し、6大都市はそれに基いて既に着々その實施設計を進めつつある。每年繼續事業として次第にその施設を增加して行く方針のものであるから、少くとも6大都市の公共防護室に關する限り、やがて或程度までの充實が期待され得るわけである。

これに刺戟せられて私設防護室の計畫も各方面に多數ある樣であるから、何時の日か鐵材入手の自由が認められる時期が到來し、更に後述の如く、防護室の設置が法規化せられる樣になれば、この普及は意外に早いものであるかも知れない。

これは一般國民の爲に喜ぶべきことであるは勿論であるが、その專門的立場より建築技術者に取つて更に大きな期待でなければならないのは言ふ迄もない。

3

次に、都市防火問題の解決、不燃燒都市の建設は、我建築協會設立以來のモツトーの一つであつたが、最近國際情勢の切迫に伴つて、都市防空の見地からこの問題の1日も忽に出來ない事が痛感せられ、昭和9年の近畿地方防空演習に參加以來、協會內に都市武裝委員會を組織して、更に緊急の問題としてこれを取りあげて來た。

協會設立以來、雜誌を通じ、各種の運動を通じ、或は政府への建議等に依つて、終始一貫主張し續けて來たこの問題が、時局の壓力に依つて、今曲りなりにも實現の第1步を踏み出したといふことは、建築界一般にとつて、何と言つても喜ぶべき事實である。

都市防空施設の1つとして、各都市の要所に設けられつつある防火用貯水槽の設置、防空法に對應して行はれんとする、建築物の耐彈構造、木造家屋の防火構造、特殊建築物への防護室の設置等を中心とする防空建築規則の制定等がそれである。

時局は一方に於て我々建築家に1つの大きな試練を加へつつあるが、一方に於てこの試

練は我々の多年の懸案の生みの惱みであるとも考へられる。

我々の久しい主張などは愚なこと、あの關東の大震火災の慘憺たる經驗を以てすら、政府も國民も本氣に起上らなかつた都市防火の問題が、防空の問題と結び附き、更に時局に際會して、應急間に合せの感はあるにしても、兎も角も急速に實現の曙光を見るに至つたことを思へば、これは建築界にとつて、正に市街地建築物法發布以來の一大收獲でなければならない。

來る11月15日大阪驛前に於て、內務省及び大阪府主催、京都帝大、中央氣象臺大阪支臺大阪市等の協力の下に行はれる、木造家屋の防火構造に對する大規模の火災實驗、及び續いて東京に於て行はれる同樣の實驗は、從來稍もすれば机上論に墮し勝ちであつた防火の理論に實驗的根據を與へる爲、是非共必要なる實驗であるが、これすら前述の市街地建築物法改正の基礎たらしめる意味を以て、時局の背景の下に、漸くなし遂げ得られる運びに至つたことを思へば、時局下建築界一方の惱みにも關らず、寧ろこの惱みを通してこそ、將來により大なる期待が懸けられるのではないかとさへ思はれるのである。

4

昨年末の南京陷落は、更に多難な戰鬪への一段階であることを思はせたが、本年漢口の陷落の結果は、長期抗戰から長期建設への國民標語の轉換を意味し、消極的隱忍も積極的飛躍への意義ある準備として、期待と望みとが今國民一般の胸に脈々として甦りつつある長期建設。この「建設」のある所、如何なる苦難の中にも常に建築家の希望はある。建築家の參加なくして如何なる「建設」も不可能だからである。

今昭和13年の末、建築界多年の懸案であつたものが、時局の壓力に依つて漸く實現の曙光を浴びつつある。

建築界は、その現在受けつつあり、そして將來も尙幾年か續くであらう幾多の苦難をもより高度の建設への生みの惱みとして受取るだけの餘裕を既に取り戻してゐる。

(2598. 11. 13)

昭和13年建築界管見

——主として技術者の動きを見る——

鶴田勝

統制強化影響如何？

昭和12年7月支那事變勃發以來戰時體制實施の具體的法律として臨時議會を通過したものは「臨時資金調整法」と「輸出入品等に對する臨時措置法」の二つであつた。前者は各方面で企劃される事業の資金を調整して軍事方面に振向けんとするもので金融會社の資金貸出事業會社の設立等に關し一定金額以上は政府の許可制度としたもので本年8月15日よりは更に內容が强化された。後者は即ち「鐵鋼工作物築造許可規則」で50噸以上の鐵鋼を使用する建築物は商工大臣の認可を要すると云ふのであつた。これは昭和12年10月20日より施行されたが更に本年7月15日より一層强化され50噸以下の建築物も許可を要することになり鐵鋼工作物は一部軍需工場等を除いては事實上殆んど禁止的となつた。更に本年4月「銑鐵鑄物の製造制限に關する件」が發令され、又7月「鋼製品の製造制限に關する件」が引つゞいて發令され、構造用鋼材は勿論サツシュ、ドア、手摺等の金屬部分は殆んど使用不能となつた。更に築造許可の工作物にも鐵鋼配給統制規則により切符制度により配給されると云ふ實に徹底した統制振りである。これでも未だ足らずとして木造建築制限令の發令まで見んとしたが危く實施を免れた。以上の外直接間接に建築界に影響する諸法令は夥しい數にのぼり建築界は全く慘憺たる有樣になるかと思はれた。かくて事變の擴大推移と共に建築界は全く將來の見透しがつかずして歲末に近づかんとしてゐる。一方軍部及軍需工業に關係ある技術者は素晴らしい活況に、目を廻す程で全く盆と正月とが一度に來た樣な忙しさであつた。從つて只建築工事が一部に偏したため、これに伴つて人の動きが多かつただけで全般的に見て決して不振ではなかつた樣である。統制の諸法令に馴れない建築界は只譯もなく不安であつた。仕事のある方に動いて行けば良いと樂觀することが出來なかつた。今歲の瀨に立つて統制の效果を考へ、まことに感慨深きものがある。

統計は何を語る？

建築界は景氣に著しく波がある。建築技術者の數は增減が極めて少い。一個の業者の營業狀態でも猫の手も借りたい忙しい時と堰板を山と積上げミキサーは錆びるに委し閑古鳥鳴く時期もある。仕事がユニホームにコンテイニヤスに行かないのは已むを得ないものだらうか。それにしても工事と技術者の關係は一體どんなものだらうか。技術家は一體幾人

あれば適當だらうか。商工省の「建築統計表」と建築學會の「建築年鑑」を拾つて見る。次の統計は昭和12年中東京以下22都市で届出又は認可申請した建築物工事費で全國建築工事の大體80～85%に當ると云はれてゐる。その內木造建築以外は建築技術者の手に成るものとし、木造は內1億圓は大工直營で技術者の關係なきものとし、更に國庫の營繕費豫算を加へれば稍々建築工事費推定額が得られる。一方技術者の實數は建築學會の統計によれば左の通りである。今假に10萬圓の建築を1年間に竣工するに設計監督に1人施工に2人都合3人の技術家（工業學校出以上とし他は省略する）を要するものとすれば稍々內地在住技術者數と一致する。勿論かゝる推定は無茶なことは分つてゐるが、これでも大體の見當がつく樣に思はれる。事實昭和12年は內地建築界は相當活況を呈したのであつたが13年もこの推定で行けばどうなるだらうか、建築統計は何分にも日尙淺く然も事變下の狀勢では到底ノーマルなものではないから平時の參考にはならない。昔名君と云はれる人は不況時に土木事業を起して庶民を救濟した。今日でも失業救濟土木工事は行はれるが建築方面は考慮されない。技術家の數を基調とした最少限度の工事が官廳でも民間でも繼續することを要望する。工事費年額5～6億圓なれば建築界は先づ順調、それ以上でも以下でもあまり懸隔があるのは面白からぬ結果となる。米穀統制法の樣な統制を布いたらどんなものだらうか。同じ官廳の役人でありながら一は經常費で安穩な地位にあり一は事業費で絶えずおびやかされる不合理は一掃されなければならない。尤も事變最中こんな意見は贅澤だと叱られるかも知れんが。

昭和12年建築構造種別表

鐵骨鐵筋コンクリート造	109,733,919圓
鐵筋コンクリート造	71,171,929
鐵骨造	73,274,491
煉瓦、石、コンクリート造	562,506
木造	230,903,200
ソノ他	168,608
合計	485,814,554
大工の手に成るもの	100,000,000
技術家の手になるもの	385,814,554
全國建築工事費推定100/80を乘ず	482,268,172
國庫負擔營繕豫算	130,348,251
工事費推定總額	612,616,423

10萬圓に付3人とすれば所要技術者數 18378人

	總人員	內地在住者
大學出	1897人	1676人
專門學校出	3284	2459
工業學校出（甲種）	18736	15438
	23917	19573

轉職と轉業

建築家の轉業は別段珍らしくない〃×年×月○○建築工事監督ニ任ゼラレ×年×月竣工ト同時ニ退職〃と云ふのは履歷書のきまり文句で忠臣二君に仕へず等の諺は凡そ建築技術者には當嵌らない。最近まで復興局の解散、議院建築部の解散、オリンピツクの中止、萬國博の縮少等大きな動きがあつた。又營繕管財局の陸軍省への合流？東京、大阪の官廳人の大學滿洲進出等は斯界のビツグニュースとして傳はつた。建築學會では斡旋の勞を執つた。しかし申込者は比較的少いと云ふ噂であつた。その理由はまだ業界がそれ程まで行詰つてゐないこと、轉業の際採用條件が概して現在より悪くなること、事變の見透しがつか

す自重してゐること等があげられる。

轉業となるともう一つ仕末が悪い。政府では事變の犧牲者に極力轉業を勸め補助金まで出してゐるが建築技術者の場合簡單に行かない。某大請負會社で軍需工場を經營して一時從業員のハケ場にしやうとの計畫ありと仄聞した。又某事務所では不況の間從業者を關係ある工場の方へ轉業させた噂も聞いた。一體建築技術者は藝術家氣質或は工匠氣質を有し又はヤクザな放浪性を有して居る等、如何にパンの問題と云へ簡單に轉業出來ないものと思はれる。目下の處滿支へ行く覺悟なら轉業せずともよからうと思はれる。建築材料は代用品が大分進出したが人間はなかなか代用品には向かない。

技術家養成

不景氣になると學校の收容人員を減ぜよと云ひ、好景氣になると間に合ふ人間を要求する。學校は修業年限3～5年かゝり社會の景氣と逆を行くことがある。又數學や力學をミツチリやつて機械、造船、航空機等に就職出來る樣融通性をつけよとも云はれる。學校にゐる時から轉業の準備教育も如何かと思ふ。學校は技術の教育に未熟であつても何とかして建築技術者としての興味と誇りを持たしめたいと願つてゐる。若人の夢を守り立てたいと努力してゐる。間に合ふ人間をたくさんと、要求されても無理である。凡そ今日の社會で教育界が一番遲れてゐるのではなからうか。實社會は絶えず前進を强ひられる。優勝劣敗が甚しい。けれども教育界はそれが少い。殊に實業學校が駄目である。組織も設備も。最近學校教育改善の聲が高まりつゝあるのは喜ばしい。社會に入つてから少しでも早く間に合ふ樣養成して貰ふ外はない。

災害豫防と經費

關東震災は100億の富を失ひ復興に更に100數十億圓を要したらう。神戸の水害は1億の富を失つたが復興には數億圓を要するであらう。然るに關東の震災は100年に1回かも知れず、又神戸の水害も10年か20年に1回であらう。これら災害豫防に對する對策の規準を何處に置くかは經費——從つて技術者の數に深い關係がある。（本誌8月號水害座談會記事中玉置氏の意見參照）地震の震度0.1は建築家の常識となつたが決して安全ではない。神戸地方水害對策の規準を500mmとすることは妥當なりや、或は風壓規準40m/secの可否を論じなければならない。これらの對策に使ふ經費と幾年目かに來る災害の被害額を比較する時、災害で失はれる人命と精神的傷手を除けば何れが益となるか一寸判斷出來ない。空襲については一層この點を痛感する。都市武裝はどの程度になすべきか？燒夷彈に對し、爆彈に對し、防火構造を耐彈構造を如何なる程度にすべきか？或は一般防空施設を如何にすべきか、若し理想的な構造、施設をなすには莫大なる費用を要するであらう。これに反し全然無防備とし只燈火管制、避難訓練と積極的防空のみに依ることも日本の都市の現狀に則した對策ではなからうかとの意見も成立つ。都市計畫の諸事業は市民の福祉に貢獻する

こと甚大であるが又その負擔も大きなものである。技術家はこれらの諸點に關し信念を有し絶えず啓蒙を怠つてはならない。これ即ち他を益し己を大にする所以である。

明日への仄かな期待

要するは建築技術者に絶對に必要にして缺くべからざる存在である。あらゆる社會生活の容器を造る者として、都市の住民を幸福にする直接の仕事をなす者として。事變は長期戰だと云ふが武力戰は即戰即決であり經濟的長期戰である。又破壞の後の長期建設がある滿洲を支那を日本の文化の水準まで引上げるには隨分長期建設事業である。假に滿洲國に義務教育制を布くとする。3000萬の1割 300萬の學童を收容する學校建築が起る。3,000人を收容する小學校1,000校を要する。1校10萬圓として1億圓の建築工事を數年間に完成せねばならぬとは滿洲通の友人の言葉をそのまま。又統制緩和による內地建築界の隆盛も期待出來る。要するに建築技術者は絶對に必要な存在だ。そしてあまり多過ぎてもいけない少な過ぎても困る。我々は益々信念を固めねばならない。—了—

本年度建築界の回顧

水原旭

輝かしき戰捷の中に暮れて行く昭和13年は吾々建築家にとつても亦苦難に始まつて苦難に終つた一年であつた。産業界再組の必然的傾向にある時、我が建築界獨りこの變革の影響か無い筈はない。資金及物資の調整は當然建築企業を横向け始めた。今まで恒久的建造物として或は記念的に、或は豪華に、材料を選んでゐた建築界は昨年暮から俄然單なる實用的建築に追ひ廻される時代となつて了つた。支那事變の齎らしたこの蓋然性は然し不可避のものであつた。軍需的産業の擴張と充實とは1日も忽せにすべからざる急務であつて見れば、この限られたる建築業組織の中にあつて他の平和的建築を二の次とするは當然の事であつたのだ。然しこの事象は建築業より自然發生的に動いて行つたものではない。完全に資金及物資の調整力に依つてのみ決定されて來た。茲に我々建築家の苦惱がある。そして本年に於ては何等かこの解決策があるものと期待しつゝ終に徒らに細まり行く我が業界の前途に些か途方に暮れた格好で送るこの一年といふ感じである。

鐵鋼の使用を制限された影響は大きかつた。然し昨年末の鐵鋼工作物築造制限が50噸以下を除外してくれたので不十分乍らもこの範圍内の建築が出來るならば必然的なる工場建築と相俟つてどうにか現在の陣容でこの事變を乘り切れるだらうと見越しをつけその對策にのみ腐心してゐた。そしてその滿足なる解決にも達しない中に本年7月終に前年の除外噸數も抹削されて全面的建築の制限を强ひられる事となつて了つた。同時に薄鋼鈑を制限されたので我が建築界は正に頭と尾を切り取られた胴ばかりの格好に陷つた。終に建築界も明瞭なる戰時體制に入つたものといふ事が出來る。そして人的需要は若い發溂たる所の戰鬪可能的新人に集中されんとしてゐる。かくて建築業者の惱みは深まる。結局は時の解決を俟つの外が無いのでは無からうか。要するに今は建築的技術の前進が一時中止され、當面の需要をのみ解決すれば足る時代に在るといふのだらう。

代用品といふ問題もあつた。仕上材、備品等には矢張り何かと代用品も見出される。然し構造用鋼材にはさうさう代用品のある筈は無い。鐵鋼がないから何か代用品はと言つた所でさう早急に見つかるものでは無い。アルミなれば重量は輕し强度もあるが如何に制限外でも生産量は鐵鋼量に比べては話にならぬ。之は到底一般需要に應じ得るものではない又、竹筋コンクリートの如きもの迄も採り上げられたりした。が、之も建築主體の構造材たり得る事は至難である。抑々鐵がその多量生産と、安價との二點で終に之が耐火的價値と共に建築構材の基本物となつて來たもの、今日に到る發展經過より見て之が代用品を見

出さうといふのが單なる夢だ。吾々は止むを得ず鐵鋼の潤澤なる生産と、從つて使用制限の解除とを期待して、當分の間じつと事態の推移を見守つてゐるの外は無からう。

然し鐵鋼の使用に關してこの一年の經驗は又、自肅といふものがあつたらとの感が切である。過去の鐵骨鐵筋コンクリート造なるものの使用過度なる點は度々指摘してゐる、然るに依然としてこの贅澤構造を使用する者がある。當事者たる者大いに考慮を要すべきものと思ふ。更に又鐵骨造工場建築に於ては柱なり梁なりの丈を今少し增したなら1.2割の鋼材節約が出來ようものをと思はれる物まで單なる工場の傳統なり都合の點のみで改め得ない者がある。又、柱を建てればと思はれる所を矢張り一張間として行く。勿論人各々最も都合よき設計を擇ぶのは當然である。然し乍ら時は非常制限下である。少しはこの苦難の情勢に協力して或る程度の不便を忍んでもよささうに思ふ。今は軍需產業建築のみが鐵鋼を自由に使用してゐるかの如き感がある、少しは自肅して幾分かでも平和產業建築に向け得る餘地を作つたらと考へる。

不備は鐵鋼の配給組織にもある。切符制度を以て鐵材商より買入れる制度も一應は良いが、冗材の整理がうまく行かない。先づ鐵鋼の使用材數を決定する。この材數に應じ、求むる寸法のものを正確に配給されるならば其處には一の冗材も生じない、然し事實は大きな相違だ。鐵材商が注文通りの品を渡してくれないのは當り前となつてゐる。勢ひ冗の出る寸法で材料を買込まねばならぬ。鐵筋コンクリート造に在つては可及的繼手の少ない材料の使用法が最も經濟的なものに相違ない。然し、材料商から渡してくれる物が求むる長さより何れも短かいものであれば自然的に繼手の數が增して行く。この損失も少なからざるものだ。先づ2割前後の損失が見込まれる程ではあるまいか、之を除去し、理想的な配給組織とするには鐵商經由を廢し、之を官設として求むる長さに切斷してはその切屑は直に回收するの方法も一案である。之が今年一杯苦しんで來た鐵鋼受難の一部緩和の期待策である。

鐵鋼の節約に付ては寄々研究中の所で未だ確立されたものもない。電氣熔接もその費用とか技術の問題等から未だ潑剌とした實用狀態には入る事が出來ない。之は將來に對する期待の方が大きなものだ。

本年戰果の山、武漢攻略の結果、大冶の鐵も愈々日鐵で生產に採りかゝる樣だ。更に北支石景山製鐵所も火入れを行ふと言つてゐる。勿論こんな事では直ちに建築を需すには至るもので無いが、幾分の緩和劑ともならうし、徐々には一般建築工事を復興させて呉れるものとの期待は大きい。まだまだ支那復興及開發の大事業を控へて容易には吾々の苦難は止みさうも無い。建築の需要は大である、鐵の不十分がこの需要の行手を阻んでゐる。が暫しは自肅の時、大なる期待を將來にかけて、今は靜かに昭和13年を送る事としよう。

まづは鐵鋼を廻つての感懷二つ三つ。

災禍の昭和十三年

藤原義一

事變の影響に加へて、今年程建築界に災禍の多かつた年は多くあるまい。年初幾ばくもなく武田五一先生を失つたことが先づ禍の第一歩であつた。今の建築家雲の如く天下に滿つるの時、既に第一線を退かれた一人老大家の死は實質的には建築界全般に對して或はそれ程の打撃でないと云へるかも知れないが、先生を失つた後の斯界の寂寥は云ひ知れぬものがある。第一線を退かれたといふもののあの、多彩な、活動的な先生に期待するものが尙ほ多かつたことも思はねばならぬ。法隆寺保存工事が所長を失つてやがて一週年も近づかうといふのに未だ後任を見ないのは、所長無くても濟まされるといふ意味では決してない。その任の重要さを物語るものである。建築界の實質的損失はしばらく措く。唯だ先生を失くした建築界は、古建築界、新建築界を問はず、當分淋しさが癒えないであらう。祇園の夜櫻にも比すべき千古の名木が枯れたといふ感がしみじみ深いのである。

人間界の風致破壞に劣らず、天然界の破壞作用も相當手きびしいものがあつた。雨風はよく暴れた。その度に大樹は折られ、屋根は剝がれ、ガラスは毀れ飛んだ。家屋の被害は毎度ある通りだつたが、毎度と云へない大慘害は七月初めの神戸市を中心とする水禍であつた。かゝる人間わざを超絶した大自然の破壞力に對しては、不可抗力として唯だ冑を脫ぐ外はないやうであるが、併しその中には、人間界に對して、又建築界の人々に對して、多くの示唆と反省の機會とを與へたところもないではない。

建築は自然の法則に從つて造られるが、云ひ方を變へれば、自然の法則に逆らつて造られるとも云へる。自然の加へる力に反抗して、闘つてゐるやうなものである。人間は自然の力を種々測定して、その中に或る一定の安全圏を設置して建築する。而てその安全圏の目安には甚だあいまいなものの含まれてゐる。暫く大風が吹かないと、風の吹かぬことを標準にして家屋を造る。その方が建築が容易なためである。廂を輕快にし雨戸を省き、ガラス戸の桟を細くする。突然暴風雨が襲來して、廂を飛ばし、ガラス戸を吹き折り、屋内が一瞬に無に歸してしまふと、その次からは雨戸を設け、ガラス戸の桟は太くなり、廂も丈夫にされる。いつしか暴風雨は忘れられて、又雨戸は除かれ、廂は輕快になる。こんな現象の繰り返されてゐる事實を我々は見るのである。先般の水禍に就ても、こんな愚が繰り返されるのではないかと、今から取越し苦勞がされる。

併し人間の營む仕事には限度があり、天然の作用には限度のないものが多い。故に人間の豫想する限度を越えて自然の力の作用することはあつても、それは不可抗力として、我

々はその限度以内に於ける防禦を以て滿足する他はない。併しこの限度を設けてゐるといふことに就て、建築家たるものは此際一應の再檢討をして見る必要はないか。

耐震、耐風、耐雨雪の建築構造物が、すべて一定限度の範圍内で安全保障されてゐるといふ事實、これは人間が太陽や空氣によつて生命が保たれてゐるといふのと同じやうに判り切つたことであるが、日常我々はそれを感じないと同じやうに、建築構造物の限度に就ても比較的無關心のやうである。併し人間が太陽や空氣の無くなるときを考へて對策を講じて置くことは不可能である。建築物の對自然力の限度も、それ以上は限りのないことでこの限度を越えるものを不可抗力とすることは止むを得ない。併し太陽や空氣の場合と異るところは不可抗力の作用の襲來を豫想して、日常種々の對策を講じておくことが可能なことである。即ち有効な對抗策によつて、萬一の場合その慘害を著しく緩和し得ることである。先般の水禍にしても、豪雨によつて山が崩れ、山津波の押し寄せたことは不可抗力とする。又個々の家屋に於ても平時これに對する配慮を加へることは不可能であつたとする。併し乍ら、かゝる事態の起り得ることさへ承知して居たなら、その慘害は何分の一かで濟んだであらう。一般の住民が日常そこまで考へて生活することは無理でも、爲政者、土木、建築の專門家は考へる義務がある。耐震構造の專門家の造つた建築物を使用する人は、地震に絶對安全と信じてゐても、造つた建築家は計算に入れた以上の地震が起り得ないとは考へてゐない筈である。地震も雨も、風も、山津波も同じことで、唯だかゝる考慮の効果の程度に差があるだけである。その考慮の有効な限り、自然界の作用が一定限度を越して襲來する場合を豫想してその對策を講じ、場合によつてはその限度を變更して行く心構へが必要である。若し爲政者に、土木家に、又或る場合には建築家に、その考慮があつたなら、神戸市電山手線によつて大倉山のあたり、宇治川と堰き止めることはしなかつたであらうし、新生田川をあんな自然を無視した暗渠にしなかつたであらう。

六甲山が一雨毎に大量の土砂を流出することは、各谷筋の川相が證明してゐるし、又その物凄い經驗は、さほど古く溯らなくても、一再ならず甜めてゐる筈である。今は殆ど消滅したのか見られなくなつたが、10年も以前の頃には、西宮の東方武庫川の附近に、小松の生えた大小無數の砂丘が松島の島の如くに散在してゐた。あれは武庫川氾濫の名殘りと聞いてゐた。神戸の湊川が洪水で附近の家が流れ、遊女が死んだといふ話を古老から聞いた人もあるといふ。夙川も芦屋川も住吉川も大石川も、平生は殆ど水を見ないが、少し急雨が來ると水勢一時に奔流して、その度に夥しい土砂を搬出した。それで川床が平地より十數尺も高くなつてゐて、それが海に注ぐあたりは海岸が著しく突出してゐる。然るに河川を治める人々は、かゝる日本の谷川の特殊性を深く考へず、フランスやドイツの平地を流れる川と同じやうに考へて川を整理し、幅を狹め、道路をつけて低い橋を架した。

かゝる過失は建築家の直接責任でなかつたかも知れぬ。併し建築家は與へられた土地に注文者のもろもろの要求を滿す一つ一つの建築を造りさへすればよいか。その各々が風雨

を凌ぎ地震に耐え、山津波にも出來るだけ助かるやうに設計すればよいかといふことが問題である。既に建築家は都市計劃にも交通の部門にも進出しつゝある。更にもつと眼を開いてその領域を押し擴げ、廣義建築の發展と安全のために、政治にも土木にも建築問題の關する限り、その根本計劃に參與する必要がある。それは丁度軍部が廣義國防を振りかざして外交問題、財政問題、教育問題、社會問題、思想問題、農村問題、都市問題等、ありとあらゆる問題に推進力となつて押し進んで行くのと同じことである。

地方の民家を見て感ずることは、それ等が永い年月の經驗によつて、その土地土地に於ける自然の環境に順應して極めて巧妙に造られてゐることである。材料、構造、形狀は悉く自然力に支配されて出來てゐる。職業に關することは云ふまでもないが、寒暑、地震、暴風雨雪、津浪に對し、又は土地の地形に應じてそれぞれの形態が出來てゐる。而て土地の形狀、自然の作用は、地方に於ては昔も今も大した變化はない。それ等の狀況が一つでも變れば、家屋もこれに應じて改變されねばならぬ。然るに近代の土木、山林等の諸事業は、かゝる家屋の存在を無視して、それぞれ唯一箇の立場から事を行ふ。その行ふことは正當でも、それに依つて周圍の蒙る影響を全般的に考へぬ嫌ひがある。田舍に立派な道路が造られ、鐵筋コンクリートの大橋が架せられる。そのことは結構である。然るに豪雨のときその道路や大橋が川水を堰き止め洪水となり、部落を流してしまつたといふ話を聞く都市が急激に膨張するときには土地の狀況も從つて急變する。大自然の作用は昔と變らず暴雨風は時到れば來る。土地に數年の經驗しか持たぬ住民は、自然のなすに委せてすべてを失つてしまふ。これを住民の罪に歸することは出來ない。一半は直接間接に關係ある專門家の責任に歸すべきであらう災禍の年を顧みて、建築家の積極的活動を促したい。

昭和13年11月15日

昭和戊寅年回顧雜感

——本年度の古代建築方面——

城戸久

本年の建築界を回顧すれば事變の擴大に即應する種々の問題があり、又その對策も講じられ、はたは關西大水害が突發的に起つた等まことに多事多端の年であつた。かゝる折徒らにそれ等に無關係な閑文字を連ねることはどうかとも考へるが、戰時下過去一年に於ける建築界の他面を回顧することも一應の意義はないでは無からうと思ひ、古代建築方面に於ける私の貧弱なノートから本年の重要事項と私考する内主として社會的問題としてとり擧げられた二三を記錄し、それに聯關する感想やら希望やらを雜然と思ふまゝに述べて見たい。

聖戰下第2年——聖戰の遂行に伴ふ建築の資材統制制限が行はれ萬國博は延期オリンピック大會は返上の止むなきに到つたけれど、なほ時局下にあつて法隆寺初め國寶建造物の修理は營々と繼續せられ、過去日本文化を永遠に維持保存し將來に向つて顯示しやうとする尊ぶべき事業は行はれて居る。これは戰時下に於ける建築界を回顧する上に於て先づ第一にあらためて銘記せねばならぬ事であらう。支那に於てはその貴重な古代建築遺物は徒らに崩壞にまかせられ、或ひは故意に破壞せられて居るに比して私共は時局下にあつて國體の精華をこの事實に依つて一層はつきりと再認識することが出來る樣に思ふ。講說8月號に於て常原安男氏は法隆寺五重塔内の塑像が國費を以て修理されて居る事實はオレゴン大學教授N. B. ZANE氏を驚愕せしめ眞の日本の姿を感銘さしたことを報じて居る。かくこれ等の事業は一方聖戰下國内の餘裕と日本民族の眞面目を諸外國に認識せしめることになつた一例であつて快ニュースとして大いに欣ばしく思ふ處である。

この方面に於ける重要事件としては第一に6月3日より東京美術俱樂部にて法隆寺修理古材が一般に賣立られ、それに依つて端なくも世論が沸騰し國寶保存問題が論議せられた事であらう。早く足立博士が諸誌に意見を發表せられ、藤島博士も亦本誌8月號に「建築保存問題」と題し論じられて居るから良く知悉せられて居ることゝ思ふ。かつて法隆寺昭和大修理が行はれんとする計畫のあつた時大朝天聲人語子は「古社寺保存の吉例によつて思ひ切り改惡せよ。千年の後に非修繕說の掉頭あらしめざる用心のために」と言つた大警句を述べたことを覺えて居るが、これはあまりにも木造建築の保存に對する技術上の點を知りなさ過ぎる杞憂であつて法隆寺に限らず保存工事に於ては當事者の御努力に依つて萬全の策が講じられて居るに相違ないと信ずる。只日本建築の如き構造材料では修理に際し構

造上施工上古材の一部を取換へることは實際上止むを得ない様に思はれ、何れを如何に取換へるかと言ふ點もあらゆる研究の結果決定されて居る様に聞いて居る。然し一端取換へられた以上現今の法規上ではその廢棄古材は所有者の手に移り、事實上これを如何に處分しようともその自由意志に委せられて居る譯でそれが法隆寺と言ふ特に由緒深いものであつただけに世論が沸騰し問題になつた様に思はれる。只構造的には使用困難で廢棄材料として建物より分離されたものも中には樣式手法を知る上に甚だ重要な素材となるものもあり得るから、これ等を適當な方法で保存せねばならぬことは當然であつて法規の如何に拘らず所有者も熟考してその道を講じて貰ひ度く思ふ。近時はその由來を銘記して修理完成後小屋裏に納め保存すると言ふ策が採られて居る様に聞くが、それも一法であり保存の意味に於ては好都合である。然し徒らに死藏される譯で研究者には容易に近づけなくなる。又一歩進んで既に唱へられて居る如く建築博物館の様なものが出來、保存にも研究にも萬全が期せられゝば理想的と言へやう。然し早急には實現され得やうとも考へられない故差當つて各所に實施せられて居る保存工事に依り當然生ずる多數の古材はその代表的なものでも建築科教室を有する學校の標本室に納めて戴ければ保存の意味に於ても相當の安全が期せられ、又後學の者の研究の資ともなり將來學界を被益する何等かの糧ともなり得て甚だ結構なことかとも考へる。これは虫の良い提案ではあるが當事者の御盡力を期して俟ち度く思ふ。

兎に角この賣立問題を契機として諸大家の種々保存に關する高見を拜聽することが出來それに對する具體的對策が講じられやうとする氣運に向いたのは心良い本年度の收獲であつた。

次で本年度より採用された新國定教科書卷11に「法隆寺」同卷12に「姫路城」の2篇が揭載せられるに到つたことも忘るべからざる事項の一である。只法隆寺の內容中には足立博士が諸誌で指摘せられた如く遺憾な點がある様で惜むべきであるが、これも次第に改訂せられて行くであらう。それにつけて想だされるのは卷7の「わざくらべ」が20數年前私共の教へられたものが未だに採用されて居る點で、これは一名工に傳はる寓話として興味本位のものであらうが、想像し得る建築技術より見れば餘りにも假空に過ぎる様に思はれる。閑話休題。國定教科書は全12卷に依つて日本國民として立つ上の國民精神を一通り涵養され得る如く編纂されて居るが、從來古建築の如何に尊ぶべく又これを將來に向つて保存しなければならぬ責務に觸れたものは無かつた。國寶建造物を訪ねて最も遺憾に感じるのは樂書貼紙の類で處きらはず、しかも一角の成人と覺しき人達に依つて汚されて居ることである。これ等はかゝる方面の認識が少年の頃に何等培かはれなかつた一班の現はれと見てもよからう。言はずもがな古建築は祖父の遺產の一であり、これに依り祖先の偉大の業績を知ると同時に現代人としての將來への覺悟を想起せしむるものであつて、國民精神總動員の叫ばれる秋、前記の二篇がこの意味に於て本年度より初めてとり擧げられ、この

點强調せられるに到つたのは大に愉快に感じる處である。

7月4日には例年の如く新指定國寶建造物が發表せられた。この中特に目新しいと感じられるのは閑谷學校聖廟講堂が指定せられたことである。舊古社寺保存法の時代には社寺に限られたものが國寶保存法となつて以來城廓茶室住宅等各種の建造物に及び年々指定と保存が講じられて居るが、この種のものとしてはさきに多久學校聖廟があつたのみである。然しその觀點が主として美術的な處にある様に憶測せられた。これに反して閑谷學校は寛文6年池田光政が岡山縣和氣郡伊里村に手習所建設の事に始り、德川時代藩學校の規模制度を知る上に現存する代表的遺構である。聖廟講堂共に時代は德川中期できして古いとは言へず又多久聖廟に比し美術的にも甚だ簡素なものである故新にこれが登場したのは寧ろ德川時代に於ける藩學校建築の意義が認められた様に私考出來て最近の國寶建造物指定傾向の一班が伺はれ甚だ欣ばしく感じた。これに關聯して昨年は初めて古庶民住宅として河內の吉村邸が指定せられたことが想起せられ、なほ本年は多數諸家が古民家の保存に就て活潑に叫ばれたことも想出される。かく美術的には價値の僅少と思はれる古民家の保存問題もやがて具體的に何等かの形になつて進捗するであらうと察せられ、この方面に於ける本年の顯著な傾向であらう。

終りに日獨文化交換教授として斯界の長老伊東博士が渡獨大任をはたされたのも本年の快事であつた。只一つ最も痛惜にたへないのは長年月の間この方面に多大の御功績あつた武田博士の御逝去に會つた事であり、深く長惜の意を表しこのとりとめない回顧の結びとする。

多難なりし本年の建築界

加藤善吉

國家非常時局に處する政府の對策として物資の需用整調上國策として種々な統制を行つたのである。從つて各般の事業は、或は起り或は衰へ思はない悲喜な狀態を現出するに至つた。

建築界亦その制限下に在つて曾つて見ざる非常な打撃を受けたのである。

然しながら國民としてこの未曾有の重大時局を認識し、國家の總力を擧げて難關突破に當つて居る際、各自その本分に於て益々緊張奮闘の必要を痛感する。

今次時局に於て政府が先づ第一に加へた建築關係に於ける制限は、鐵鋼の使用制限であるが、爾來矢繼早に種々な統制規定を出して居る。今私が記憶のために摘錄した規定を種類に依つて揭記すれば次の通りである。

1. 鐵鋼工作物築造に關しては

昭和12. 10. 11日商工省令第24號を以て公布した鐵鋼工作物築造許可規則であつて、使用數量50瓲以上の工作物に許可制を採り、更に昭和13. 7. 11日之れを強化するために改正を行ひ50瓲以下と雖も要許可となし、尙薄鋼板に制限を加へた。之れに伴つて大阪府に於ては府令第101號を以て昭和12. 10月鐵鋼工作物築造許可規則施行細則を出し、本年8. 1日その改正を行つたのである。

2. 次に銅の制限であるが、昭和12. 11. 6日商工省令第28號を以て銅使用制限規則を公布し、13. 4. 23日之れを改正して其の範圍を擴大した。更に13. 8. 1日再び改正し、且つ商工省告示第227號を以て商工大臣の指定する物品を告示したのである。之れに伴つて大阪府も府令第109號を以て細則を出して居る。

3. 次に鐵の配給統制に關しては

昭和13. 6. 20日商工省令第33號を以て鐵鋼配給統制規則を定め、配給の圓滑を圖ることとなつたのであるが更に13. 9. 12日及9. 30日の兩度にその一部を改正したのである。

4. 銑鐵鑄物の製造制限に關しては、昭和13. 4. 25日商工省令第19號を以て銑鐵鑄物の製造制限を規定した。大阪府令亦13. 5. 17日第68號を以て細則を出し13. 8. 12日府令103號で之れを改正した。

5. 鋼製品の製造制限に關しては昭和13. 8. 12日大阪府令104號で鋼製品の製造制限に關する件の細則を定めた。

以上は鐵鋼、銑鐵鑄物、銅の制限であるが更に政府は木材の統制に關しても輸入の關係

上販賣取締規則を出して居る。即ち米松材は內地材を以て代替し難い特殊の用途に使用せられて居るのであるが、輸入が極度に制限せられるに至つたので昭和13.7.9日商工省令を以て米松販賣取締規則を公布したのであるが、其後需給調節の必要上一部を强化し一部を緩和するために全面的に改正して10.1日から施行せられることとなつたのである。

斯の如く建築の構成主要材料に極度の制限を加へられたために緊急止むを得ざるものの外は中止或は殆ど禁止の狀態に陷つたのである。之れがために當然起る失職、轉業者救濟の問題が起つた。建築學會はその斡旋に當つて居る。又一方使用制限或は禁止の材料に代るべき代用品の問題も擡頭し、盛に之れが研究が發表せられるに至つたが、何れにしても之れ等統制のために建築工事中のもの或は將來建築せんとするもの等、何れもその建築當事者に非常な苦難を與へた。私が主掌して居る堺市の建築に就てその狀況を述べれば、今回の統制下にあつた建築は市民病院、市廳舍、小學校がある。市民病院は起工早きため鋼の制限を受けたのみで本年8月20日竣工を見、市廳舍は鐵鋼工作物の許可を得て目下工事中であるが、その使用鐵鋼總量900瓲中530瓲の許可を得て居るので第二期の着手未定である。小學校の湊校は當時基礎工事完了のために其後順調に竣工を見て居るが、市小學校講堂、熊野小學校は鐵鋼の許可を受けて工事中であるが銅鐵板、鑄物等の制限は當然であるが近く竣工を見んとして居る。

當市小學校の復興事業として最後に殘つた三寶小學校は使用鐵鋼97瓲中35瓲の許可を得て講堂を除き十月初に着工したのであるが今後材料の制限と不足のために相當の支障は期待して居るが、更に一部二階梁及小屋梁の如き相當斷面大きく長尺の材料は米松を使用するを特策とするので之が對策に腐心して居るのであるが以上の建築を以て堺市の風水害に依る復興建築事業も全部着工し得るに至つた事は幸福とせねばならぬ處であつて、今後は之等建築の完成に努力して堺市公共建築物の陣容を整備したいものである。

（昭和13.11.9日）

本年度建築界を回顧して

田上善吉

本年度の新潟縣下の建築界を顧り見るに、實に躍進的な變化に富む建築界である。

多年の希望であつた雪害對策が本年1月1日十日町旬街座倒壞事件、即ち、未曾有の雪害に見舞はれた結果、急速に雪害對策が講ぜられ2月1日特種建築物取締規則並除雪規則が公布され當日より施行された。

縣下特種建築物の總件數12000件にして、これ等の内より危險甚しき建物より順次檢査し、10月20日迄に1357件を完了した。而して、該檢査完了建物中、使用禁止せるもの32件使用制限せるもの3件、補强工作を下命せるもの950件、支障なきもの372件である。

(1. 使　用　禁　止

該當建築物の腐朽甚しく保安上危險にして修繕補强の立法なき場合、修繕補强費用過大にして改築なす以上要する場合、事實上使用セザルモノ、改築の計畫あるもの、他に代用建築物等ある場合にして、使用禁止セザルベカラざる事由ありとするも尙建築主の負擔を最少限度に止むる樣考慮する一面建築主に對し現場に立會はしめ之が内容說示了解せしめ禁止の手續をなしをるものなり。

(2. 修繕補强工作

修繕補强工作も建築主、建物使用者等に經濟的打擊を與ふること大なるを以つて、可成錢材使用を避け經費を最少限度に止むる樣念慮し修繕補强工作を爲さしめ居るものにして絕對に雪に堪える建築物として修繕補强工作を下命するものにあらず、適當に除雪をなすにより始めて安全なる程度のものにして、檢査合格建物と雖も除雪を要するは勿論なり。

尙工作の變更、工事期間の延長願に對しては事情を調査可成認可する方針なり。

然して工作費用の概算を現場檢査技術員をして見積らしめ提示し、以て大工、建築請負者等に依る不當の利を得しめざる樣なし居るものなり。

尙一般民の中には規則以外の建物の檢査を希望する向あるも現在の所指定建築物の檢査すら不充分の憾みありて如何とも爲し難き實情なり。

目下補强工事は着々と竣工し一般民衆は不必要なる修繕をさけ得ること、大工建築請負者等の不當の要求をさけ得ること等により、經濟的に補强修繕が出來得るとの聲を聞くのである。

市街地建築物關係

市街地建築物法關係に於ては、主として軍需工場の增築、新設が多いのである。

建築主は軍需工場は一時的であるとの考へ、又一面建築工事を急ぐ故へ工事が粗雑になりやすいのである。これが爲め建築認可は可成早くなし、工事は充分指導監督をなした爲め、工場建築は順次改善された。

市街地建築物法の施行は、本年は五志郡杉尾町に適要され、今又、十日町より同法施行方申請中である。これで本縣は4市6町2ケ村に施行が及ぶに至りたるものなり。本縣の町村は、積極的に施行方を督勵しなくとも、各市町村の取締の實績に徴し、進んで施行方を申請し來るものである。

以上の如く、本縣は雪害對策と、軍需工場の建築が主なる變化であり比較的多忙な建築界であつた。

昭和十三年度の建築關係技術界を回顧して

白　川　泰

南京陷落の喜びの内に「お芽出度う」と明けて早や1年、武漢三鎭完全攻略竣るとの喜びの内に聽て今年も亦暮れんとしてゐる。先日編輯子より昭和13年度の建築界を回顧して貴下の立場より是非とも何かを書けとの仰せを受けて、始めて年の瀨の近づいたことを知つたのであるが、今更乍ら1年の實に早いのには驚かされた。その内に何か書けるだらうと「はい何か書かせて戴きませう」と安請合ひはしたものの、偖而、筆を執ると仲々書けるものではない。

色々な出來事が、おれが重大だぞ、おれも同じ程度に、否おれの方が遙かに記錄に値するかも知れないぞ、と、一度にこんがらがつて屯して耳のあたりで雜然と囁き、聽てその各々が急にわいわい騷ぎ出した。しばし冥想に耽つた。そして一應頭の内でのみそれら色々な出來事と一問一答を始めてみた。それらの數多い出來事は次から次へと現はれては消へ、消へては又新しいのが現はれて來る。だがその中どれとして何の刺戟も反響も與へないで消えて行くものは一つもない。皆が皆腦裏の壁に何かを深く深く銳いメスで刻みつけて行く樣な氣がする。

これだよ、これもだよ否この方こそだよと、色々な注意と警告がチラチラと銳い刺戟に富んだダイヤモンドの樣な冴え返つた光を放つて、お互が明滅しては躍動して行く。その度毎に何かを教へられ、一つ一つ賢くなつて行く思ひもすれば、又、窮して通ずる樣な氣のすることもある。

哀愁と悲嘆、悲觀と怨嗟が低調なオルガンの音に似た幽かなメロデイーで讃美歌の樣な哀しい曲を傳へて來るかと思へば、その奥の方から急に歡喜と希望、躍進と發憤と云つたもの、建設へと躍動せんとする輕ろやかな足踏の氣持ちの良い音が聞えだした。かと思ふと、聽てそれは躍動する齒車の活氣ある音に代はり、それが涌き上つて來て、あたりの萬物は次第に黑い黑い幕にとざされて行く。銳い赤い赤い坩堝のそれに似た光がその闇の底から輝き始め、そしてそれが次第に大きくなつてあたり一面に眩ゆい位の刺戟と興奮に富んだ光芒をふんだんに發散し出したかと思ふと、時々凄い凄い青い閃光が稻妻のそれの如くにキラツキラツと輝く。齒車の轟然たる音響は今や心の奥底から興奮のありつたけを抽出してこれを滾ぎらせて吳れる。躍進だ、躍進だ只躍進あるのみだ。

ハタとそれが消えた。視野は暗黑だ。眞黑なベルベツトの表面に投げ懸けられた光の淡い反射光が發散する柔かいがそれでゐてしかも深い深い奥底の知れぬ無氣味な漂ひのある視野の内に、世界が移り、社會が動き、その間を技術が政策と肩を並べんとして左に小競

合ひをしながらも無理やりに手を取り合つて慌しく歩んで行く。その内に誰かゞ「技術なんては政策の完全なる遂行は困難だらう」と囁けば又誰かゞ「技術も政策も同等だぞ」と呟く。「凡ゆる災害を救ふのも技術であり、災害を未然に防ぐのも技術だ。」と云ふ聲もしてくる。

と、突然、長期膺懲子が音色高らかにトランペツトを吹き鳴らす。國家總動員./統制./制限./禁止./長期建設./の響が一頻り國家の隅々に鳴り響くと、視野は次第に濃い濃い軍事色一色に塗りつぶされて行く。建築も、公園も、自動車も、社會も、そして國土全體がその軍事色一色の視野の内に次から次へとこんな文字が走馬燈のそれの様に一方から一方へと、恰もネオンサインの明滅の如く、極めて明瞭に展開しては消え、消えては展開して來る。

「帝國政府の將政權相手にせず聲明と長期膺懲の決意」「北支より中南支へと戰線の擴大と事變の長期化」「國家總動員法の第七十三議會通過と本格的長期膺懲態勢の完成」「物的資源の涵養と消費統制」「厚生省の誕生と銃後國民體力の向上と國民衛生の交實」「第七十三議會八十億の超巨大豫算を無事に通過」「軍需品調達の支障除去國民生活の脅威防止、物價暴騰の抑制と多數重要商品の價格公定、使用制限、禁止の强化と法制化」

「中央物價委員會の成立と纖維・食料品・木材・皮革・ゴム等の公定最高標準價格の設定」「金・銅・鉛・銑鐵・繰物製造物・棉・綿製品・皮革の使用制限又は禁止の强化と規則の公布」「ガソリンの消費節約と配給統制と木炭自動車の街頭進出」「退藏資源の回收と廢品の再生と代用品の研究」「內務省の物資統制に關する經濟警察機構の決定と强化された取締」「北支開發會社と中支振興會社の設立」「排日アメリカ勞働總同盟木材業の恐慌狼狽對日接近論を政府に建言」

「紀元2,600年奉祝記念橿原神宮神域並に畝傍山東北陵參道擴張整備工事起工と集團勤勞運動の高調」「武田伍一博士の逝去と建築界の損失」「四天王寺五重の塔の再建と神戸湊川神社の大鳥居の上部轉落」「オリムピツク東京大會の返還と萬國博の開催延期と厚生會議よ何處へ行く」

「防空施設五ケ年計畫と三回の防空訓練演習」「家庭防空室の建設と地下防空壕の奬勵と火災實驗の施行」「鐵材使用構築物抑制と大阪驛の建築變更」「防空と綠化と內務省の全國的綠化運動への進出」綠地法案の作製と市街地建築物法中の改正」「關東大水害と神戸地方の大水害」

「無筋コンクリートの研究と竹筋コンクリートの擡頭」「煉瓦工法の再檢討と鐵筋コンクリート工法の訂正」「チツソライト、ベークライト、プラスチツクス世に出る」「鐵管・鉛管の使用制限と上水道」「アマベストの制限とスレート・ヒユームパイプの打擊」「鉛管代用品としてのエタニツトパイプの研究」「失業防止と政府の轉業對策」

「出征と傷病軍人の增加」「無言の凱旋と數次の論功行賞」「人的資源の欠亡と工業技術者の傭入れ制限」「工業技術者の登錄と厚生省直營の職業紹介」「ヒツトラーユーゲントの來朝と近視眼の皆無」「體位向上・近視眼絶滅運動と建築的の考慮」「建築技術者の滿州・北支・中南支への躍進又躍進」「木造建築依然支し差へなし」等々……

だが、その何れもが何か意味深長なものを腦裏に殘しては消えて行く。そして、それらは互に新しい問題を提供しては批判と研究を求める。そして、それらに對して腦裏に浮ぶ

解答は新しい道と、新しい行き方とを教へて呉れる。

フイナーレだ。邊りはパツト明るくなつた。上からも、下からも、横からも櫻の花、花花、日の丸の旗、旗、旗。武漢三鎭の完全攻略は竣つた。長期建設だ。躍進だ。全面に表はれた如上の諸問題は各自銘々の趣向で自由な方向に御互に、打つかることもなく各々その道を求めつゝ入り混つて、そしてほゝえましくも笑くぼすら浮かべてその解決へと目指して進んで行く。

進む進む皇軍は漢口目指して、廣東陷ちて數日武漢三鎭の攻略も既に竣つた。世界は驚き、吾人も驚いた。戰はこれからだ。建設./建設./長期建設へ./

天地に轟き、世界を搖がす合唱だ。

櫻日本の吾等は、躍進日本の吾等は
動ある前の靜寂だ
轉換への足踏みだ
躍進への準備　そして
發散への鬱積だ
躍進./躍進./長期建設目指して
只躍進あるのみだ。

顧て昭和13年の幕がしずしずと降りる。フト我に歸つてみると世は慌しい師走だ。兎に角日まぐるしくも多端な一年ではあつた。　　（昭和13. 11. 8. ）

本年度の回顧と來る可き時代への豫想

中野吉禰

武漢陷落を一區劃として、積極的な長期建設が强調され、實施せられる處に、建築界の活潑な動きがあり、新興支那の復興と資源開發の着手からは建築界の大陸進出を要望され要求される。鐵鋼制限と製造制限と資金調整とに依る統制の强化は事業の不振と相俟つて建築界を極度に萎縮させた原因であるが、今將に時代の波に乘つて伸展し、飛躍せんとしてゐる姿こそ、吾々の待望久しきものである。此の時代の推移を凝視しつゝ、長期建設の希望に燃えて、過去一ケ年を靜かに回想し、明日への建築界の動向を觀察し、豫想してみる事も無意義ではないであらう。

（1）

確かに過去一ケ年に於ける建築界は、全體を通じて苦難時代であり、苦闘時代だつたと云へる。物資需給の調整と軍需資材の確保等に依り急激な統制の强化を必要とするにいたつた全面的統制化の一過程に於て、統制の爲の法令の續出となつて現れて來たのであつたが、法令の消化不良を嘆きつゝ、よくやり遂げたものだときへ考へる。建築界は深刻な生切る惱みに眩惑されつゝ、凝つと胸三寸にたゝみ込んだ頑張りは、國家と國民の豫想を裏切つた驚異的な頑張りと云へる。その頑張りは今更喋々する迄もなく、建築界が、盡きざる文化建設事業の主流であり、建築が人間の文化生活の不可缺な存在であるからでもあらうが僅かに殘された建築材料のストツクによつて、統制と事業的な不況とを無事に切抜け尙微動だもしない餘裕を見せて立上つてゐるのは、建築界の持つ不撓不屈の精神力と共存共榮の爲の義俠的な協力と相互扶助による時局認識とから生れ出たものに外ならないと推斷してはばからない。

而しながら、個々に就いて、之を見るなれば、時局が事變そのものゝ戰果の擴大と共に準戰時體制から、戰時體制へと、推移の道程を辿るにつれて、法令の連續的な發令に依る事業の閑散となつてゐるのは事實であり、又之等法令が、急迫した情勢下に於て、拔打的に行はれた爲に法令を取扱ふ者も、取締られるものも、法令の消化と、手續の多岐多樣とに、とまどひさせられてしまつた事はほんとうである。遂には苦況に直面して大きな打擊を受けた中小建築業者をして統制の緩和を叫び、臨時建築法規の制定を陳情するに至らしめたのであると、首肯され察知される。統制の强化は、建築構造物の主體たる鐵と銅と其他の金屬の使用を嚴禁し、鐵や銅で作製される製品は製造制限に依り供給の道を斷たれ

て終つた。殊に薄鐵板使用を禁じられるに致つた建築界は大規模な事業から完全に見離され、不振の鐘を打鳴らして、その活路を木材に求め、細々ながら今日迄生きながらえて來たのであるが、その木材さへ、一時は制限されようとさへした。〝木造家屋建築制限案〟がそれである。同案によると、一般住宅は建坪35坪工場は75坪を限度とし、それ以上は全面的に不許可とする方針の下に、木造建築の制限を企圖し、內地產の木材及び其他の建築材料の消費節約を計らんとしたのであつたが、池田商相の技術と技術家に對する理解と同情とから採用されず撤回され、此處に木造家屋建築制限案は暗から暗に葬り去られた譯であるが、思ふだにぞつとする、おつかない制限案であつた。

商相の、同案に決裁を與へなかつた理由は〝案そのものが、內地材の消費節約を計る目的であるなら、現在の時局は未だ需給統制を必要とする段階には達してゐないから不必要である〟と云ひ〝殊に釘や建築金物等の建築材料は製造制限によつて統制されて居るから木造建築の亂立による木材の不足にはならない〟と云ふにあつた。更に商相をして〝單なる貯蓄奬勵や消費節約を企圖しての案であるなら、生活と不可缺な住宅に對して、斯る強度の制限を行ふ必要はない〟と云はしめた事に對し建築界は擧つて技術と技術家に理解の深い商相に敬意を表すると共に、厚く感謝しなければならない。而し藏相としての池田氏はまるで別人の感である。彼は〝聖戰の目的達成の爲には、影響が如何に深刻であらうと統制の强化は必ず實行する〟と斷言して居り、その上〝統制は今後數ケ年は續くものであり、これからが眞の長期建設戰であるから國民はその覺悟と準備をして置かなければならない〟と戒められてゐる。此の際に於て建築界の用意はいゝのかと叫んで見たい衝動にかられるのは、個人的意志表示ながら、至當ではなからうか。而し吾々が冷靜に建築界の過去を回想する場合、一方に於て、軍需工業方面の多忙な生活から、嬉しい悲鳴をあげてゐる反面があるに對し、他方に於て、鐵不足と鐵使用禁止による設計難があり、工事の閑散がある事を忘れる譯にはいかないのである。此の設計難と工事の閑散は中小業者の失業者の續出となつて統制の緩和を叫ばしめ、悲しいあきらめから貴重なるその日その日を空費し、苦闘によつて得た幾何かの財產を浪費する不幸な結果を生じて居り、建築界全體を通じて破行的な不自然な相剋の甚だしい不幸な一年間を終へたと結論することが此の際至當であるだらう。

（2）

——豫想はどこまでも豫想であり、的中するか否かは疑問であるが、來る可き時代への豫想は現實的なものであつて空想的なものでない——

積極的な長期建設を必要とする必然的な現象は、新興支那の復興と開發とに拍車を掛けるであらうし、建設事業の一翼たる建築界の明日への宿題も又長期的な大陸進出への企圖に拍車を掛けるであらう。なぜなれば〝長期建設の意義〟は東洋人の東洋建設によつて

のみ依存されるものであり、一方に於て、銃と劍とに依る東洋の平和確立の爲に、目覺めざる共産化せる抗日蔣政權の撤底的な膺懲に軍事行動を繼續し、他方に於て新しく生れでた新興支那政權を援けて復興と開發とを行はねばならない長期的な建設事業であるから、建築界の大陸進出も又長期的な滯在の必要をよぎなくされるのは當然の歸結である。

而しながら建築界の大陸進出の企圖に於ては長期建設事業に消費される莫大な資本と資材が必要とされ、それへの提供により、國內的に使用さる物資の極度の節約による統制が强化され、建設物に必要な材料の量的、質的な貧困を到來するだらうと云ふ見通しから明日への生活に對する不安と焦燥は、生きんが爲の生活への對策から具體化され、早急に長期的な大陸進出を實現させなければならぬといふ見解と生産力擴充による建設事業の增加と、セメント業界の副産物的に製造される銑鐵事業と特殊鋼生産と粘土を主成分とする輕金屬（アルミニユーム）生産の可能な多角的經營の實現化と大冶鐵山の復舊開發による鐵鑛資源の國內的な潤澤と米松販賣統制規則の改正等により、建築界は甚だ緩慢的ながら伸展を見せ事變終了と共に落付くであらうから、あはてる必要はないといふ見解の、積極と消極の二潮流を廻つての議論が、話題の中心となるであらう事が推察せられるのである又最近に於ける話題の中心は技術と技術家に對する一評論家の論說から生じた技術及技術家に對する認識不足による誤謬であらう。此の誤謬は波紋となり、電波となつて擴大し、技術評論の擡頭となり、技術家の社會的進出の運動となつて心ある人によつて表面化せられて來たが、微々たるものであつた。新しき年に於ける、技術の社會性と技術家の地位に就いての技術家の絶大なる反駁と運動が當然爲されるであらうことを期待するものである

技術及技術家に對する評論が、時評的ながら、輿論を代表する新聞に揭載された事は、技術の重要視されつゝある現在に於て、悪い事ではない。勿論喜ぶべきであらう。此の機會に評論家の技術理論の貧困さを是正して置く事が目下の急務であらうと思ふ。それが技術輕視の悪習下に於ける、技術家の酷使を救ひ、評價度を增長せしむる早道である譯である。技術の尊重されつゝある現象は技術の正しい批判と共に、技術家の社會的地位の把握と向上に對する要求に効果のある絶好なる機會と云ふ可きである。その要求は、決して不當でもなければ、不自然でもない。國家總動員令の要求される長期建設の全段階に於ける指導者であり、建設者たる者の當然な叫びであり、時の要求でもある譯だ。

人間社會に於て、最も密接な關聯を有する技術を把握せる技術家としての眼目が、人類生活の向上進步を以て目標とする以上、主義と意思と思想とによつて社會的地位を得たと稱せられる政治家、法制家、經濟家と同じ樣に、社會の統帥者、支配者の仲間入をする日も遠からず來るであらう事を、武官政治から文官政治となり、更に武官政治へ還元した現在に於て尙、○○○運動を提唱しなければならない割讓以來30餘年を經過せる台灣統治の文官政治の失敗と技術家出身の八田嘉明氏の拓務大臣決定といふニユース報導とを前提として、單に豫想するに過ぎないが、來る可き時代に於て、一步一步指導的に、建設的に、

邁進する技術と技術家の地位の向上運動に關し、積極的に論議される事を念願するものである。而し論議の對照は、どこまでも今日の時局と社會情勢とから、國家總動員體制が要求される時代意識と責任重大な技術家相互の自覺でなければならず、又技術に對する無理解と認識不足とに起因する技術家の酷使からは完全な長期建設事業は期し得られない事を理解させる事でなければならない。あらゆる事業計畫に技術家が關與する權利と義務を有す可きを國家及國民に要求する運動の遂行に建築界の先輩諸氏の抱負と識見とから生れる實際論の（都市計畫等に見る空想論では駄目である）の發表を切望し期待する一人である

末筆ながら甚だ纏りのない文章である事を御詫し、今後の御指導と御鞭韃を願ふ次第である。「完」

商工省の建築統計に現れた銃後の建築界

菅　　陸　二

1. 前　が　き

支那事變が武漢三鎭の陷落に依つて、愈々長期建設の段階に入つたことが强調されてゐる現在、我が建築界の過去1ケ年を、凡ゆる視角から回顧し反省して、其の中から將來に對する我々への教訓を學び取ることは「色んな意味で全く必要なことである。筆者のやうな者にまで「本年度建築界の回顧」に就て執筆を求められた本誌編輯の方々の意嚮も亦此の點に在るであらうと愚察する。事實、支那事變勃發以來1ケ年餘の我が銃後の建築界は文字通り眼まぐるしい變化と、息づまる樣な緊張の連續であり、百難一時に迫つて萬感交々胸を壓し、落付いて自己を顧る餘裕さへない狀態にある。直接生產に關係しない立場の筆者にさへ業界の苦難が痛々と感じられ、言葉に出すには餘りに深刻な感がある。曰く木材の輸入制限、曰く鐵鋼工作物築造の制限、曰く鐵鋼の配給統制、製造制限、曰く銅の使用制限等々々。かくて昨年所謂準戰時體制から急テンポに戰時體制に遷つた建築界は、本年に入つて更に之等統制諸法規の打續く制定、或は改正に依り、體制は一段一段强化の一途を辿り、遂に最近の長期建設の段階に到達した。此の一般情勢が建築工事の統計に於て如何に現れたかを、以下商工省の建築統計から計算した表や圖によつて示さう。從來との比較の爲統計の數値は本年のみに限らず統計開始以來（昭和11年10月以降）の全部を採用した。又本年9月以後は未だ統計が明かにされてゐない爲、割愛を餘儀なくされた。尙該統計は市街地建築物法に基く建築願届書類に就ての統計であるから實際に行はれた建築工事との間に多少の差のあるべきことは一應注意を要する。殊に最近は建築材料の使用制限配給統制等の關係上、工事着手が建築認可又は届出の月より延期され、又は中止して單なる設計に終るものの數も、就中鐵鋼構造の建築に於てかなり有り得る譯である。

2. 建築延面積

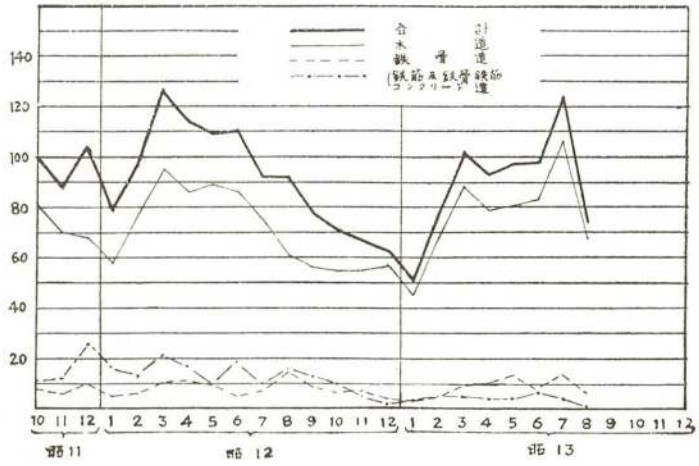
第1表乃至第3表は建築工事の量を表はす一指標として建築延面積をとり、昭和11年10月中の建築延面積の合計（1,457,488m²）を100として各月の建築量を指數にて示したものである。其中第1表は之を工事の種別に依り、第2表は構造の種別に依り、第3表は用途別に分つて表示した。第1圖、第2圖は夫々第2表、第3表を graph にしたものである。

建築の總量は昨年の後半に於て事變勃發以來急激に減少を示したが、本年に入つて稍々勢を盛り返し、7月の如きは昨年の最高3月と大差のない迄に達してゐる。然し翌8月には再び急激な減少を示し以後の變化を懸念せしめてゐる。概觀的には建築の空間的量たる延面積は想像される程減少してゐないことが首肯される。

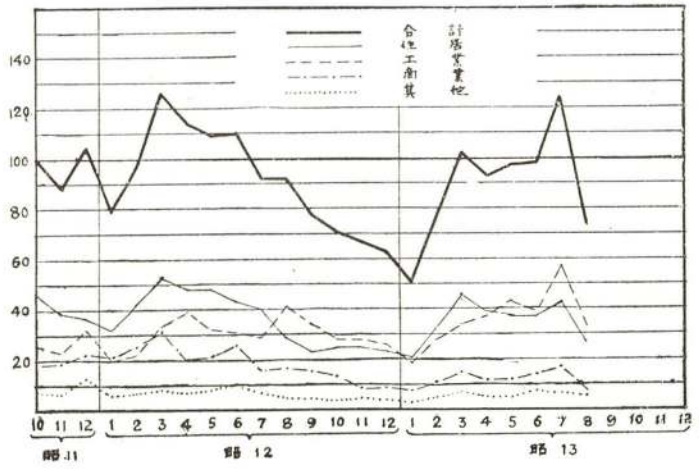
第1表の工事種別による建築延面積指數表に於ては特記すべき明瞭な徴候は表れてゐない。

第2表（第1圖）の構造種別に依る指數に於ては鐵鋼の制限乃至統制の影響が、かなり明瞭に現れる。即ち鐵鋼工作物築造許可規則が、昨年7月20日から施行され、更に本年7月11日に之が改正され制限内容が強化されて、同月15日より施行されたことを念頭に置いて表を見れば、自ら其の影響の程度が窺はれる。同じ鐵鋼構造であり乍ら獨り鐵骨造のみが制限に無關係の様に見えるのは、國策上必要な種類の工場建築物が商工大臣の指定に依つて制限から除外され、且之等の工場が好況に惠まれて盛んに新設擴張を行ひつゝある結果であることは勿論である。然し7月11日の改正で之等制限除外の範圍は相當縮少されたから、以後如何に變化するかは今暫く經たぬと判然しないが、既に8月の指數に其の影

第 1 圖　建築延面積指數表（構造種別）



第 2 圖　建築延面積指數表（用途別）



第1表　建築延面積指數表（工事種別）

年　月	合　計	新　築	增　築	改　築	移　轉
11. 10	100	64	22	12	2
11	88	61	18	7	2
12	104	68	22	13	1
12. 1	79	51	17	10	1
2	96	65	20	9	2
3	126	88	25	11	2
4	114	82	21	9	2
5	109	74	23	10	2
6	110	79	22	7	2
7	92	64	20	7	1
8	92	58	24	6	4
9	78	51	21	5	1
10	71	47	18	5	1
11	67	42	21	3	1
12	63	42	15	4	2
13. 1	51	33	13	4	1
2	77	52	18	6	1
3	102	70	21	9	2
4	93	60	25	6	2
5	97	61	28	6	2
6	98	67	25	5	1
7	124	79	33	10	2
8	74	47	20	5	2
9					
10					
11					
12					

第2表　建築延面積指數表（構造種別）

年　月	合　計	木　造	鐵骨造	鐵筋コンクリート造	鐵骨鐵筋コンクリート造
11. 10	100	81	8	4	7
11	88	70	6	4	8
12	104	68	10	12	14
12. 1	79	58	5	4	12
2	96	77	6	5	8
3	126	95	10	11	10
4	114	86	11	6	11
5	109	88	10	7	3
6	110	86	5	8	11
7	92	75	7	7	3
8	92	61	15	9	7
9	78	56	9	7	6
10	71	55	6	4	6
11	67	55	7	3	2
12	63	57	4	2	0
13. 1	51	45	3	2	1
2	77	68	4	4	1
3	102	88	9	3	2
4	93	79	10	3	1
5	97	80	13	3	1
6	98	83	8	6	1
7	124	106	14	2	2
8	74	67	6	1	0
9					
10					
11					
12					

（註）煉瓦造、コンクリート造、石造、其他を合して昭和12年5月に指數1に達したが他の各月に於ては指數に上らない。

響が表れ始めてゐるかの様でもある。木造建築は種々の困難にも係らず、本年3月以後昨年の最盛期に近い量を續け7月には一躍して統計開始以來の最高記錄を作つた。木造建築の量が比較的減少しないのは、鐵鋼の制限に依つて一部が木造に轉向する點が相當影響してゐるであらうし、7月に於ける高記錄は當時傳へられた木造建築制限の聲に刺戟されてであらう。（此の點に就ては尙後述する。）各月の全建築延面積中に占める木造延面積の百分率をとつて見れば昨年10月迄は平均76%、最高81%であつたが、昨年12月以後は平均87%、最低85%となり、格段の相異が認められる。防空防火の必要性に迫られて居り、然も既に殆ど木造建築に依つて充滿されてゐる我國都市の現狀とを想ひ合せて、此の傾向を眺める時は、我々に胸迫る壓迫感を起させずには置かない。且第2表の註に記した様に鐵鋼構造に代るべき煉瓦造其他の耐火的な構造は其の量極めて僅少であり、鐵鋼制限後も殆ど增加の傾向は認められない。

第3表（第2圖）の用途別の指數表に於ては工業建築物の躍進と商業建築物の萎縮が對蹠的に顯著である。住居建築物及其他の建築物（主として公共建築物）は想像される程萎縮が顯著でない。

第3表　建築延面積指數表（用途別）

年　月	合　計	住　居	工　業	商　業	其　他
11. 10	100	47	26	19	8
11	88	39	23	19	7
12	104	37	32	22	13
12. 1	79	32	20	21	6
2	96	42	22	25	7
3	126	53	33	32	8
4	114	48	39	20	7
5	109	48	32	21	8
6	110	43	31	26	10
7	92	40	29	16	7
8	92	29	41	17	5
9	78	23	34	16	5
10	71	25	28	14	4
11	67	25	28	9	5
12	63	24	26	9	4
13. 1	51	21	19	8	3
2	77	33	28	11	5
3	102	46	34	15	7
4	93	39	37	12	5
5	97	37	43	12	5
6	98	37	39	14	8
7	124	43	57	17	7
8	74	27	33	8	6
9					
10					
11					
12					

3.　一棟當り床面積及び單位床面積當り工事費

2に於て見た建築界の情勢を更に具體的に判然と知る爲に建築物の規模が如何に變化したか、及び建築工事の單價が如何に變化したかを算出したのが第4表乃至第7表である。

規模は一棟當りの平均床面積（m²）に依り、單價は床面積一平方米當の工事費（圓）に依つて一應表はし、夫々を構造種別及び用途別に就て求めた。

先づ規模に就て見れば第4表に於て鐵骨造の規模は本年に入り增大し、鐵筋コンクリート造鐵骨鐵筋コンクリート造の規模は縮小したことが認められる。木造の規模には比較的變化が乏しいが本年6月以後急に增大したことは注目される。之は前にも述べた同一原因であるが、鐵鋼の統制が本格的となるにつれて規模の大きい、從來ならば當然鐵鋼構造たるべきものが次第に木造で建てられる樣になつたことと、6月初旬に新聞に報導された床面積30坪以上の木造建築物の建築制限云々の聲に刺戟された結果であらう。用途別に見れば、（第5表）住居、工業、其他の三者には顯著な變化は認められないが、商業建築物の規模が減少して木造建築の平均規模に殆ど一致して來たことが目立つてゐる。之も鐵鋼の制限に依つて大規模の商業建築物の新築や增築が休止狀態に陷り、建築されるのは殆ど大部が木造の店舖住宅の類に限られるやうになつたことを物語るものであらう。又、住居、工業、商業共、申し合せた樣に7月に於て格段に規模が大きくなつてゐるのは、矢張り前記の新聞報導の影響であらうと思はれる。

次に單價に就て見れば、構造種別（第6表）には顯著な變化は認められないが全體として漸騰の傾向は看取し得られる。用途別（第7表）では鐵鋼制限の前後を比較して商業建築物の單價が急激に低落してゐることが注目される。單價の上騰下落は物價に急激な變化の無い限り其の部門に鐵鋼構造が多くなつたか木造が多くなつたかを示す有力な指標であ

第4表　一棟當り平均床面積（構造種別）　（單位：平方米）

年　月	木　造	鐵骨造	鐵筋コンクリート造	鐵骨鐵筋コンクリート造
11. 10	95	592	530	2040
11	92	541	522	2236
12	98	710	1410	3149
12. 1	98	432	524	4498
2	93	423	553	2361
3	93	713	987	2247
4	94	788	562	1834
5	95	687	536	1125
6	101	458	788	4337
7	99	517	646	1704
8	101	1205	1042	2728
9	103	745	827	2215
10	93	550	527	2411
11	93	526	416	1162
12	104	390	406	244
13. 1	99	503	379	1124
2	96	464	385	949
3	99	818	332	3011
4	98	702	378	1236
5	98	949	264	1991
6	111	641	689	541
7	137	1014	295	2210
8	110	941	334	990
9				
10				
11				
12				

第5表　一棟當リ平均床面積（用途別）　（單位：平方米）

年　月	住　居	工　業	商　業	其　他
11. 10	86	174	124	222
11	82	148	149	242
12	91	200	185	413
12. 1	91	141	216	273
2	84	133	158	203
3	89	153	161	201
4	86	193	126	217
5	87	158	119	240
6	89	166	172	272
7	94	152	123	219
8	88	240	172	185
9	85	191	165	232
10	81	149	140	192
11	81	150	93	220
12	89	139	105	216
13. 1	90	130	106	216
2	85	139	95	212
3	88	139	98	266
4	85	158	99	212
5	87	182	95	209
6	92	167	120	315
7	106	232	142	273
8	86	167	99	247
9				
10				
11				
12				

第6表　床面積1平方米當リ工事費（構造種別）　（單位：圓）

年　月	木　造	鐵骨造	鐵筋コンクリート造	鐵骨鐵筋コンクリート造
11. 10	17	38	56	37
11	17	35	58	72
12	17	30	52	78
12. 1	17	39	56	85
2	18	43	69	94
3	18	47	79	98
4	19	54	63	79
5	19	52	65	95
6	19	55	68	114
7	21	44	67	113
8	18	56	63	97
9	20	52	75	85
10	19	60	66	81
11	19	83	73	66
12	19	54	61	71
13. 1	19	56	66	83
2	19	54	67	139
3	19	50	66	59
4	20	51	64	89
5	21	56	67	67
6	22	54	60	68
7	23	61	75	96
8	21	58	74	63
9				
10				
11				
12				

第7表　床面積1平方米當リ工事費（用途別）　（單位・・圓）

年　月	住　居	工　業	商　業	其　他
11. 10	18	22	28	31
11	18	22	41	40
12	18	23	56	43
12. 1	18	24	56	35
2	18	26	47	31
3	19	29	56	40
4	20	34	43	40
5	20	34	29	41
6	19	32	59	45
7	20	29	42	41
8	20	37	57	33
9	20	32	50	44
10	20	31	42	48
11	19	40	21	36
12	20	24	22	33
13. 1	20	27	23	38
2	20	27	23	49
3	20	27	24	35
4	21	30	23	33
5	23	33	25	36
6	24	28	23	44
7	24	33	25	40
8	21	29	24	35
9				
10				
11				
12				

るから、此の商業建築物の單價の低下は前記の第5表に就て述べた事項を裏書するものである。住居、工業、及び其他の三者は傾向が比較的顯著でない。即ち之等3部門では鐵鋼制限の前後に於て鐵鋼構造建築物の比率が顯著な變化をしてゐないことを示す。住居建築物の單價が木造の單價と非常によく符合してゐるのは從來から住居建築物の殆ど全部が木造である爲の當然の結果である。　（昭和13. 11. 5）

築造工(大工)資格試驗制度に關する質疑

鈴　木　忠　五　郎

ま　へ　が　き

大工資格試驗制度の必要を數年來主張して來た。幸にも昨年本協會教化委員會の採擇する處となり大工棟梁並びに大工業組合聯合會長始め關係者十數名を招待して、之を中心に座談會を開き益々其の時期到來、やることを實現したのでした。本年に入り、更に之が實際的具體的實現方法の研究に入り、先づ如何なる程度內容を試驗すべきやの問題に入り、いよいよ最後の實際方法にまで進展したのである。今や教化委員會は、その草案を造り、之を根底になし、更に幾多の先輩實際關係者の意見を含めて之が實際化運動に轉ぜんとするの時に至り、從來本制度の研究調査に當り常に疑問視せられ、危險視せられたるものをば此處に擧げて、解答を極簡單に記して參考に供し、御援助御協力頂けますれば幸である。

亦大工を築造工なる名稱を附したは、他意あるわけでなく、只更生した大工の意味で、新語を之に冠せただけのものであることを考へて貰ひたい、築造工なる名稱が妥當なりと云ふのではない、他に適當なる言葉が發見出來なかつたし、亦現在棟梁をば築造士と稱する考への下に、只例示したに過ぎない他に適切なる名稱があり、それが大工更生に妥當なりと認めらるゝなれば、改めても少しも差支へない、この點了解されんことを望む。

1.　何の目的を以て、かゝる制度を設けんとするか、現在なくて少しも差支へないではないか、わざと波立てるには及ぶまい。

現狀維持の考へではないかと思ふ。現在大工の位置待遇、並びに技術が向上且つ進展しつゝあるなれば、かゝる制度は望む所ではない。

亦一方大工は機械の所謂多能工的色彩を多分に含む、亦一面建築の小マネーヂーなるの位置にもある。かゝる狀態より之を向上せしめることが、建築界向上に多大の力があると同時に、現在良工なしの嘆聲を一部除けはしないか、尙大工の子弟が大工とならざる狀態が幾分緩和されやしないかと思ふ。即ち資格制が出來れば、相當之が法律化し、强制化すれば、大工數も相當制限されるし、相當努力しなければなれない故、社會的の待遇も上りやしないかと思ふ。一方大工徒弟の勵みとなり、目的となり得る。要は大工の待遇及技術の向上を計り、延いて建築界を向上せしめる、次に良質なる徒弟の大工への參加が幾分でも增加しやしないかとの理由からである。

2.　設けなければならぬ理由は

眞の技術腕等は中々素人等が見分けつくものではない、口先だけでうまく操られてしまふ、信用等と云ふがどうか、資格制度は、この缺陷を除し、少くも最小限の腕技量は檢定

濟だ、築造工なれば、誰でも一人前の腕があることを證明してゐるからである。故に素人が大工と云ふては中々それ相當の大工は來ない、一方大工自身も5年も6年間も修業してやつと大工になつたものと、素人で大工道具を持つただけのと區別され、待遇される結果、其處に誇りと自負心とを持つことが出來、責任ある仕事が出來る。

官廳の職人の雇入れの適切なる條件の一つになり得るし、一方大工も亦、認識される結果一層努力することになる。

3. 職業の自由を阻害することになりやしないか。

尤もなことであるが、資格制限が決して職業自由を阻害するとは云へない、特定の職を得るには、それ相應の努力修業は附隨する。理髪士、産婆、按摩、自動車の運轉士、擧げれば限りがない。建築法規の徹底から見ても、相當の知識、相當の技量のある工人を要求してからの法規ではないかと思ふ。法規の理解出來かねる程度のものを工人と認めてもよい、どうでもよいは、法規制定の趣旨に反するものと考へられる。他面から考へるなれば資格制の爲に却つて職業が保護され統制され、順調なる進展をなすのではないかと信ずるインテリは職工に等なりやしないと云はれる方があるかも知れない。インテリも程度の問題、今更文字の讀めない、仕樣書の解釋の出來ない程度の職工だけの方がよいと誰しも主張しまい、建築常識のある職工は、建築施工を合理化する。此の點から、この試驗制度は大いに意義がある。現在の老境にある所謂文字のない大工はどうするか、これは問題外、法制化しても、やはり既得權は認められる故、大工たるには相違ない、それでは折角の制度も實效は少くなりやしないか、勿論その通りではあるが、10年亦15年と經過する內には、その效果が表はれる、物事は急激に完全化しないのは常道だから仕方がない。

4. かゝる制度を現社會は切實に要求するや、亦それ程迄に重要性があるか。

中々難しい問題で要求があるか、重要性があるかは見る人の心により異なる。之を大工側、之も相當に現在伸びてゐるものはその感も少からうが、一般的に見るなれば重要性がある、切實なる要求があると見られる。

大工と云ふ職業は、極めて必要なものである、それに之を受け繼がんとする徒弟が減少しつゝある狀態、勿論待遇又は制度の不備によるが、之を防ぐ方法、亦之を保護し助長する方法は資格試驗制度の外にはないと思ふ。

之を壘となし、大工の職業線を守らなければ大工の將來を救ふ道はない、知識の向上、技術の向上と共に更に社會的待遇の向上を計らんにはこの道が最も合理的の進み方と見られる。

5. 如何なる程度で試驗するが合理的か、現代の社會狀勢に適合するか。

之は難問題であるが、普通國民教育の水平線以下には定むべきでなく、之より幾分高い程度には少くも決定すべきであると思ふ、現在の乙種工業學校卒業程度、尋常科卒業を入

學年齡とする３ケ年卒業のものである。之が最少限であらう、青年學校が義務化せんとしてゐる現代から見れば、之を程度にしなければ時代逆行になる。現在建築關係の學校又は之に匹敵する塾があれば、それは大工受驗者からは好都合ではあるが、現在は少い、それ故、多少此處に無理がある、併し此の制度が出來れば必要の前には、かゝる機關は生れて來る心配の要はなからう。

6. 技術の試驗が果して出來るか。

大工の技術と云ふと、何か。大工は前述の樣に多能工に匹敵するものである故、廣汎に亘るし、亦之が專門と云ふ單純なものはない。

板削りでも時には一人前であるし、木挽へ、取付、墨付、矩計其他多方面に亘る、何れをどの程度にやるべきか、亦どの程度が一人前か、一人前とは仕事量か亦その手際良さ技巧の妙であるか等が論議の的となる。併し試驗の眼目は、合格者中に素人が萬一にもない事、次に相當仕事に馴れたものが占めること、更に、體力で行く、削りもの、細工もの、取付けから、或程度の墨附、現寸圖、矩計圖の製作の出來るものが要求される。之が一回の試驗で出來るかの問題だが、その前に大工の修業年限四ケ年位が適當と信ぜられるが、それに責任持つて之が徒弟養成に當つた棟梁の推薦を基礎として、その上に一定の技術考査を課す故、先づ大過がないと思ふ。それに之を主査するのが築造士即ち棟梁なれば先づその仕事のやり振り、道具のコナシ方等でも或程度までの鑑識は出來る筈である。只名人名棟梁の考査でなく、普通一般の職工として、先づ標準賃銀を支給して差支へないか否かの檢定なる故左程困難ではないと思ふ。

7. 具體的にどんな仕事をさせる積りか。

先づ此處で、實際に實施するとすれば、長押の仕上げ、一部取付けさせる。出窓の手摺一部を製作させる、亦日本小屋隅の一部を圖面により工作させる等、いくらでもある。普通の大工、一人前の大工に棟梁が依頼する範圍の事をさせる。そしてそのやり方その結果を見て、合格不合格を決定したなら、合理的のものと考へられる。大工資格試驗で最も大切なのは、この技術技倆の考査の如何である。合格者の技倆が低ければ、それだけその試驗が權威を失墜するわけである。故に愼重に考慮して、之に臨むべきである。

8. 學科はどの程度で亦、無學のもの或は相當學問方面に不得手のものゝ多い內にあつて、どんな風に考査するか。

建築常識一般に亘り考査する。筆答と口答とを併用する。文字に不得手のものも口答で相當に補ひ得る樣にする。學校出が此の方面では優勢であるが、技術方面では不得手になる。徒弟出身は之に反するこの不得手な兩方面如何に取扱ふか。先づ學科四分技六分、時に學科三分、實技七分位まで重用しても、行過ぎはすまい。大工の生命は技術にある、同時に建築學の示す技術內になくては、駄目ではあるが。

9. 學科は全然駄目だが、技術は斷然優秀であるとか云ふ樣なものゝ取扱ひはどうする

か。不合格では、餘りではないか。

精神としては、不合格にすべきもの、學科は努力次第で或程度まで上り得る。亦制度が確立してしまへば、その積りで覺悟して、勉强し研究する故かゝることは先づないが、過渡期にはあることゝ思ふ。やはり一回は當然不合格となる、只學科の成績を或程度は怨し實技の優秀なるを認めて合格せしめることもあり得る。要はその節の試驗官の社會情勢を考へての決議による故、此處では明瞭にし得ない。只合議制による故、合理的の結果が生れるものと信ずる。

10. 資格試驗合格者の特權は何か。何處で實施し、管理すべきであるか。

資格試驗制度は當然法律化すべきである。法制化しなければ、完全にその機能を發揮することは出來ない。次に之を使用する請負人及一般社會の制度氣風なりが、之を認識して援助しなければ駄目である。一方大工自身が自ら之に違反するを快しとするに至れば、譬ひ法制化しても駄目である。要は之を支持する人々、社會方面の人々の考へにより、之を實施する機關又は之を運用する制度に於てもその目的により、必らずしも國家の法制化を要しない場合もあり得る。

即ち、單に大工の技術の向上を目指すのみなれば、之を主催する機關協會又は學會があれば、よいわけであるが、何等の特權のない權利のない制度は、有名無實になり。合格者の權威なく、遂に廢止の運命を辿る。次に社會的の待遇のみを目的とし、此處に大工業者又は請負業者、官廳關係者が連繫を取り、合格者には標準の賃銀を支給するが、それ以外のものは大工として待遇せず、助手又は手傳と見ると云ふ樣になれば亦、この制度は生氣を帶びる。次に大工取締規則の樣なものを發布して、大工は一定の資格檢定を受けたものに登錄をなし、登錄されたものゝみが、大工工事の責任となり得る。大工工事の請負が出來る徒弟を養成することが出來る。等の特權を與へれば、亦この制度は益々伸長する。

要は自動車の運轉手と建築、殊に一般民衆の建築の直接構造の責任者たる大工と同樣に眺めるかどうかにある。一方國民總動員の制度による技術登錄上よりも、この制度は統制し易くなる故、建築法規の徹底と兩々相待ちて、完全を期し得る大切重要なるものと見て差支へない。

11. 之が延いて賃銀向上を叫ぶことになれば、請負業者は困りやしないか。

賃銀の低下は必らずしも、雇傭者の利益ではない。要は賃銀と技術技倆とのバランス如何にある。技術を向上させ、監督の世話なくして工事が完全に遂行されるなれば、賃銀の昇りは、建築費の騰貴を來さないことになる。

亦一般社會狀態から見て、大工の月額收入を他の一般勞働者の平均收入に比し、同樣な地位まで向上せしむることが、建築界の進展を來すのではないかと思ふ。亦、工人の賃銀の向上が延いて、請負業界を始め、建築業界の幾多の不合理が解決される。直接の導火線になるのではないかと思はれる。建築界更新の爲にも大いに之が企圖を、當局は勿論、建

築關係者は援助して、之が實現を計らんことに努力すべきであると信ずる。

終りに、築造工資格試驗制度を實施するとして、かゝる方法、かゝる試驗內容では如何かの草案を、敎化委員で大體の推敲をなしたものを次に附記して、參考に資せんと思ふ。

築造工資格檢定試驗要項

試驗の要領及び程度

A. 受驗資格　年齡制限　滿18才以上

技術制限　大工修業4ケ年以上、且棟梁の推薦あるもの

B. 試驗內容

◎學　科　程度乙種工業卒業程度

建築構造學　仕樣及積算　建築法規

材料學　規　矩　力學初步

口述及び筆記にして約4時間を課す

◎實　技　實技の內學理體得せる狀態を知る

規矩應用による模型雛形の製作

設計圖による尺杖　看板板及矩計圖　現寸圖の製作

簡易なる建築各部の一部の製作又は取付　約14時間　合計18時間以內

試驗委員

委員長　1名　（國家又は委員長の任命せるもの）

築造士　5名　（〃）

敎職員　2名　（〃）

官廳技師　1名　（監督官を以てす）

建築設計士　1名

建築請負業者　1名

以上委員長以下11名の合議により合格不合格を定める

棟梁の推薦報告書、並びに業歷（現場の業歷）及び學歷、學科及實技試驗成績を參考として果して現代の建築界の一人前の大工として間に合ふや否やを協議し、その上に合格不合格を決定する

◎期　日　4月、10月（年2回）

試驗問題例の一部

1. 土臺軒桁母屋の繼手を記せ、その仕事の良否による種別並びにその所以を記せ
2. 木材の賣買單位を記し、丸太材挽材小割材への單價の上昇の現在の割合の實際につき說明せよ
3. 圖面により、ボールト及金物の數量及び大さを算出せよ
4. 投墨の原理を說明せよ
5. 圖面により建築物の高さの制限範圍を示せ
6. 組立梁を示し、力學的素養の實際につき口述せしめる

實技の例

1. 和小屋の隅の棰架渡し又隅木の落掛り部の製作
2. 洋小屋屋根現寸圖又は尺杖の製圖
3. 長屋の圖面により、看版板書き
4. 敷居鴨居又は長押の製作及取付
5. 出窓の手摺の一部製作
6. ボールトの取付
7. 水準機による、水盛實習　其　他

實技は一般成人職工の80%の能力充分なりと見れば合格させる積り。　（終り）

第六回全國都市問題會議報告書

昭和13年10月10日—12日の三日間朝鮮京城に於いて開催せられた全國都市問題會議に本協會としては朝鮮總督府警務局技師鳥井捨藏君、大阪府都市計畫課技師鳥井信君及私の三名が參加することとなつて居たのであるが、鳥井信君は都合上參加せられなかつた。以下會議の要領を記して報告書とする。尙釜山に上陸してより京城到着迄の間會議參加者の爲に特に急行列車乘車の便を計られ、列車內で各地事情の說明を聽くことを得て非常に參考となつたこと、更に會議後の鮮內視察に便宜を計られ北鮮迄御案內下さつた京城府の御好意に對し、此の機會に記して謝意を表する次第である。

第一日會議

參集時限　午前8時50分

會　　場　京城府民館大講堂

開會式　午前9時開會

①國歌合唱

②皇居遙拜

③默　　禱

④式　　辭

會議理事
東京市政調査會副會長　堀切善次郎氏

同　　朝鮮總督　南　次郎閣下

同　　朝鮮軍司令官　中村孝太郎閣下

⑤祝　辭　　內務大臣　末次信正閣下

同　　拓務大臣 公爵　近衞文麿閣下

同　京城帝國大學總長　速水　滉閣下

同　　京畿道知事　甘庶義邦閣下

同　朝鮮商工會議所會頭　賀田直治氏

同　　京城府會副議長　大野史郎氏

⑥歡迎の辭　　京城府尹　佐伯　顯氏

總　會

①事務報告及議事方法に就ての報告

會議理事
東京市政調査會副會長　堀切善次郎氏

第一議題主報告者研究報告

①現下都市計畫の緊急問題

內務省計畫局長　松村光麿氏

②朝鮮に於ける都市計畫の特異性

朝鮮總督府內務局土木課長　榊業孝平氏

（正午休憩京城府民館中食堂にて晝食）

第二議題　午後1時

①經費の合理性と必要性

元東京市助役
元秋田縣知事　菊池愼三氏

②都市經費の實證的考察

大阪市助役
關西大學講師　森下政一氏

（午後3時小憩の後各自選擇に從ひ第一部會場、第二部會場に入場）

部　會　自午後3時20分　至午後4時20分

①第一部會（第一議題關係）に於いて會員の報告討議　會場　京城府民館大講堂

②第二部會（第二議題關係）に於いて會員の報告討議　會場　遞信事業會館講演室（3階）

京城府尹招待會

午後4時30分より德壽宮に於いて招待

第二日會議

參集時限　午前8時50分

會　　場　京城府民館大講堂

總　　會　午前9時開會

①特別議題報告

事變と都市の厚生（社會衞生）對策

厚生省衞生局長　林　信夫氏

②右に關し意見交換

部　會　自午前11時　至正午

①第一部會　前日同樣

②第二部會　前日同樣

朝鮮總督招待會

正午京城府民館中講堂に於いて朝鮮總督の招待

部　會　自午後1時　至午後4時

午前同樣

朝鮮事情紹介

午後4時10分より京城府民館大講堂に於いて映畫並に朝鮮舞踊

第三日會議

參集時限　午前8時50分

會　　場　京城府民館大講堂

開　　會　午前9時開會

①特別報告

日滿支都市の連携

—主として經濟的文化的協力に就て—

朝鮮總督府政務總監　大野綠一郎閣下

②第一部會の研究報告討議經過報告

第一部會長

③第二部會の研究報告討議經過報告

第二部會長

④會議理事互選

閉會式

①挨　拶

會議理事
東京市政調査會副會長　堀切善次郎氏

②同　京城府尹　佐伯　顯氏

③同　參會者代表

（正午休憩）

會議は上記豫定の如く進められた。部會は第一部會に出席したので少しく第一部會について敷衍して置かう。

總體に部會の時間が非常に少なかつた樣に思はれる。宛がわれた時間は15分宛であつた。

部會は佐野理事を議長として進められた

第一日の部會報告討議は次の如くであつた

關東州々計畫令の異色　內務省囑託　西村輝一

工事を基礎とする都市計畫の再檢討

都市計畫東京地方委員會事務官　高橋登一

大道路建設の可否　咸興府會議員　大川市二

朝鮮の都市について

京城帝國大學教授　鈴木武雄

第二日の部會報告討議は次の如くであつた。

第一部會　第二日（午前、午後）

國土計畫制度を要求する根本問題

愛知縣都市計畫課長　眞坂忠藏

都市計畫と地方計畫の相關々係に就て

都市計畫三重地方委員會技師　兼岩傳一

地域制の分化に就て

朝鮮總督府技師　鳥井捨藏

都市工業地の發展と專用地區

日本建築協會　中澤誠一郎

都市計畫の基本問題(工場の原動機馬力數算定の是正)　愛知縣建築課長　井上新二

都市構成の單位區劃に就て

朝鮮總督府技師　山岡敬介

東京綠地計畫

都市計畫東京地方委員會技師　太田謙吉

風致資源の開發と關係法規に就て

都市計畫山梨地方委員會書記　森川清

朝鮮特種細民の處置に就て

京城府工營部長　長郷衛二

朝鮮地方計畫令に關する提唱

內務省囑託　西村輝一

都市に於ける屎尿處理問題に就て

咸興商工會議所理事　土谷惟

都市照明法制定に關する提唱

照明學會　伊藤大

尙配付せられた第一議題に關する研究報告の題目と報告者は下の如くである。

第一議題「都市計畫の基本問題」

全國都市問題會議事務局

都市計畫を規制する根本的要因に關する研究

都市計畫愛知地方委員會技師　田中彌一

都市計畫再建の要項

都市計畫東京地方委員會技師　石川榮耀

日本都市計畫への反省

東京市政調査會研究員　幸島禮吉

都市計畫に於ける地理學的基礎

東京帝國大學地理學教室　都市學會々員　木內信藏

氣溫・高度に於ける都市の限界に就て
都市學會々員　岡村　精一

東京市に於ける地下水の分布に就て
東京市企畫局都市計畫課計畫掛長　技師　入江　博

東京市に於ける人口の集中と都市計畫
東京市企畫局都市計畫課　西田弘生

都市計畫と精神的要素
東京市政調査會司書　菅原忠治郎

地方計畫の理想に關する問題
都市計畫長崎地方委員會技師　谷口成之

日本人口政策と地方計畫
內務省計畫局技師　磯谷道一

國土計畫制度の確立
愛知縣都市計畫課長　眞坂忠藏

事變と本邦都市計畫の將來
東京市政調査會研究員兼司書　平野眞三

過大都市防止策としての環狀綠地帶
都市計畫東京地方委員會

都市計畫の基本問題に關する若干考察
東京市土木局道路建設課　伊藤武

土地政策としての都市計畫の積極化
警視廳建築技師　池口凌

都市計畫法の强化を高調す
朝鮮總督府內務局土木事務官　坂本嘉一

都市計畫法の改正に就て
仙臺市

都市計畫法制に就ての管見
岡山市都市計畫課長　緒方最

適地論による地域決定方法
臺灣總督府內務局土木課技師　中村綱

地域制檢討資料としての東京市工場敷地々價地代に關する一考査
東京市企畫局都市計畫課事務掛長　佐瀨清

地域制の分化に就て
朝鮮總督府技師　鳥井捨藏

都市工業地の發展と專用地區
日本建築協會

工場の原動機馬力數算定の是正
愛知縣警察部建築課長　井上新二

京城府に於ける土地區劃整理の狀況
京城府都市計畫課　高本春太郎

土地區劃整理の本質とそれの公共用地收得及都市計畫事業實施への協力
東京市企畫局都市計畫課整地掛長　阿部喜之亟

都市構成の單位區劃
朝鮮總督府技師　山岡敬介

日照による都市の疎開策に就て
大阪警察部建築課技師　日本建築協會都市計畫委員會　龜井幸次郎

都市に於ける建築物の採光に關する當面の問題
警視廳建築技師　伊藤憲太郎

鐵道軌道の立體化に就て
都市計畫東京地方委員會

都市空襲に對する市街地建築物の構へに就て
京都府都市計畫課長　梶山淺次郎

都市建築の防空的分散と土地住宅經營との關係に關する一考察
大阪市教育部防護課技師　宮田秀穗

防空都市計畫上の上水道施設の擴充
東京市水道局給水課長工學博士　岩崎富久

神戸市の災害と復興對策
神戸市土木部都市計畫課長　奥中喜代一

綠地を基本とする計畫を論ず
仁川府土木課長　守山春市

東京綠地計畫
都市計畫東京地方委員會

東京保健道路計畫
都市計畫東京地方委員會

大阪市東郊の開發狀況
大阪府警察部建築課長　日本建築協會　副會長　中澤誠一郎

名古屋市東山公園の開設と附近地の受益に就て
名古屋市土木部長　花井又太郎

朝鮮に於ける都市施設の概要
朝鮮總督府內務局土木課　平島洋三

朝鮮都市特殊細民の處置に就て
京城府工營部長　長鄕衛二

羅津の都市建設に就て
朝鮮總督府內務局土木事務官　高倉馨

爾濱都市計畫の特異性に就て
爾濱市公署工務處

都市水道の防空施設に就て
京城府技師　木代嘉樹

感　想

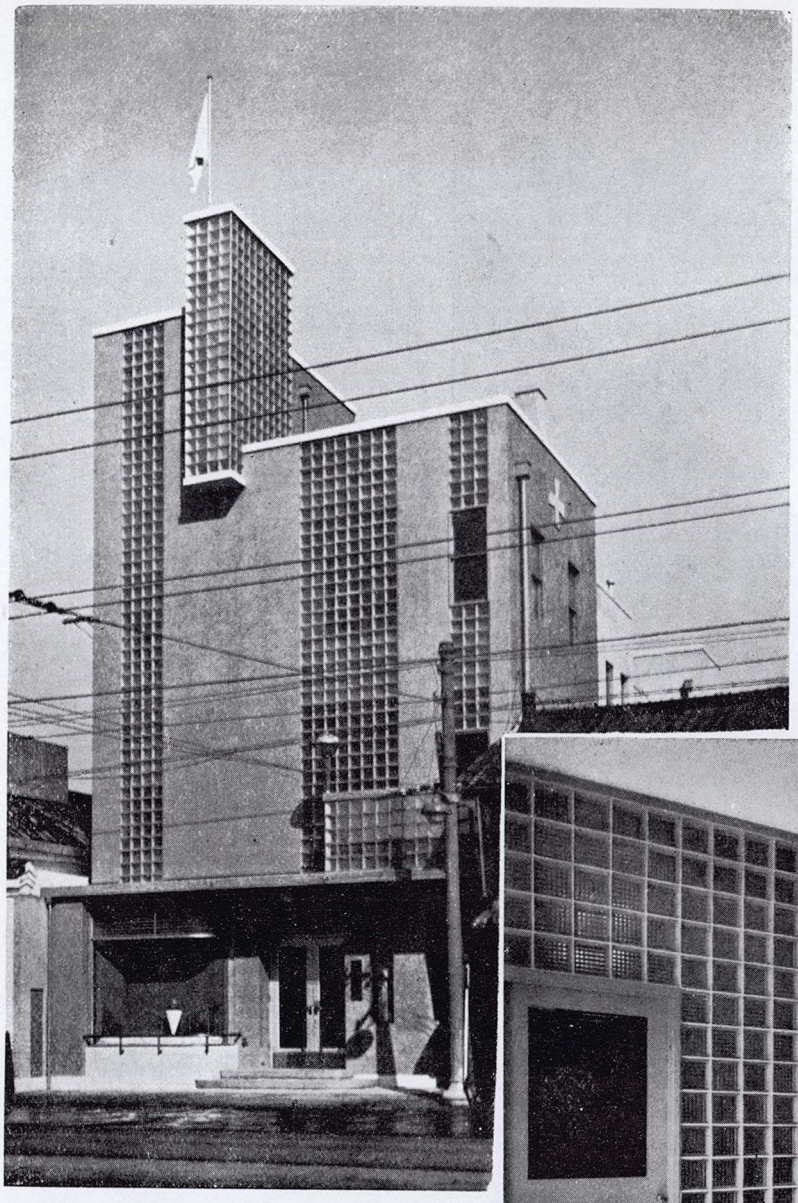
第一部會の內容に於いては國土計畫、地方計畫、綠地問題、地域制問題が取り上げられてゐる。然し乍ら年々繰り返へさるゝ此らの問題——全國都市計畫協議會に於いても繰り返へされてゐる——が其の重要性にも拘らず低徊しつゝ何等飛躍的發展をしてゐないことがもどかしくさへ感じられてならない。時局の波はかゝる論陣を尻目に目まぐるしい迄に急テンポの進展を見せてゐるではないか。都市計畫全體に對する懷疑論の起るのも無理はないと思ふ。之等の點に兼岩君が諧謔的論調を以つて計畫と現實との遊離を指摘し、區劃整理至上論者として「區劃整理——それは現日本の現勢とその資本主義的たる實情に適する唯一の方法である」といふ意味の事を勇ましく叫んでユトピヤン並に悲觀論者を論難してゐる。土地を處理する上に財政が無力であるとすれば、之に代るべき實力が區劃整理に在りとなすことは肯ける。然しそれは土地を處理して市街化せしむる場合に（實際此の場合綜合的解決が缺けてゐる）於ける實力の讃美に限らるべきであつて、土地を出來得る限り現狀に維持しようとする場合、いひ換へれば一定の區域に都市化を防止しようといふ場合の實力ではあり得ない。ところが實は今日の最も重要な問題の一つは其處にある。地方計畫をわかり易く都市と農村の二元に分解出來たとすれば區劃整理は都市又は都市化の部分に於いてのみ働き得るのであつて、農村或は綠地に對しては無力であらう。若し都市開發をのみ考へられてゐるとすれば都市が土地から遊離する。若し綠地計畫、都市膨脹の抑制又は透導といふことが今日不可能であり、それが可能となる樣な時代は遙かに遠いといふ意味での逆說であるならば亦面白い。私は希望としてかく見たい。その困難であるといふ點に於いて全く同感である。それは單に根據法令がないからといふ直接な困難でなく、法制化さるゝことの困難な社會情勢そのものに起因するものである。さればとてこれに對する廣い範圍の努力をひつくるめて單なるユトピアンとして無視することは當らない。實際は兼岩君自身の前提にもある通り「今日の社會情勢に於いて」なのであるから。特に君の議論をとりたてて而も短評を試みる無禮は宥るされ度い。

朝鮮では多くの議論を超越して、各所に都市創設の事實が展開してゐる。その中には固定化した立地論などを尻目にかけたモチーフの見るべきものがある。都市計畫、地方計畫、國土計畫がかゝるモチーフを骨抜きにしたものであると見るか否かによつては相當議論に徑庭を生ずるであらう。若しモチーフを無視したものとするならば割合にのんきな氣持でゐられる。そうでないとするならば相當飛躍的な考察が下されない限り、悲觀論はまぬがれぬものと思ふ。然し乍ら之は畢竟論議の末端であつて、各エキスパートとしての我執的觀念論の相違である。歷史は今未曾有の長期建設時代に在る。此の觀點から日本人として成すべきこと、考ふべき事の樣々の必要から、都市と農村との配合、都市の建設、改造が行はるゝに當り、求めて觀念の殼を作り、狹い範圍の論理をのみ樂しんでゐることは避くべきだと思ふ。それは恰も衣服を解せずして裁縫の技術をのみ誇る仕立物屋にすぎな

い。かゝる眼からは朝鮮に於ける事實は解し難いものが多からう。假りに都市計畫に限界を設くる必要ありとしても、それが必ずしも都市計畫家の叡智と發言の限界ではなく、同時に都市計畫家の專有物でもなく城廓でもないことが自他共に覺られてあらねばならぬ。國土計畫と稱するに至つて亦最も然りとする。

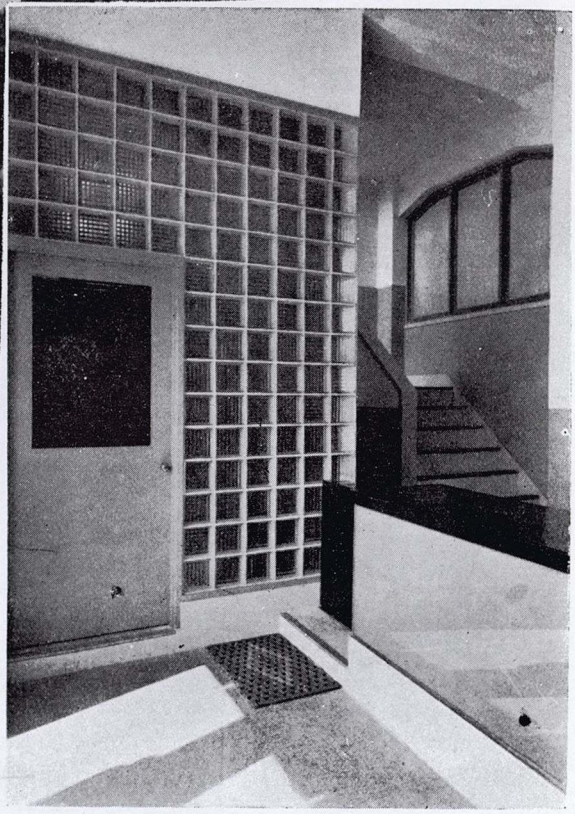
會議全體を通じて少なからず雜駁な感じを受けた。之れは種々の原因があらうと思はれるが、上述した觀點の相違が顯はれてゐるものであり、これこそ都市計畫の基本問題として結論なき結論であるかもしれない。

第二日晝食の南總督の御招待會に於ける閣下の「朝鮮統治の眞諦と兵站基地としての朝鮮」の御話は深き感銘を受けた。〃朝鮮を知らずして滿洲を語るべからず、北鮮を見ずして朝鮮を語るべからず〃とはその結語であつた。13. 11. 12 （**中澤誠一郎記**）



外　　觀

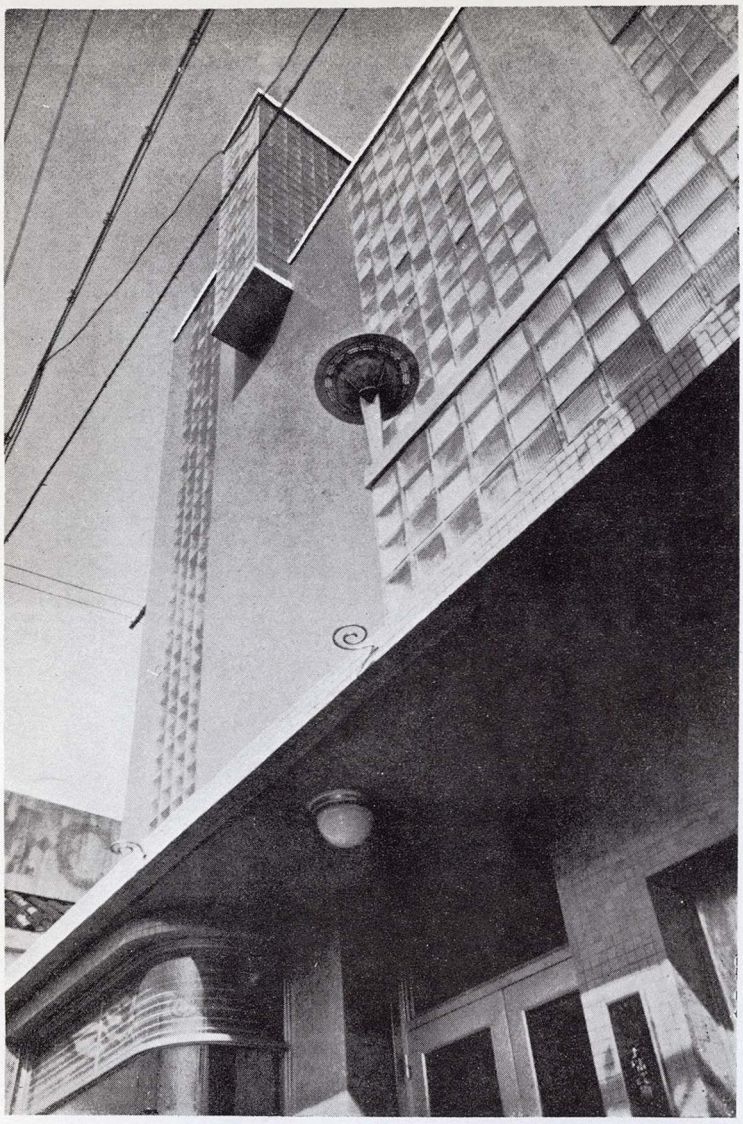
裝飾塔及窓ガラスブロツク積ミ
壁モザイツクタイル貼リ



1　　階

客間ヨリ應接室ヲ視ル
床モザイツクタイル
壁、天井、プラスター
應接室、間仕切、硝子ブロツク積ミ

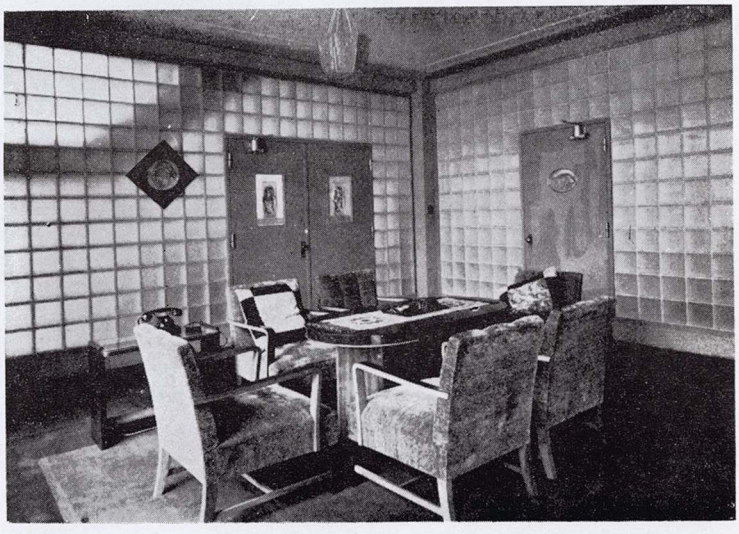
"岩城硝子株式會社大阪支店"　設計・高橋榮治氏・施工・竹中工務店



正　　面
裝飾塔ヲ見上グ

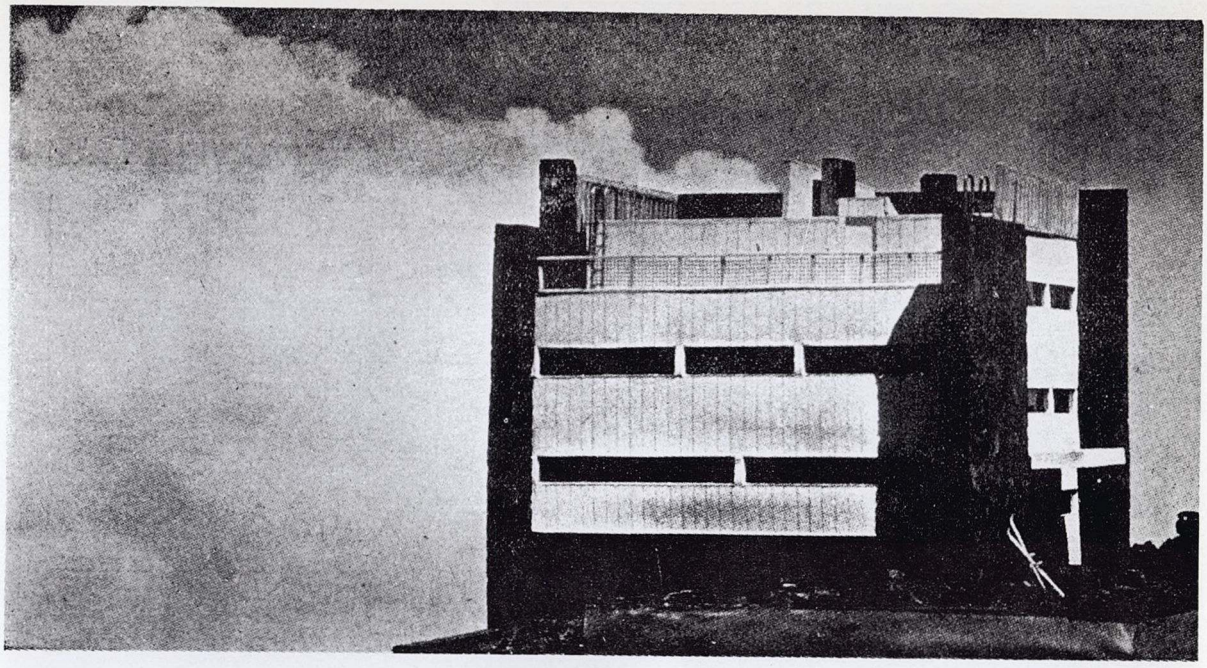
新築工事概要

位　置	大阪市南區末吉橋通リ4丁目27番地
敷地面積	321.95平方米
建物面積	1階　256.78 平方米
	2階　250.44 平方米
	3階　189.40 平方米
	塔屋　19.14 平方米
	延　715.76 平方米
樣　式	近世式
建物高さ	正面扶壁上端迄　13.00 米
	裝飾塔上端迄　17.60 米
構　造	鐵筋コンクリート造　地上3階建

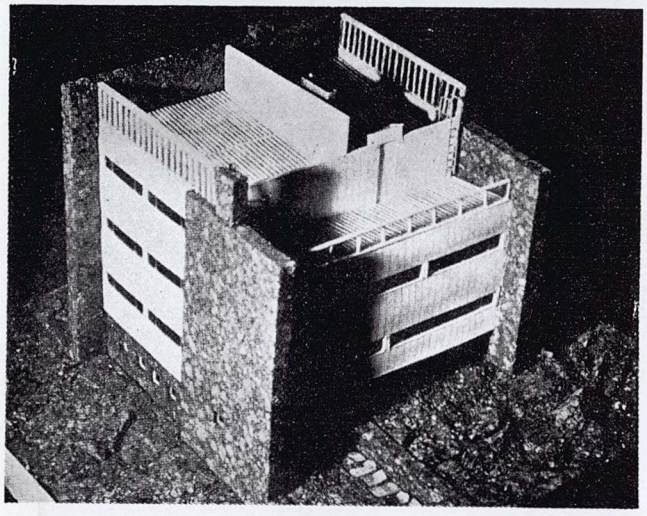


社長室兼應接室
間仕切、硝子ブロック積ミ
床、フロアリングブロック
壁、布貼リペンキ仕上ゲ
天井、プラスター

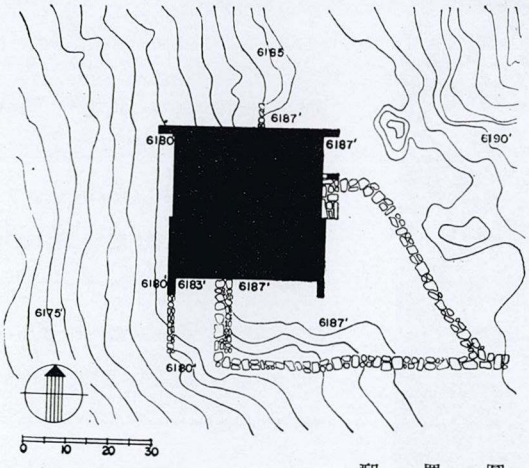
“岩城硝子株式會社大阪支店”　設計・高橋築治氏・施工・竹中工務店



模　型



模型俯瞰



配置圖

日本のスキーレゾートは在來の溫泉宿屋の改造かアルピニストのための山小屋の流用かさもなくば貴族趣味の志賀高原にあるホテル式で．この寫眞版にある樣なスキーレゾートがひとつもないのはどう云ふわけか。

スキーをやる若い人達は古い貴族的な歐洲趣味を拒否してゐる筈なのに何故か山に關してのみこれを採入れる。

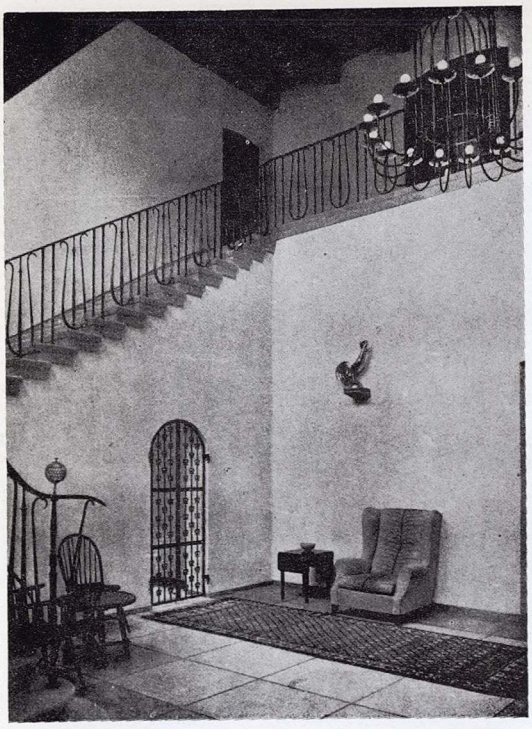
又山を愛する若人にとつては白樺や岩をわざと張付けたものは山と同質のものでないことをよく知つてゐる筈である。

他の文化から推しても溫泉宿屋でなくばこの樣な（寫眞）ものがあるのがもつともらしいのではないかと思ふ。

これは海拔63,00尺のオーストリヤ・チロルに建てるとした案である。ここはアルプスでも最も高い冬期スポーツの根據地である。これに用ひられる材料は白樺の張付でなくて一般の建築材料である。石も用ひられてはゐるが構造用としてである

（Architectural Record, Sept,, 1.938より）

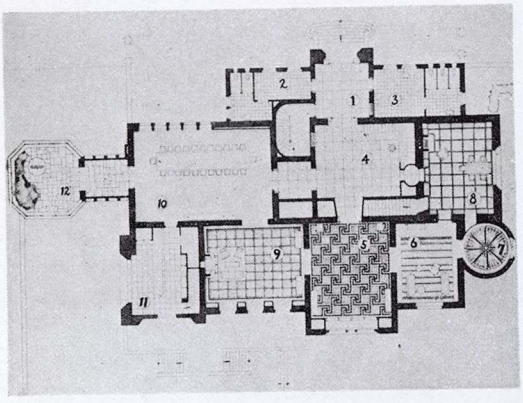
（オーストリア）　スキー・クラブ　　建築家　Marcel Breuer



廣　　面



カミンのある社交室



平面圖

1. 車　　寄
2. 男子便所
3. 女子便所
4. 廣　　間
5. 應接室
6. 婦人室
7. 茶　　室
8. 讀書室
9. 社交室
10. 食　　堂
11. 配膳室
12. 溫　　室



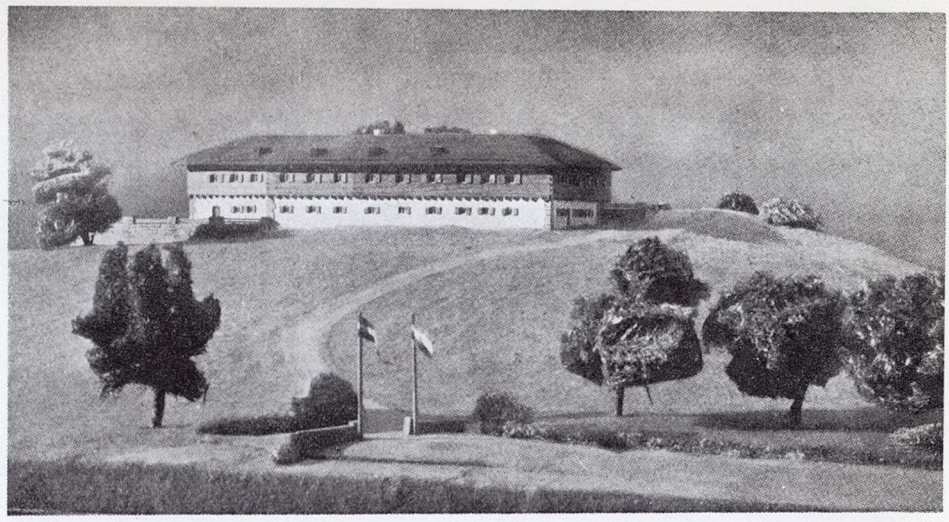
溫　　室

廣間の半ば相に磨かれた壁は白色。床は赤い石板敷き。天井の梁は鼠色に，階段は赤い斑岩。社交室は壁天井共に白漆喰塗。床はオリーブ綠色のよく磨かれた大理石敷き。窓掛は薄綠。絨氈は羊毛の自然色のまゝ。

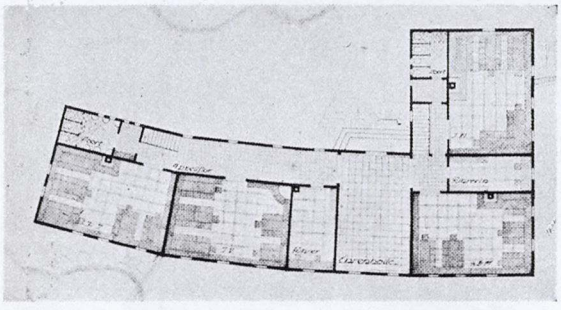
溫室は床及び窓臺は荒い凝灰岩。家具は鐵製白ラツカー塗り。天井は竹，電球は虹色硝子の透明硝子の單調なグローブ。

(Baumeister, Okt,, 1.938より)

XII 4　（ドイツ）　ハンブルグの遞信省接客室　　設計　遞信技師 Georg Werner ほか 4 氏



テユテイングのハイム外觀

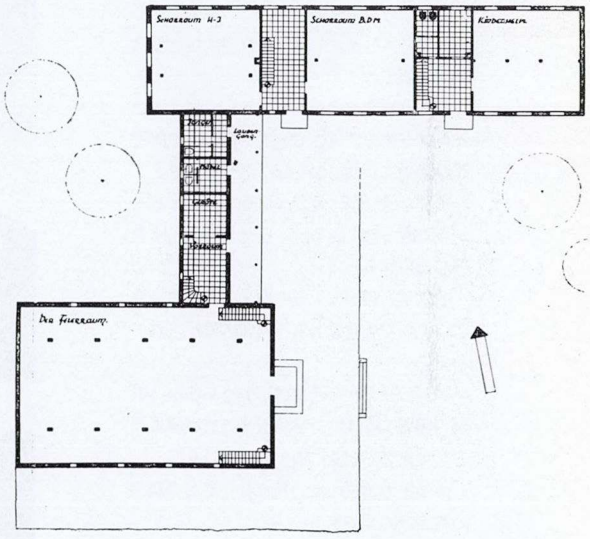


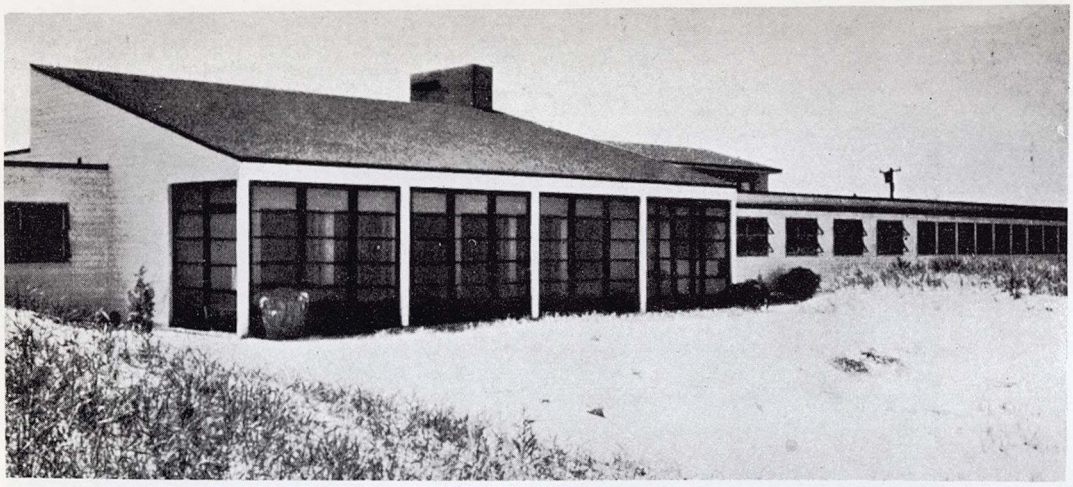
テユテイングのハイム平面圖

Baumeister 10月號ではヒトラー・ユーゲント・ハイムの10餘の新計畫案が掲載されて居る。其内から ローカルなもの2題を轉載する。

上のは．デユテイングのものでバルター・ホイゼルマンの設計．男子（10—18才）131名，女子（10—21才）152名收容し得。4つの宿泊室と2つの作業室よりなり．別に運動場と水浴施設をもつて居る。建物は山の南腹にあつて環境は美しく．上バイエルン風の漆喰塗とは丸太組構造となつて居る。

下のは．ノイブルヒのレンネルツホーヘンの宿舍で．エルフインゲルの設計。2つの團體宿泊室と1つの祝祭室．及び別入口を持つ小兒用室とより成り．建物は北シユバーベン地方風の木骨煉瓦造となつて居る。（Baumeister, Okt., 1.933より）


Schlafraum H-J
Schlafraum B.D.M.
Kärtchenstelle
Waschraum
Leiterin
Lehrerin
Kochraum
Vorraum
Lehrerzimmer
Waschraum
Duschraum
Abort
Abort
Abort



濱側外觀

海岸の砂丘の上に建てられた不具兒童の爲の夏の家である。

居室と作業室と遊び場とを中心とし，それを繞つて種々の部屋が設けられてゐるが何れの部分も學校風の堅苦しい感じはなく而も充分スペイスの利用を合理化した點は注意に値する。

廊下は普通の場合より廣くし，スライディングドアを使用して子供や附添や車椅子等が圓滑に交通出來る樣になつてゐる。

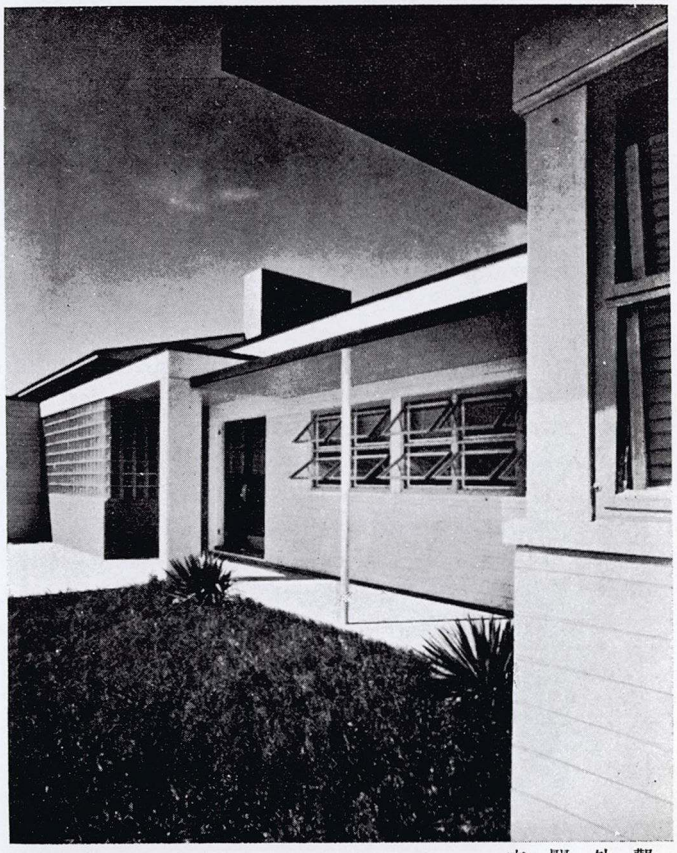
中庭の遊び場は3方は建物で1方はパーゴラで圍まれてゐるが，日光と空氣とは充分に得られる。

子供達の寢室は人員の增加に從つて容易にいくらでも增築出來る位置に設けられてゐる。

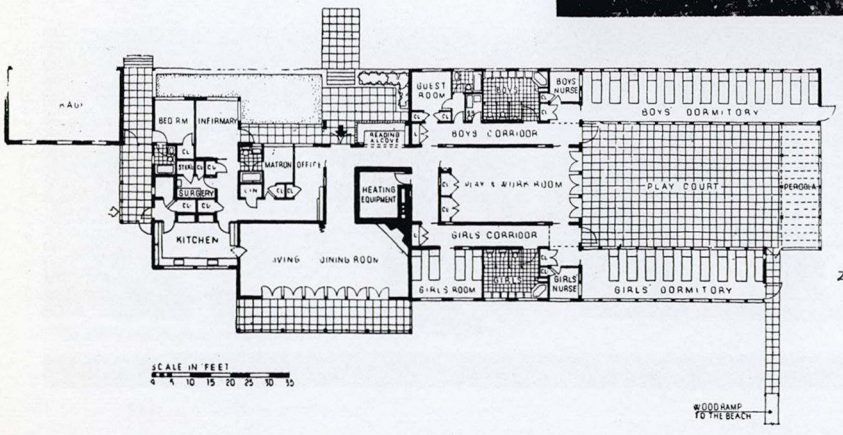
豫算の關係から建物は木造であるが，居室の暖爐の背後の暖房裝置室だけは煉瓦造として火災の危險に備へてゐる。

作業室の屋根の長い庇は夕立時の高側窓の露除けの爲である。

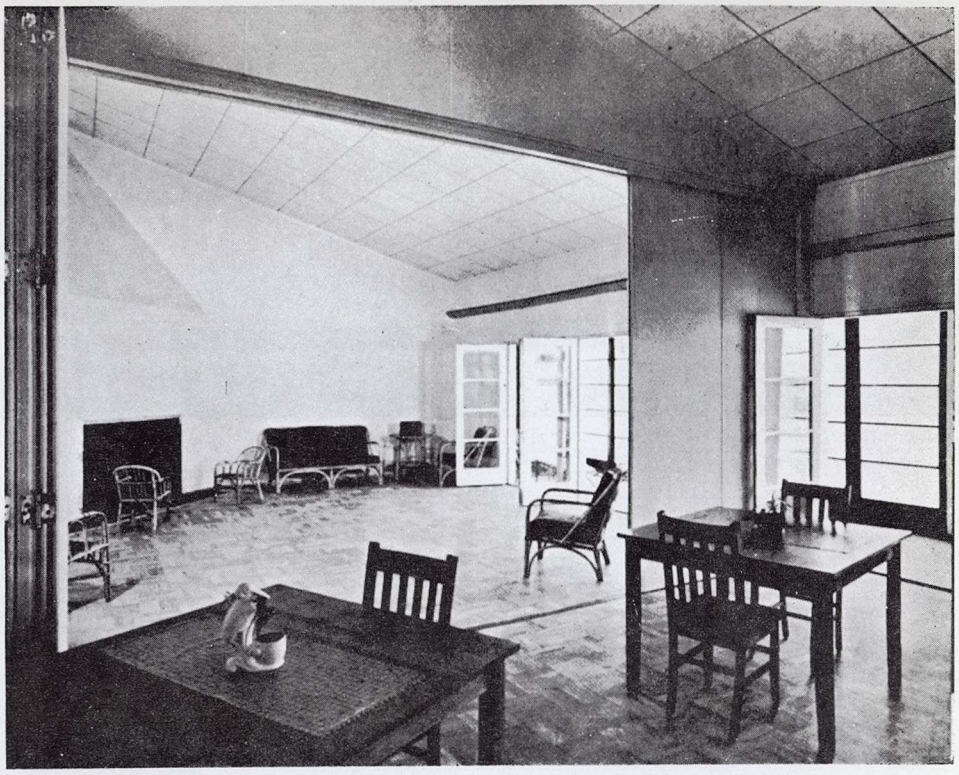
（Architectural Forum, Oct., 1938より）



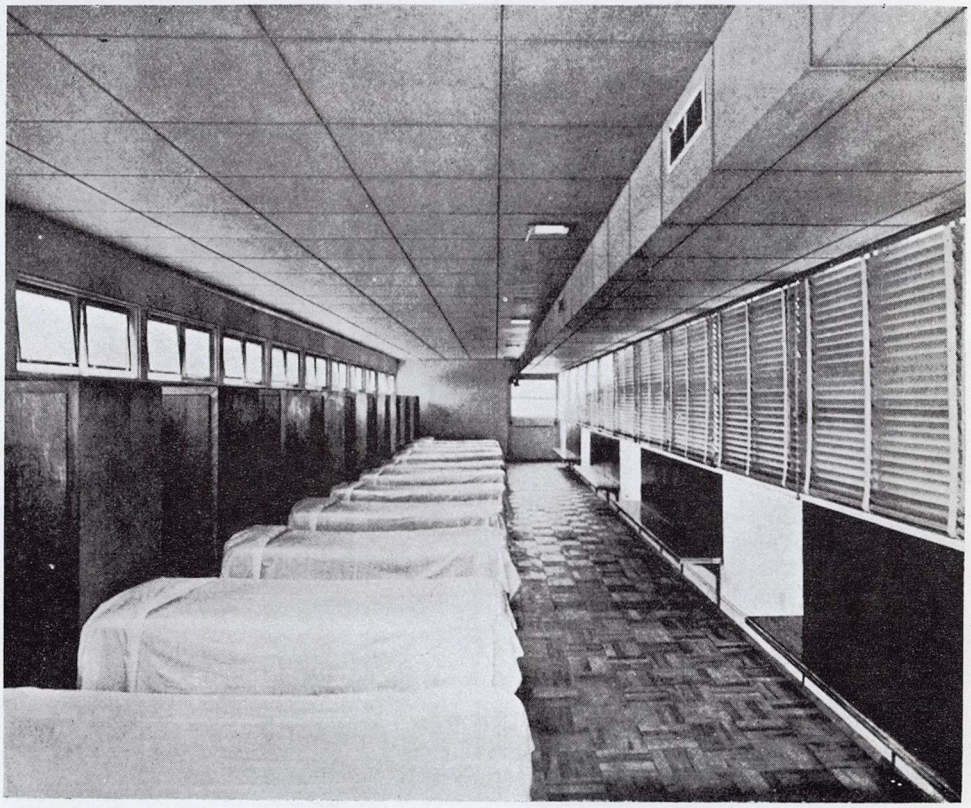
玄關外觀



平面圖

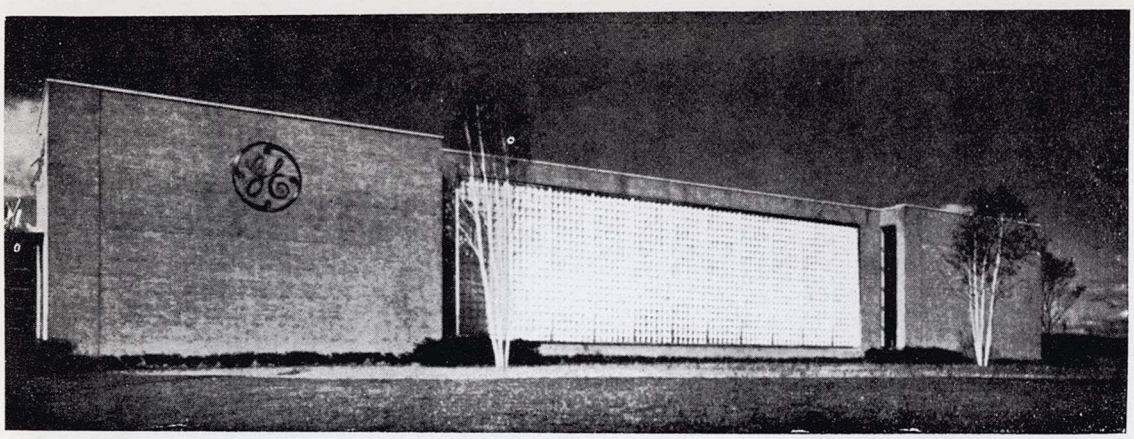


居室兼食堂

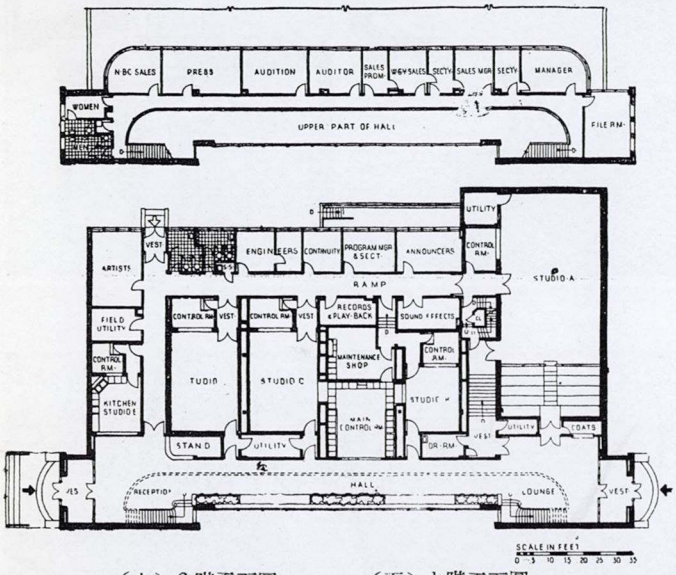


寝　　室

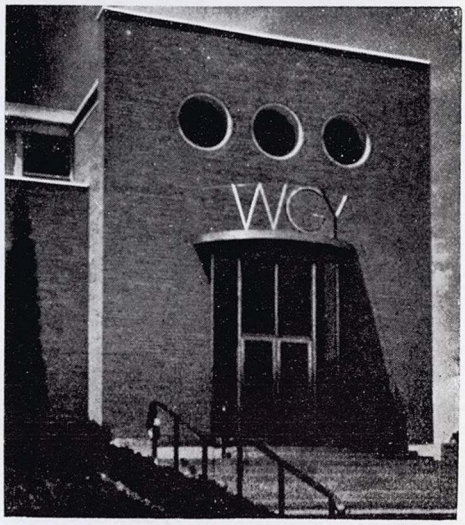
（アメリカ）　兒童用の海濱の家　　建築家　Victorine　及　Samuel Homsey



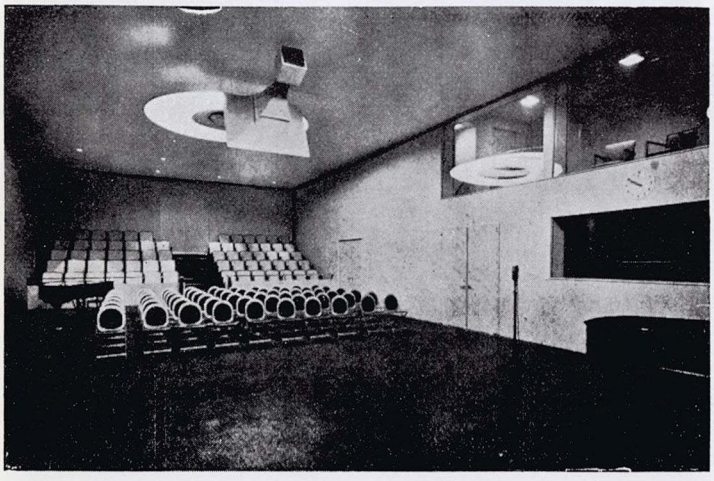
外　　觀



（上）2階平面圖　　（下）1階平面圖



出　入　口



A 放 送 室

ゼネラル・エレリトリツク會社に依つて建てられ，ナショナル放送會社が借りて經營してゐる，赤煉瓦とグラス・ブロックとの建物である。

プランは主要調整室を中心として5つの放送室があり，何れも完全に遮音裝置が施されてゐる。

內部への交通は2つに分離せられ，公衆は表の廣間から，從業者や演技者は後方の廊下から出入する樣になつてゐる。

放送室は採光換氣共に，調整自由なる人工のそれが應用せられてゐること勿論である。

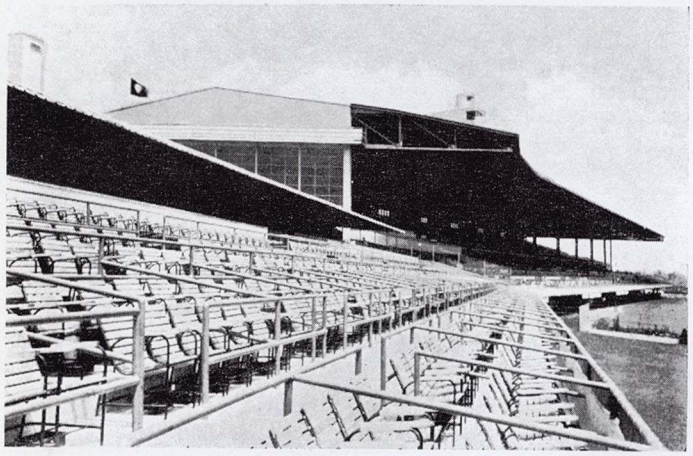
放送室の1つに新しい臺所の設備をなし特に家庭の主婦達への料理の放送に備へた點は變つた試みである。

鐵筋コンクリート造。

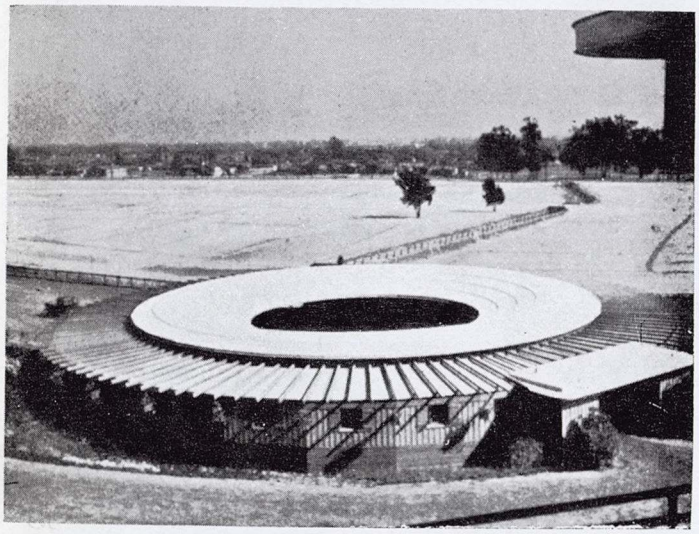
(Architectural Forum, Oct., 1938 より)



外　　觀



スタンド



屋内調馬場外觀

凡ての競技場と同樣，競馬場の建築に就いても，設計の中心問題は大群衆の迅速なる處理，穴場への交通の利便と，及び觀衆に充分馬が見えること，騎手や競馬係員などに適當な室を與へること等がそれである。

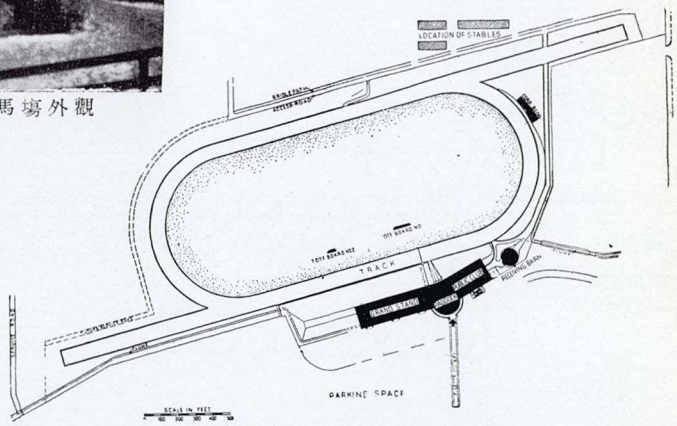
ホリウツドのこの競馬場は1年に僅々2ケ月使用するだけだから工費は極めて極限せられて居たが，スピードを表現する爲の外觀の樣の取扱ひ，內部に於ける倉庫の部分とナイト・クラブの部分との調和など，よき工夫が凝されてゐる。

室內の圓形の調馬場の採光のよいことと馬を驚かせる反響のないことは注目に價する。

觀覽席としては 椅子席が 13.000，立見席が 37.000 あり，自動車に對しては 14.500 臺のパーキング・スペイスがある。

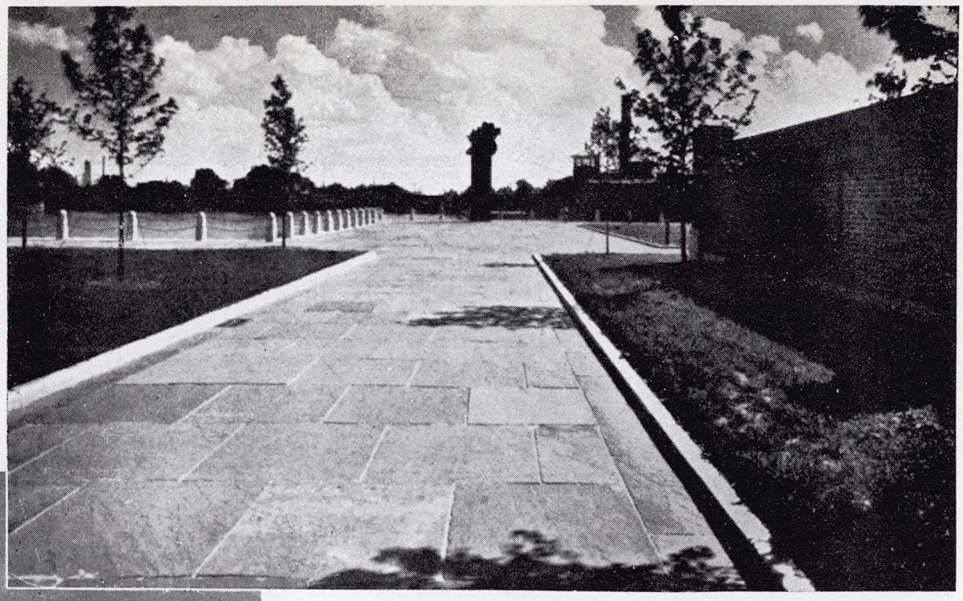
鐵骨コンクリート造。

(Architectural Forum, Oct，1.938より)



配　置　圖

（アメリカ）　ホリウツドの競馬倶樂部　　建築家　Stiles O. Clements　　



前　景



記　念　碑

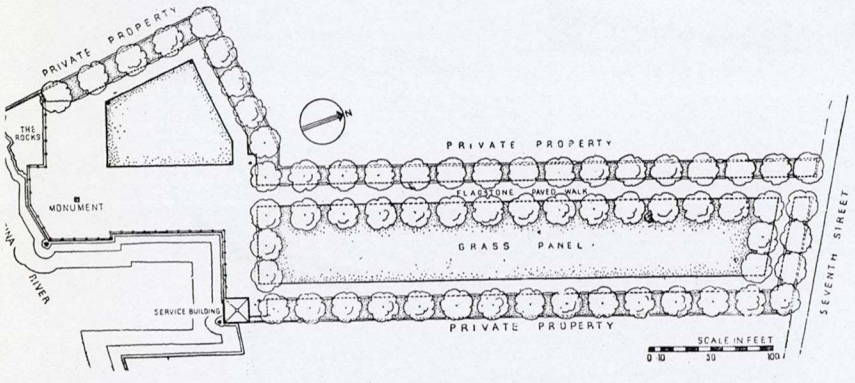
スウエーデン人のアメリカ移住記念碑である。黒いスウエーデイツシユ・グラニツトの巨大な柱の上に，その昔スウエーデン人がアメリカに新天地を開拓すべく，操つて以て初めて大西洋を渡つた所の帆船　Kalmar Nyckel 號の模型を載せてゐる。

この記念碑の建てられてゐる　Fort Christina State Park は非常に形の悪い公園であるが，又極めて簡明で煩瑣な部分がないのを巧に利用して，造園家はこの素朴な記念碑によく調和する樣な庭を作りあげた。

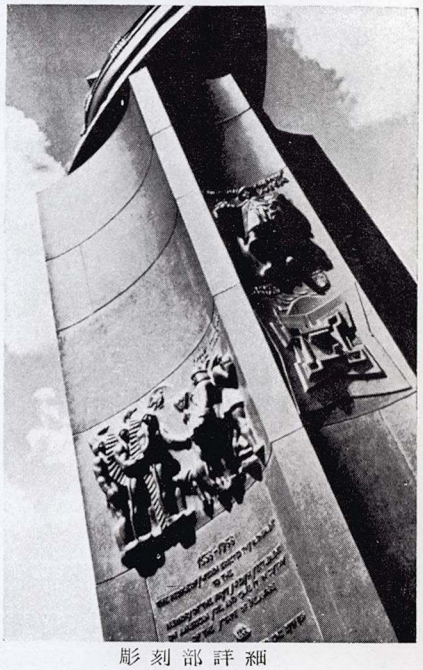
隣地と公園との境界には古いウイリヤムスブルグの煉瓦造を思はせる大形煉瓦の塀を繞らし，この塀と調和する樣に塀の腰廻り及びChristina 川の岸壁手摺の柱等には紅花崗岩が使はれてゐる。

歩道はペンシルヴアニヤ産の板石を敷き，その兩側の芝生はスウキート・ゴムの並木となつてゐる。

(Architectural Forum, Oct., 1938より)



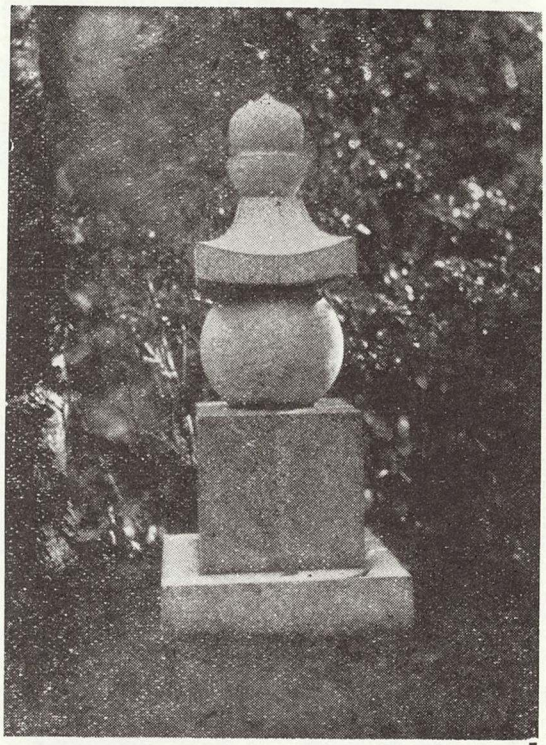
配　置　圖



彫刻部詳細

XII 10　（アメリカ）　Fort Christina State Park の記念碑　　彫刻家 Carl Milles　造園家 Wheel wright 及 Stevenson

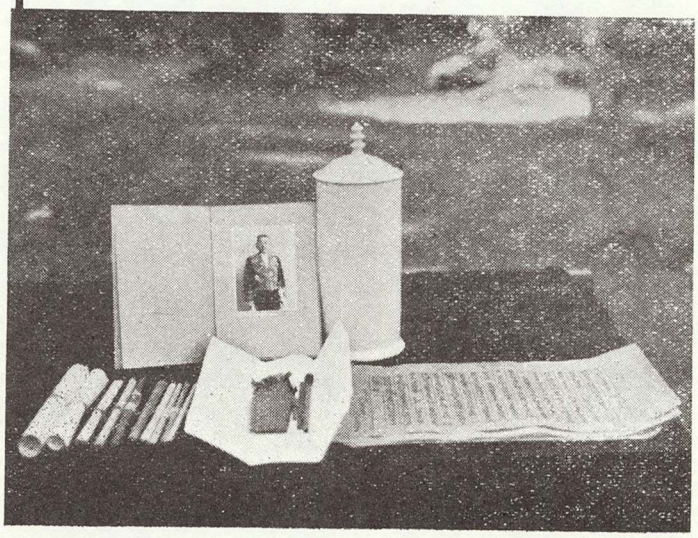
故武田五一博士の供養塔



故武田博士の供養塔が門弟有志の手によつて京都嵯峨の祇王寺に建立された。

祇王寺の門に近く山櫻の大樹の下に楓の若木にそひ馬酔木の生垣にかこまれて花崗石の清淨閑素な五輪塔が建つ。塔の下には博士の御寫眞と御遺品（コンパス筆、物尺、ネクタイ）及門弟有志が各自に磐若心經其他を寫經したもの二十數通が白磁の筒に納められて埋めてある。十二月四日午前十一時に大覺寺管長により開眼供養が行はれる豫定である。春秋嵯峨野に杖を引かるゝ士は何卒お參りの程を願ふ。

道は渡月橋を北へ渡り釋迦堂へつき當り左に折れて野々宮をすぎれば數丁にして祇王寺である。紅葉櫻の名所として閑靜な寺である。



祇王寺に建立

昭和13年
7月5日

阪神地方水害調査圖






凡例
浸水区域
流失区域
流木方向
家屋被害
X 橋木
O
1 2 3 4
1 2 3 4……浸水度（尺）





棚橋諒

☆

建築學會の例年の大會論文の締切は、來年の1月31日である。學會の論文の發表が例年相當の數を揃へることは學界隆盛と云ひたいのであるが論文の內容も充分に論議せられてよい。この數年來學會當局から發表論文に對する討議が若干のその道の者と云ふか常連といふかそう云つた向きに指名があるが、討議は必ずしも盛であるとは云へない。昨年の學會の大會などには早稻田の鵜田君の熔接の實驗報告に對して工業大學の谷口氏の自由討議があつた。あの討議など熔接の建築に對する利用法と云ふ事に關して可成り徹底的な相互の意見の批滯を要する問題であつたし、もつと多數のその方面に關心ある人々の意見がきゝたかつた。學會の大會があまり事務的に滯りなく進行するよりも旺盛な研究的精神によつて形成される樣にと希ふものは必ずしも筆者ばかりではないと思ふ。學會の指導者に是非ともこの邊のアトモスフェアは釀成して貰はなければ、本當の意味の討議が只他人の研究にけちをつけて居るに過ぎないと云ふ事になつてしまふ。

☆

日本學術振興會では土木建築部門に2つの新しい委員會が最近に作られた。1つは防空科學の綜合研究に關する第32小委員會であつて研究事項として

Ⅰ）爆彈の威力とその對象に關する研究

1. 地上地下構作物に對する爆彈の侵徹力と之が對策

2. 爆彈の爆破力と之が對策

3. 爆彈に對する援護施設

Ⅱ）木造都市の防火並びに耐火性に關する研究

1. 建築物に對する燒夷彈の侵徹力

2. 燒夷彈に依る木造家屋の防火に關する研究

3. 諸材料の耐火性

4. 既存家屋の防火改修方法

Ⅲ）防毒に關する研究

1. 都市に於ける毒瓦斯の流れの特性

2. 地上地下構造物に對する毒瓦斯逸散に關する防止法

3. 防毒室の構造法

Ⅲ）燈火管制に關する研究

Ⅴ）僞裝に關する研究

Ⅵ）その他

小委員會は第1期を3ケ年として87.500圓の研究費がこれに當てられ、現在委員は軍部より安達中將、佐竹中將、鎌田大佐、多田大佐、正木中佐建築方面よりは內田博士、濱田博士、武藤博士、甚目雅治氏、平山助敎授、他土木、機械造兵の專門家計16名である。

新しく設立せられた一つの委員會は「現地に於ける構築材料の利用に關する第33小委員會」であつて、研究事項は次の如くである。

Ⅰ）地盤土質の改良利用に關する研究

Ⅱ）地方的材料の特性その利用工法の研究

Ⅲ）地方的材料を用ふる構造物の設計に關する研究

Ⅲ）その他委員會に於て必要と認むる事項

第一期3ケ年に對して研究費68.500圓が豫定せられ現在委員は軍部より佐竹築城本部長、野田陸地測量部長、化學研究所篠田大佐、航空本部勝野中佐、兵務局今井中佐、建築關係では內田博士、武藤博士、濱田博士、吉田享二博士、藤後海軍技師等15氏である。

共に現在に於ける國家重要の研究事項であつてその成果を期待する。尙日本學術振興會が9月13

日設立決定した滿洲委員會の初回委員會が10月 4 日に新京で開かれたが、關東軍との間に諒解の充分でなかつた點があつた相である。滿洲委員會は滿洲に於ける學術の發達及應用の促進をはかり、日滿研究機關の連絡をはかるために設けられたもので委員長、滿洲國大陸科學院長鈴木梅太郎氏他14名から成るものである。滿洲から寄附でもとるためだらうと云ふ樣な誤解があつたのだ相で、その後一勿論軍も話せば分つたらしい。

☆

木造家屋の火災實驗が11月15日に始めて關西に於て行はれた。東京帝大では今までに數回にわたつて火災實驗を行つて來たが、今回大阪で行はれた程に大がゝりで、そして派手なものはなかつた樣である。氣象臺の助力を得たこともこの種の實驗では恐らく最初であつて、實驗の前日の夕やみの迫る現場で支臺長和達さん自身上衣をぬぎすてゝシヤベルを揮つて測定用の電線を埋設すると云ふ樣な情景が筆者の印象に殘つて居る。少壯の支臺長を有する氣象臺と大阪は幸なるかな。

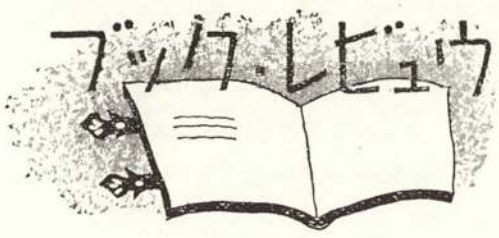
實驗は極めて成功であつた。結果も綜合して整理されるには時日を要するであらうけれども必ず木造建築の將來に何等かの示唆を與へるものがあらう。あの實驗を見た感じからは大阪大火と云ふ樣な場合を假定してあの塗り家で構成された船場島の内が完全に燒け殘ると云ふ樣な事さへ考へられるのである。木造建築の防火的効果についてはこう云ふ筆者の如きも確信を持つのであつて、木造建築必ずしもマツチ箱の如きものではない。古い鄕土の建築に示された色々の防災的な計畫施設に關して本誌11月號が大熊博士その他數氏の記事を得たことは11月に於ける建築方面の雜誌中殊勳甲に指すべきものであるが、尙その中で藤原君が指摘したこう云ふ古い防火的建築法を徹底することが日本建築の味のみならず住宅としての機能をも殺してしまふと云ふ事は注意を要することである。圖館の圖書館長岡田氏は同地に於ける防火建築促進の熱烈な急先鋒であるが、今夏私は同氏に會つた時「關西の塗り家防火」を語つたが、同氏の意見では gloomy な塗り家などに執着せずして即時明快な鐵筋コンクリート建築を都市建築に强制すべしと云ふ意見であつた。

都市の防災上の問題が如何に多くの角度から論ぜられねばならぬかと云ふ事の一端を示すものであつて、關西に於ける火災實驗が殆ど全建築家の眼前で行はれた事は意義の深いことであつた。

火災實驗によつて求め得られるデータは殆どこれまでの實驗によつて得られたし、關西の塗り家についても今後尙數回もやつて見れば殆ど火災實驗から得られるだけのものは得られ盡すと思ふ。從つてこれからの火災並びに防火に關する研究のためには完備した研究設備を持つ研究所が欲しいのである。例へば11月20日に、東京で行はれる延燒に關する實驗の如き、定溫の焰を定時間ある面積に吹きつける樣な設備を持つ研究所があつたならばもつと適確な實驗結果を得られるであらう。すでに火災に關する研究は1つの完備した研究所を要求するまでに成長したと云つてよい。

☆

建築學會が五十週年の寄附金から制定した二つの賞「學術賞」と「技藝賞」の中後者について岸田博士が建築雜誌で意見を述べられて居る。その意見まことにもつともであるが、——つまり競技設計でなくて實際の建築作品に對して技藝賞を授けると云ふ事はまことに「技藝賞」の名にふさはしいのであるが——その說の實行には色々な困難が横たはつて居る。會員が個人の名前で實際の建築を設計すると云ふ樣な惠まれた場合は會員全體に關して僅小である。つまり論文は自分がこしらへるのであるが、建築作品は他人の注文で作るのであるから若い人達は技藝賞への機會から完全に Shut out されるであらう。



岡田甚吉

〔1〕支那の建築と藝術　關野貞氏著、昭和13年9月版、菊判816頁、アート刷寫眞版18頁岩波書店、6.5圓、待望の關野博士の論文集が現はれた。

第1卷　日本の建築と藝術　上卷
第2卷　日本の建築と藝術　下卷
第3卷　朝鮮の建築と藝術

で本書、支那の建築と藝術はその第4卷であるが、先づその第4卷から出版される事になつたのである。本書は支那の建築と藝術と題するも、印度の建築と藝術に關する著作も便宜上本卷に收錄されてゐる。

その内容は支那藝術史概說を卷頭に、支那の陵墓、支那の瓦及び塼、より大同大華嚴寺、大正覺寺金剛寶塔等、博士が各地を調査されし調査談を寫眞、圖版を入れ說明されしもの、終りの西遊雜信はかつて建築雜誌にのせられし、支那の部、印度の佛教藝術に就ての2部を含んでゐる。

正木直彦氏は本書を評して「博士の研究態度は現地の實測實寫に始まり歷史的比較的研鑽を加へて遂に實證に到達するといふ堅實さである。夫故に時々發表せられた論文、報告、記文、講演、談話に由る博士の言說はいつも確實嚴正そのものであつて、讀む者、聽くものをして襟を正さしめ心服せしめるものがあつた。……博士は研究の途中に突如として他界せられた。併し博士生前發表せられたものに未完成のものはない……」とある。

本書を一覽するに、博士が之等の資料をもとにして、この書に收められた程の内容の支那藝術建築史の通史を物されて下さつてゐたらといふ希望である。御研究に御熱心のあまり、通史は、日本建築史も、朝鮮建築史も物されなかつた。この中朝鮮の方が一番御まとめになつたものであらう。

博士の御講演を聞いて、いつもその批判の嚴正で、建築にしても、藝術品にしても、その等級づけの的確に斷言されるに感心したものであるが、これは實證的、比較的、研究の結果と信ずる。

西遊雜信中の「印度の佛教藝術に就て」は80頁のものである。印度の藝術史としては稀にみるもので、日本藝術との交涉をも說かれたものである。筆者は勉學時代この論文の載つてゐる「建築雜誌」を古本屋にさがしに行き、苦心の末漸く買ひ得て歸つたことがある。これ等の貴重論文を精選され一まとめにされたことは何より喜ばしいことである。

伊東博士の建築文獻集とともに、本論文集は得難き好文獻であらう。

〔2〕桁橋及拱橋　大野博氏著、昭和13年10月版、菊判273頁、アルス、2.5圓、本書はアルス鐵筋コンクリート工學講座の第5編である。

著者大野博氏は内務省の技師である。桁橋等は現在殆んど標準化してゐるので今更ら新しき著の必要を感じないやうにも考へられるが、本書の桁橋の部には、昭和11年8月に定められた「水害防止協議會決定事項中橋梁に關する事項」等の新しき事項の記述もあり、又移動荷重による最大モーメントの起る位置等に對する親切なる計算圖表、單版橋に對するきはめて實用的な計算圖表、桁橋の計算圖表等、從來見なかつた圖表化の表はれてゐるのはうれしい、由來土木の方は鐵筋コンクリートの設計の方でも、多く式に數値を入れてこつこつ解くといふ事が多く精々利用しても Kersten 流の數字の表にとゞまつてゐた。本書はこの意味から云へば一步、步を進めたものである。

拱橋は3鉸拱、2鉸拱、無鉸拱について述べてゐるが、この無鉸拱にも、著者御研究の對稱無鉸

拱の簡易解法を述べられ、詳細なる數表及計算圖表を附せられてゐる。

以上に就ても見得られるやうに本書は、設計計算の平易化といふ事に著者のいたされた勞は多大なもので、後の設計者はこの利用によつて如何程勞力を節し得るかはかり知られぬ位である。

移動荷重、衝撃等のとり方につき、建築方面の人々も參考になる。

〔3〕住宅讀本 平尾善保氏著、昭和13年7月版、菊判562頁、索引128頁、日本電話建物株式會社出版部、3.5圓、本書は雜誌「朔」を毎月出して、住宅知識の普及をはかると共に、月賦式に多くの住宅を建築しつゝある日本電話建物株式會社の社長の著作である。氏は文筆に對してすぐれた腕の持主で、先きに「明朔雜談」といふ隨筆集を出されたことがある。又同社からは、先にすぐ役に立つ住宅建築とかいふ圖集本位の册子も出されたことがあつた。この住宅讀本は以前の圖集本位のものと全く異なり、住宅建築をあらゆる方面よりながめて、これに對する常識を平易に書きしめされたものである。

その内容は第1章家の變遷、第2章家を建てる迄の準備、第3章住宅の主體構造、第4章住宅の附隨構造其の他第5章木材と諸材料、第6章室内の設備、第7章門と塀と庭園の7章に分けて、かなり學問的に記述されてゐる。挿圖は 463圖の多きを入れ、この印刷はきはめて鮮明である。

讀者の層を一般大衆に置いてゐるとの事であるが、内容は建築專門的の處迄のべてあるので、建築學生等にも有益のやうである。本書を充分理解された主婦を持つ家の設計監督を依頼された建築家はよく行けばそれでよく、又うまく行かないと非常に仕事が困難になる位、この書は建築的に書かれてゐる。

通覽しての感じは、一般大衆を讀者層と豫定するなれば、今少し平面計劃を平面圖を入れて説明された方がよかつたのでないかと考へたりする。

附錄の索引もなかなかよく出來たもので、小建築辭書の役を充分はたし得るものである。

大阪人を關心に置いた本であるにかゝはらず、家相、鬼門方面に對しては全くふれてゐない。空襲と住宅、燃えない木造家屋等、明日への住宅建築への注意もある。雨漏りの注意等、極めて實際的で、有益な記事である。

特色ある住宅建築の書を建築文献に加へた事を喜ぶものである。

〔4〕家を建てる前に・(新選住宅圖譜)

岸本精氏編、昭和13年6月版、46判120頁、かぶと社、1圓、本書は第一相互住宅株式會社の出版物である。同社は住宅組合によつて給付建物を施工されてゐる。本書は主として同社の施工せる一般住宅貸住宅、アパート建築を始め、工場、事務所等の中、比較的小建築物を寫眞、平面圖を主にしてまとめられたものである。

内容は平家建住宅集、2階建住宅集、貸住宅集店舗付き住宅、アパート、工場、醫院の例、特殊建築物、附錄に分つて編されてゐる。目標は中産階級否3等乘客向きのものを主にされたので、鮮明なる寫眞と二立面の寫眞に加ふるに要領よき説明を配し、建坪、2階坪、工費を示されたもので家を建てゝみやうかといふ素人の人にはよき案内書である。

記事としては、小住宅平面の吟味と附錄に一般建築設計、施工についてと題して設計の參考要件設計の順序、施工請負設計料及請負金支拂方法、設計圖面、標準單價表、仕樣の概要等について述べられてゐる。平尾氏の「住宅讀本」とは讀者の層のねらひ處が聊か異るので、本書も住宅知識の普及ならびに住宅新築慾の欲望をそゝるには有意義の存在である。

本文全部アート紙を用ひ、寫眞ははつきりし、さつぱりした感じのよい本である。

會報

材料委員會（21回）

時　　11月4日午後7時—同9時
所　　建築材料陳列場別室
出席者　幹事　楠瀬、松久保
　　委員　秋田、小川、木野山、島田
　　常務　中西

研究事項

木材市場品寸法規格統一促進建議案に關する件

評議員會

昭和13年11月7日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す。

出席者左の通評議員22名

井上　福藏	伊藤　和夫	大下順三郎
加納　眞一	久保田種吉	楠瀬　徹
黒澤　研	鈴木　一幸	竹花　末春
武田　經一	棚橋　諒	中井新一郎
中澤誠一郎	中西　六郎	中野順次郎
伴野　貞三	平野　忠雄	扁知　秀夫
堀口　甚吉	松井清之助	三浦　茂
吉田　信武		

午後6時10分—同着席副會長中澤誠一郎氏議長となり只今評議員出席者41名即ち法定數に達したるを以て評議員會成立の旨を述べ直ちに開會を宣し議事に入る。

議案第6號　昭和14年度收支豫算の件

松井主計常務より各員に配付の原案に付詳細說明ありたる後質問に入る

久保田種吉氏より陳列場收入と同場所家賃との比較に付質問あり

松井主計より昭和14年度に於て大體現狀維持出來れば收入となる見込みの旨を述ぶ

棚橋諒氏より建築學研究の收入豫算に於ける13年度12月迄の見込金額に付き質問あり

松井主計より右は購讀料の收入にして既に大部分前金として收入濟につき同科目の金額少なき旨を述ぶ

他に質問者なく依つて議長裁決異議者なく可決す

議案第7號　會費滯納者處置に關する件

議長より會費滯納者の氏名は之を讀上ぐることを控へ此机上に置くを以て御覽を乞ふ旨を述べ回收に最善を盡したるも到底望みなく止むなく定款第14條により提案したる次第であると理由を說明し除名處分に附することに異議者なく可決す

議案第8號　常務、評議員辭退に付補缺に關する件

議長より常務、評議員山手研吾氏清水組九州支店に轉任の爲役員辭退の旨本日届出あり之が補選に付審議の爲緊急動議として提案したる旨を述べ前例に從ふ說多數あり議長は前例もあり年末改選期迄補選せざることに致しては如何と諮り異議者なく可決す

尙常務も缺員の儘補選せざることに決定す

次に議長より本評議員會議事錄の代表署名者に左の2氏を指名し承諾を得たり。

楠瀬　徹氏　　伴野　貞三氏

茲に於て議長より本日の評議員會は之にて閉づる旨を宣し散會す、時に午後6時50分。

常務會（第21回）

時　　11月7日午後5時40分—7時20分
所　　建築材料陳列場別室
出席者　理事　中澤副會長
　　常務　井上主記　伊藤主記
　　中西主記　鈴木主計
　　松井主計　三浦主計
　　堀口編輯　吉田編輯
　　棚橋編輯

議事

1 評議員並常務辭任申出の件
2 建築學會より申越に依る都市防空防火講演會に關する件
3 全國都市問題會議理事當選に關する件
4 大工資格檢定試驗登錄制度制定特別委員會設置の件
5 圖書寄贈方依賴の件
6 時事問題研究の件
7 會員詮衡

常　務　會（22回）

時　11月7日午後4時50分—5時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理　事　片岡會長　中澤副會長
監　事　清水監事　古塚監事
常　務　井下主記　伊藤主記
中西主記　三浦主計
堀口編輯　棚橋編輯

議　事
1 建築學會より建築關係團體第2回座談會開催に付出席方申越しの件
2 災害强度委員會より土留支保工實測寫眞代要求の件
3 都市問題會議出席報告並に謝禮に關する件
4 新評議員會開催日取決定の件
5 會員詮衡

報　告
1 11月例會終了報告
2 都市防空防火講演會準備報告
3 10月分會計報告

災害强度委員會（13回）

時　11月8日午後6時40分—同7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　渡部
委　員　淺野、矢田、益尾、河田

研究事項
1 土留支保工の內矢板に關する件
2 熔接手技倆檢定試驗方法比較實驗の件
3 浸水地域地圖雜誌揭載方に關する件
4 無筋コンクリートの實測に依る調査研究促進の件

設　備　委　員　會（12回）

時　11月8日午後6時30分—同8時
所　竹中工務店應接室
出席者　委員長　酒井
幹　事　伊東、增井
委　員　岩尾、岡本

研究事項
1 防毒室用の簡單なる換氣裝置研究の件
2 府市防空課研究公表の件

教　化　委　員　會（9回）

時　11月8日午後6時—同8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　永澤
幹　事　篠原
委　員　坂本、田中、中村、宮崎
1 大工徒弟資格試驗制度制定方上申に關する件
2 學校制度の研究の件
3 建築教育者に關する具體的研究の件
4 社會教化の件

法　制　委　員　會（14回）

時　11月9日午後6時30分—同7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　玉置
委　員　武田、錦田、平野、松村

協議事項
1 市街地建築物法令發行に關する件
2 建築法規1覽表發表の件

都市計畫委員會（15回）

時　11月17日午後6時—同9時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　鳥井
幹　事　龜井
委　員　中井、稗田、福知

研究事項
1 將來本委員會の活動に關する件
2 全國都市問題會議事務局理事當選通知の件

材　料　委　員　會（22回）

時　11月17日午後6時50分—同9時
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹　事　楠瀨、松久保
委　員　小川、木野山、道田

研究事項
1 建築材料の代用品發明考案展覽會開催方の件

災害强度小委員會（14回）

時　11月24日午後6時—同7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹　事　矢田
委　員　益尾、河田

研究事項

1 土留工法に關する件

通　常　總　會

昭和13年11月25日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て昭和13年度通常總會を開會す。

出席者左の通會員50名

阿部日出夫	大下順三郎	片岡　安
芝田　知重	井手　正雄	尾鼈清四郎
木野山照雄	島田　眞馨	井上　福藏
小川　陽吉	黒田　茂	清水　榮二
伊藤　甫	大海　將弘	久保　清盛
新名　種夫	石川純一郎	加田　安彦
久保田英雄	鈴木　孫市	伊藤　和夫
景山　正明	栗田　成計	田中　秀彦
飯田　賢次	龜井幸次郎	郎左谷陽充
竹腰　健造	浦　英之助	加納　眞一
島田　儀	中西　六郎	中野　吉爾
早野　英一	松井清之助	米倉　威夫
中島　喜平	平野　忠雄	宮崎　鐵一
藪中　一眞	長尾　清一	古塚　正治
三浦　茂	吉村　孝義	西村　信一
本田　長次	宮田　秀穗	羽原　德衛
堀内　三郎	矢田　鐵藏	（五十音順）

午後6時40分一同着席開會會長片岡安氏議長席につき只今出席者50名なるが定款により第2回の總會なる故定數に達せざるも効力あるにより之より開會の旨宣し直に議事に入る

1 監事2名の選擧

2 評議員半數改選並に補缺4名をも併せ行ふ旨述べ投票洩れなきやを議場に問ふ

投票するものなし、夫れでは締切ます異議なきやを問ふ、異議なしの聲あり

議長　夫れでは締切ます開票立會人を指名致しますから御指名の方は直に別室にて開票願ひます

開票立會人

監事	古塚　正治	常務	井上　福藏
常務	伊藤　和夫	會員	黒田　茂
會員	平野　忠雄	同	井手　正雄

以上に御願いたしますとて投票函と鍵を古塚監事に手渡す、立會人一同別室にて開票に着手す

議長　此間休憩すべきが正當でありますが時間の經濟上議事進行いたします、

第1號議案13年度事業報告をいたします

中西常務起立別表の通詳細報告す

議長　御質問等なきやを問ふ、質問する者なし

議長　質問がなければ御承認の事といたします

第2號議案12年度決算報告をいたします

松井常務起立別表の通詳細報告す

議長　御質問ありませんか、尚會計檢査の事など附言す

古塚監事起立詳細檢閲せる所先刻報告の通正確なることを證明す

議長　御質問がなければ御承認と認めます

議長　次に第3號議案12年度剩餘金處分に移ります松井常務起立別表の通提出理由說明す

議長　御意見なきやを問ふ、異議なしの聲あり

議長　御異議なき樣ですから御承認と認め議決いたします

議長　次に第4號議案14年度收支豫算案に移ります松井主計再び起立別表の通說明す（同常務は說明に先立ち事變の爲め協會が蒙る出品廣告料出征者免除會費等のことを述べ減收の爲め支出の方にも甚だしく削減の止むなきことを豫め御諒知ありたき旨述ぶ）夫より別表の通收支說明をなす

議長　非常時豫算の爲め種々苦心したる旨附言し質問なきやを問ふ

新名氏　建築學研究誌年4回を2回發行する樣說明は差支なきやを問ふ

松井主計　大體1册にて2回分即ちナンバーを2つとする意見答ふ

龜井氏　豫算の關係上止むなきことゝ思ひますが定款の變更にも關係あり又累を後に殘さぬ樣薄くしても4回發行しては如何

議長　御說御尤もなり之は豫算の立場より主計としての意見につき理事者としては出來る限り善處したき覺悟にて出來得れば收入の途を計り或は何等かの方法にて必ず4回發行することにいたしますから御承知乞ふ旨述べ皆樣の御協力を希望す

議長　如何ですか左樣のことにして別に質問がなければ之で御承認を得ましたことゝいたし度し異議なしの聲あり

別に御質問なき樣ですから第4號議案は之で御承認と認め議決いたします

議長　それでは本日の議事錄署名者として、矢田鐵藏氏、龜井幸次郎氏にお願ひいたします

次に之は開會の當初お願ひする筈でした本會員にて此度の事變にて名譽の戰死をなされた方が3人あります

櫃藤　貫　森本　三次　大内　重夫

右3氏に對し1分間の默禱を捧げ度いと思ひます、御起立を願ひます

一同起立1分間默禱す

議長　それでは開票終了迄暫時休憩いたします

——休　憩——

午後7時15分開票終了

竹腰副會長　再會を宣し議長席に着き片岡議長退出後に付代つて開票の結果を發表します

古塚監事開票立會の結果左の通報告

總投票數　1.026票

監事　513票　無効　10票の結果

當選　504票　山脇友三郎氏

同　503票　松本　儀八氏

次點　1票　小川安一郎氏

（以下略）

にて當選の旨述ぶ

次に評議員半數改選

總投票數　1.563票　無効　4票

此結果左記の通り

當選　88票 中野順次郎氏　85票 小笹　德藏氏
83票 岡本松太郎氏　80票 矢野　義夫氏
78票 石井　春雄氏　78票 棚橋　諒氏
77票 中井新一郎氏　76票 中島　喜平氏
76票 米倉　威夫氏　75票 龜井幸次郎氏
75票 小宮　賢一氏　75票 道田泰治郎氏
74票 黒田　茂氏　74票 巽　純一氏
74票 藪中　一眞氏　73票 岩尾　保衞氏
72票 石川純一郎氏　72票 猪瀬幸太郎氏
72票 桐本　楠雅氏　71票 飯田　賢次氏

次點　6票 井上　福藏氏　5票 加田　安彦氏
（以下略）

次に評議員補缺

總投票　2.020名　無効　16票

當選 491票 新名　種夫氏 487票 小林　清氏
484票 鈴木金太郎氏 482票 竹中　錬一氏

次點　2票 岩尾　保衞氏　2票 龜井幸次郎氏
2票 棚橋　諒氏　（以下略）

竹腰議長　只今御報告の通り當選決定いたしました之を以て本日の總會を終了いたします、一同拍手。時に午後7時20分

住宅委員會（13回）

時　11月28日午後6時30分—同8時30分

所　協會倶樂室

出席者　委員長　石川
幹事　矢田
委員　田中、中野

研究事項

1 住宅讀本出版に關する件

2 住宅讀本原稿謄寫刷費の件

本號執筆者紹介

（五十音順）

小野二郎	東京市建築課長
加藤善吉	堺市技師・堺市工務部技術課
城戸久	名古屋高等工業學校教授
小林清	住宅改良會「住宅」編輯主筆
白川泰	大阪市土木部公園課
新名種夫	大阪市經理部營繕課設計係長
菅陸二	兵庫縣建築課
鈴木忠五郎	大阪府立今宮職工學校教諭
田上善吉	新潟縣警察部保安課
棚橋諒	工學博士・京都帝國大學工學部助教授・本協會常務
鶴田勝	兵庫縣立工業學校教諭
中澤誠一郎	大阪府建築課長・本協會副會長
中野吉彌	大阪府警察部建築課
藤原義一	姫路市技師
古塚正治	古塚建築事務所主・本協會監事
水原旭	警視廳建築技師建築課
渡邊圭吾	株式會社大林組現業部長

12月號



編輯後記

★本號は例年の如く本年の回顧記事を各方面から得て最終を飾ることが出來た。年末煩忙の折にもかかはらず多くの寄稿を得たことは編輯係にとつて有難いことであつた。

★事變下の一年はまことに意義深い一年であつた。會員の中には第一線に於て聖戰に參加する者相當數に上りその中〇名の方は大陸建設の礎としてその生命を國家に捧げられたのである。

「身は國にさゝげはてけれ天かけりみたまはここにあり通ふらむ」花田比露志

感慨切なるものがある。

銃後に於て聖戰に參加したことは會員全體であつた。統制經濟の進行下に於ける建築にたづさはるもの全體の苦惱の後をたどることは痛々しいが、これこそ長期建設への第一步であつた

★「ギリシヤが偉大であつたのは彼が征服した事によるか、彼が製作したものによるか。」反戰的な意味で モウパツサンは「水の上」に書いて居るが、我等はそれを反戰的な意味を全く混へないでその言葉を長期建設に對して餞とする。我々は青史に名を止むる大事業をつまりたつた今始めたばかりなのである。

★協會は經濟的には色々の惱みを惱んだが本年も淺々として發展した。會員全體に對する强靱な紐帶としての「建築と社會」。雜誌が雜誌としての使命を十二分に果し得るやうに會員の方々の協力をお願する。

★「建築學研究」の第91號も本年末會員諸氏の手許に届く筈である。本號は阪大小谷助敎授の鎔量根風壓の實驗——我國に於て初めて行はれた新しい實驗——の報告、鈴木忠五郎氏の鍛の研究——珍らしい興味ある讀物である。——中澤誠一郎氏他による「京都街劃調査報告」——都市の防火對策に貴重な資料——の三篇を內容とする。會員以外好學の士とも建築協會あて申込んで頂けば、一部50錢でお頒ちする。

御吹聽を願ふ。

★新しい年の編輯常務は近く決定し、編輯幹事も亦新陣容を整へる筈である。 （棚橋生）

建築と社會

第21輯 第12號

毎月1回1日發行 定價 1册 50錢（郵稅3錢） 12册 6圓（〃 36錢）

昭和13年11月25日印刷 昭和13年12月1日發行

發行・編輯 印刷人 小板常男 大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所 プラトン印刷社 大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所 財團法人 日本建築協會 大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル 電話長北濱(23)4501番(9) 振替口座大阪39975番

特約販賣店 柳々堂書店 大阪市西區京町堀羽子板橋西 電話土佐堀2440番 振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	½頁	1回	8,00
普通（前扉第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前扉第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後扉第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築電氣設備案內）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割増、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第21輯第12號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……12
浅野スレート株式會社……15
エ　榮進社……26
英進商會……7
荏原製作所……29
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……25
岡田建材店……22
大野製作所……表紙 2
奥村重兵衛商店……24
カ　關城化學工業株式會社大阪營業所……表紙 4
キ　桐田商會……19
ク　久保商店……20
コ　後藤商店……22
サ　佐久間工業株式會社……18
坂田ベンチレーター製作所……6
ス　須賀商會……27
セ　政正合資會社……9
清光社……4
タ　田島應用化工株式會社……30
大洋組……1
田中昌司商店……9
ト　東京電氣株式會社……21
東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
ナ　南滿鑛業建材合資會社……16
内外土木建築材料合資會社……25
ニ　日本機械工業株式會社……28
日本金具株式會社……中挿
日本建築紙工株式會社……7
日本放熱器商會大阪支店……13
日本陶織社……4
日東物産株式會社……14
西原衛生工業所……10
西孫南店建築金物部……5
西村福治商店……6
ノ　野澤幸三郎商店……23
ヒ　平松釣戸車製造所……11
マ　松井商店……11
松下電器株式會社コンヂット部……3
ミ　三井物産株式會社……8
ヤ　矢橋大理石商店……5
ヨ　横河橋梁製作所……17
米本商店……20
ラ　ライトラバー工業合資會社……2
レ　玲光社(木内嶺太郎)……16